佐久市文化財

年報 9

平成11年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市文化財

年　報　9

平成11年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市斜め航空写真（南から）

巻頭一

佐久市文化財課航空写真

跡部儘田遺跡・跡部町田遺跡Ⅱ航空写真（北から）

巻頭四

跡部町田遺跡Ⅱ住居址全景（南から）

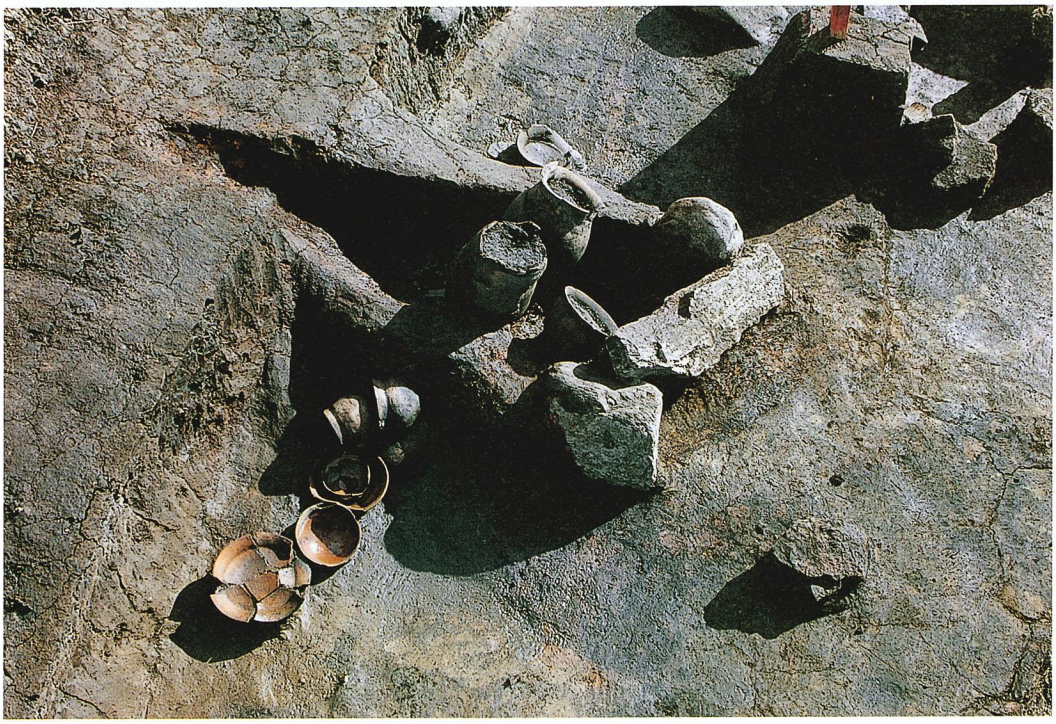
跡部町田遺跡Ⅱ住居址遺物出土状況

跡部儘田遺跡H23号住居址全景

跡部儘田遺跡H23号住居址カマド煙道（西から）

巻頭六

樋村遺跡群樋村遺跡Ⅱ全景（西から）



樋村遺跡群樋村遺跡ⅡＨ４号住居址カマド

枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅲ・Ⅳ航空写真（東から）

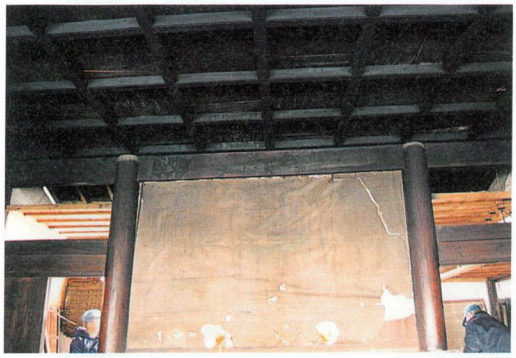
枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅲ・Ⅳ垂直写真

長土呂遺跡群下聖端遺跡Ⅳ航空写真

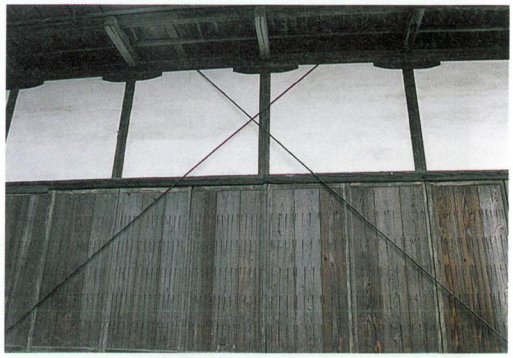
長土呂遺跡群下聖端遺跡Ⅳ垂直写真

薬師寺本堂正面（南から）

薬師寺本堂屋根（北東から）



薬師寺内陣北側主柱・格子天井

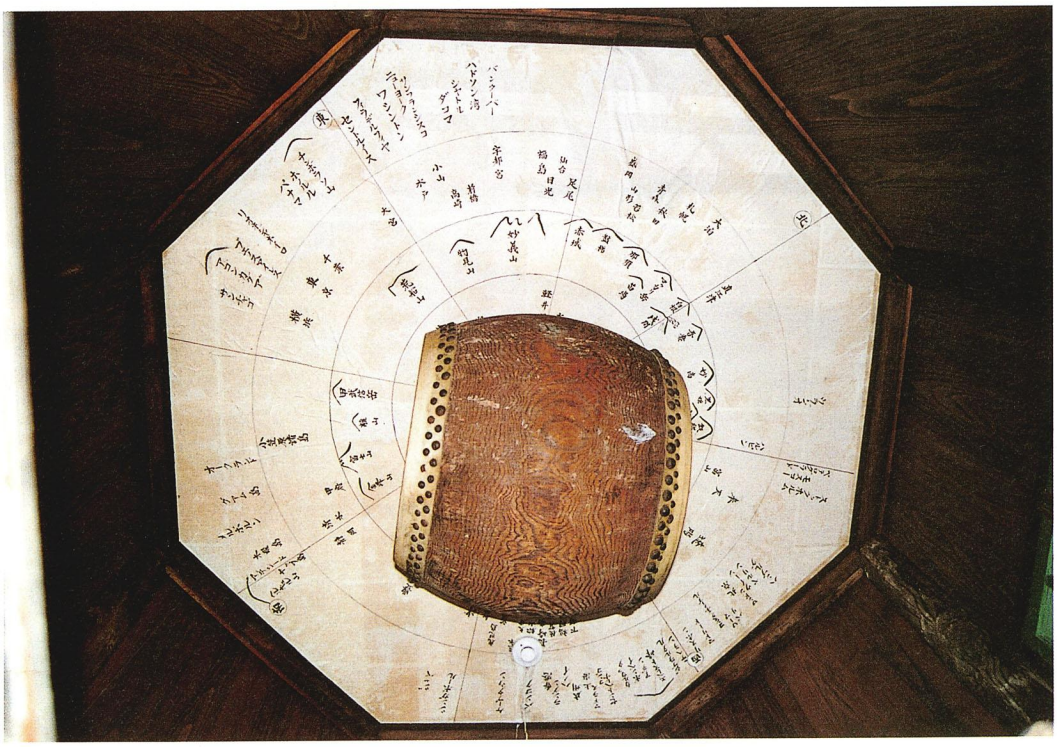


薬師寺本堂西側壁

薬師寺礎石全景（南から）

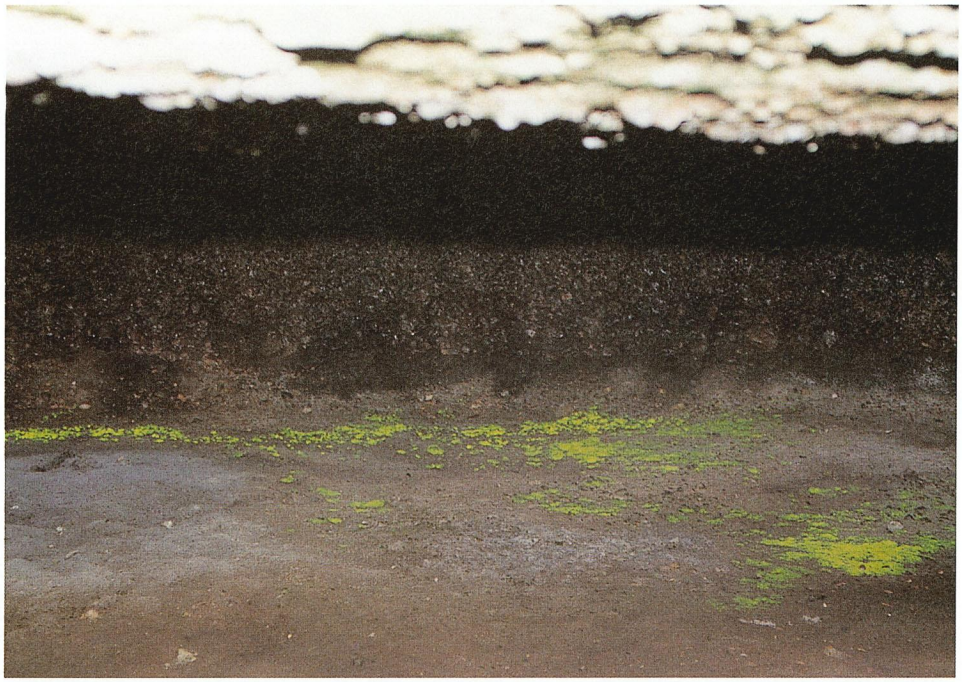
重要文化財　旧中込学校

旧中込学校　教場



旧中込学校　太鼓楼

巻頭十二



天然記念物　岩村田ヒカリゴケ

無形民俗文化財　跡部の踊り念仏

目　　次

Ⅰ 組　織 …… 1

Ⅱ 埋蔵文化財事業

1．体　制…… 1
2．調査事業費…… 3
3．保護・保存事業…… 3
（1）現状及び保護・保存事業…… 3
（2）記録保存…… 3
1）概要…… 3
2）発掘調査・整理作業…… 3
3）整理作業…… 5
4）試掘・立会調査…… 5
4．普及・公開事業…… 7
（1）第20回少年考古学教室…… 7
（2）埋蔵文化財資料展示室利用状況…… 8
5．分析・鑑定…… 8
6．刊行図書…… 8
7．調査概要…… 9
1．野沢館跡薬師寺遺跡……10
2．樋村遺跡群樋村遺跡Ⅱ……12
3．畳石遺跡……15
4．深堀遺跡Ⅲ他……16
5．戸坂遺跡群四ツ塚遺跡Ⅱ……19
6．長土呂遺跡群下聖端遺跡Ⅳ……22
7．周防畑遺跡群入高山遺跡……24
8．三千束遺跡群宮添遺跡……27
9．枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅲ・Ⅳ……30
10．跡部儘田遺跡・跡部町田遺跡Ⅱ……33
11．新海坂遺跡群新海坂遺跡……40
12．村上遺跡群村上遺跡……43
13．枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅲ……46
14．周防畑遺跡群辻の前遺跡・中仲田遺跡…48
15．芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅶ……49
16．中道遺跡Ⅱ……51
8．岩村田遺跡群　菅田遺跡Ⅴ調査報告書……55
9．根々井大塚古墳調査報告書…… 107

Ⅲ 一般文化財事業

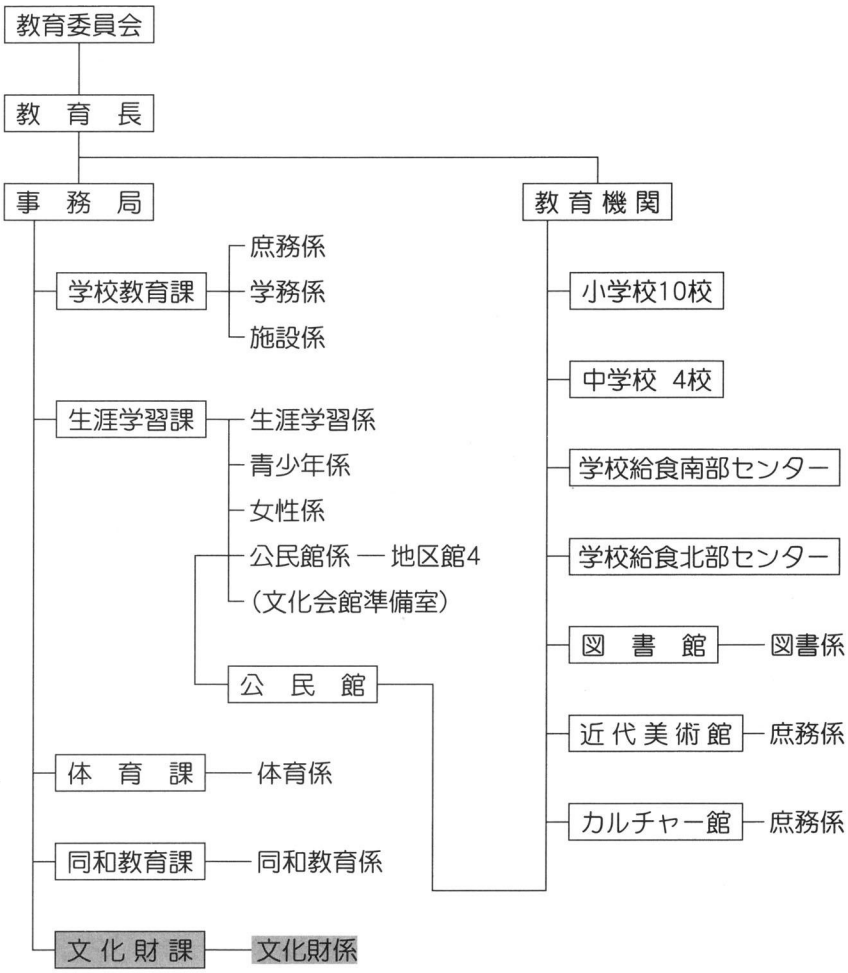
1．体　制…… 123
2．調査事業費…… 123
3．国・県・市指定文化財…… 123
4．普及・公開事業…… 128

Ⅳ 庶務日誌 …… 128

Ⅴ 施　設 …… 130

平成11年４月

Ⅰ　組　　織



Ⅱ　埋蔵文化財事業

1　体　制

佐久市教育委員会　文化財課

教　　育　　長　　依田　英夫

教　育　次　長　　小林　宏三

文化財課長　　草間　芳行

文化財係長	荻原　一馬
文化財係	林　幸彦　須藤　隆司　小林　眞寿　羽毛田卓也 冨沢　一明　上原　学　山本　秀典　出澤　力
調査主任	佐々木宗昭　森泉かよ子
調査副主任	堺　益子
調査員	浅沼ノブ江、阿部　和人、荒井　利男、荒井ふみ子、石川　槇子、井出　惺永、井出　麻紀、井出　求、井上　行雄、岩崎　重子、岩下　吉代、岩下　友子、岩下　文子、上原　幸子、碓氷　英之、内堀　団、梅沢　淳子、江原　富子、遠藤しずか、大井みつる、荻原千鶴子、小田川　栄、小野沢健二、小幡　弘子、柏木　貞夫、柏木　三郎、柏木　義雄、柏原　松枝、川田アヤ子、木内　明美、木内　節夫、菊池　喜重、菊池　康一、倉見　渡、幸崎　真理、神津ツネヨ、小金沢たけみ、小須田サクエ、小林喜久子、小林　幸子、小林　立江、小林　淳子、小林　妙子、小林　裕、小林まさ子、小林百合子、小林よしみ、小山　功、小山　正吉、小山　澄江、桜井　牧子、齋藤　真理、佐久本真樹子、桜井　聖仁、佐々木　正、佐々木久子、佐藤　愛子、佐藤　剛、佐藤志げ子、沢井　皐月、清水佐知子、篠崎　清一、島田　幹子、須藤　瑞穂、関口　正、副島　充子、大工原きく江、高橋サチコ、高橋　敬子、田中　章雄、田中　久子、茅野　香子、角田すず子、角田トミエ、東城　友子、東城　幸子、伴野　寿夫、樋田　咲江、中嶌武三郎、中嶋　照夫、中島とも子、中嶋フクジ、中嶋　良造、中條　悦子、並木ことみ、成澤　冨子、橋詰　勝子、橋詰けさよ、橋詰　信子、花岡美津子、花里香代子、花里四之助、花里三佐子、花里八重子、林　美智子、林　幸男、比田井久美子、平林　泰、細萱ミスズ、細谷　秀子、堀籠　滋子、堀篭　因、堀籠みさと、真嶋　保子、増野　深志、水間　雅義、宮川百合子、武者　幸彦、森角　雅子、山浦　豊子、山崎　直、山村　容子、柳沢　孝子、柳澤千賀子、依田　みち、若林　希、和久井義雄、渡邊久美子、渡辺　倍男、今井　勇一、工藤　史絵、工藤　知絵、高橋　陽一、土屋　千浩、中嶋　智広、中島　里佳、細萱　健二

2　調査事業費

平成11年度埋蔵文化財事業費　　予　算　額　261,816,000円
決　算　額　261,710,619円
受託事業費　141,823,000円

3　保護・保存事業

（1）現状及び指定保護・保存

なし

（2）記録保存

1）概　要

開発原因者		調査実施数					報告書刊行
		発掘	試掘	立会	整理	計	
国県市等	国・県補助						1
	長野県土地開発公社				1	1	
	佐久建設事務所	2	1	3	2	8	
	長野県土地改良課	1				1	
	佐久市土地開発公社	2	1		4	7	2
	佐久市	8	5	1	1	15	1
個人・民間企業		4	24	2	1	31	3
合計		17	31	6	9	63	7
原因者負担		17	2	12	9	40	6
国・県補助			29				1

2）発掘調査・整理作業

No.	遺跡名 調査面積	所在地 事業	備考
1	野沢館跡　薬師寺遺跡 1,399.15㎡	佐久市大字野沢 本堂改築事業	近世寺院の調査　中世～近世の遺物出土 佐久市埋蔵文化財調査報告書第81集

2	樋村遺跡群　樋村遺跡 II 6,880㎡	佐久市大字平賀 国補道路改良事業	住居址29、掘立柱建物址 6 、土坑 1 溝状遺構 1
3	畳石遺跡 5,000㎡	佐久市大字駒込 県道改良事業（駒込バイパス）	住居址 2 、掘立柱建物址 1 、土坑 1 溝址 2
4	深堀遺跡 III 他 47,000㎡	佐久市大字瀬戸 農村活性化住環境整備事業	住居址、古墳跡
5	戸坂遺跡群　四ツ塚遺跡 II 320㎡	佐久市大字新子田 道路改良	住居址 2 、掘立柱建物址 1 佐久市埋蔵文化財調査報告書第80集
6	長土呂遺跡群　下聖端遺跡IV 2,846㎡	佐久市大字長土呂 宅地造成事業	住居址 7 、掘立柱建物址19、土坑 2 、溝 1 佐久市埋蔵文化財調査報告書第83集
7	周防畑遺跡群　入高山遺跡 2,724㎡	佐久市大字長土呂 工場建設事業	住居址 8 、掘立柱建物址 8 、溝跡 3 円形周溝
8	三千束遺跡群　宮添遺跡 605㎡	佐久市大字三塚 事務所建設事業	住居址 4 、竪穴状遺構 2 、土坑 3
9	円正坊遺跡 III ・ IV 9,600㎡	佐久市大字岩村田 代替地造成工事	住居址18、掘立柱建物址16 円形周溝 8 、溝 3
10	跡部・儘田遺跡、町田遺跡 II 18,609.5㎡	佐久市大字跡部 県道改良事業	住居址74、掘立柱建物址 5 、鍛冶址 1 畑址
11	新海坂遺跡群　新海坂遺跡 800㎡	佐久市大字根岸字新海坂 市道改良事業（沓沢）	住居址 6
12	村上遺跡群　村上遺跡 400㎡	佐久市大字根岸字村上 市道改良事業（沓沢）	住居址 1 、縄文時代の包含層
13	枇杷坂遺跡群 直路遺跡 III・IV 316㎡	佐久市大字長土呂・岩村田 佐久平駅周辺土地区画整理	住居址 3 、掘立柱建物址 1 、土坑 2 方形周溝 1 、円形周溝 1
14	周防畑遺跡群辻の前・中仲田遺跡 20,000㎡	佐久市大字長土呂 佐久平駅周辺土地区画整理	住居址15、土坑36、竪穴状遺構 1 溝跡 5 、ピット
15	芝宮遺跡群　下曽根遺跡VII 1,050㎡	佐久市大字小田井 市道改良事業（曽根線）	住居址13、掘立柱建物址 8 、土坑 2 溝址 1
16	中道遺跡 II 1,400㎡	佐久市大字前山 市営住宅建設（泉団地）	住居址 3 、溝址 1 、弥生～平安包含層

3）整理作業

No.	遺　跡　名	所　在　地 事　業	備　考
1	榛名平遺跡	佐久市大字根岸 厚生年金福祉施設建設事業	平成５・６年度調査
2	中原遺跡群　梨の木遺跡Ⅲ	佐久市大字原 R 141バイパス(権現堂～ TDK)	平成８年度調査
3	西一・松・中長塚遺跡	佐久市大字岩村田 R 141バイパス(一本柳～浅間中)	平成８年度調査
4	蛇塚遺跡・蛇塚古墳	佐久市大字安原 住宅団地造成事業	平成６・８年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第78集
5	長土呂遺跡群　聖原遺跡	佐久市大字長土呂 佐久流通業務団地造成事業	平成元年～平成７年度調査
6	大和田遺跡群　川原端遺跡	佐久市大字大和田 住宅団地造成事業	平成８年度調査
7	岩村田遺跡群　柳堂遺跡	佐久市大字岩村田 子ども未来館建設関連事業	平成10年度調査
8	番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅲ	佐久市大字猿久保 店舗建設事業	平成10年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第77集
9	戸坂遺跡群　四ツ塚遺跡Ⅰ	佐久市大字新子田 老人福祉拠点整備関連事業	平成10年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第79集

4）試掘・立会い調査

No.	遺　跡　名	所　在　地	開発面積(㎡)	調査期間	調査方法
1	戸坂遺跡群四ツ塚遺跡Ⅱ	佐久市大字新子田	1,017.50	H11. 4. 15	試掘
2	宮の前遺跡１（隣接）	佐久市大字塚原	755.00	H11. 5. 25	試掘
3	周防畑遺跡群６（隣接）	佐久市大字長土呂	1,127.00	H11. 6. 24	試掘
4	円正坊遺跡Ⅴ	佐久市大字岩村田	69.00	H11. 6. 28 ～ 7. 7	試掘
5	金山遺跡３（隣接）	佐久市大字野沢	11,773.00	H11. 7. 5 ～ 7. 10	試掘
6	跡坂遺跡群７	佐久市大字小田井	115.00	H 11. 7. 23	試掘
7	岩村田遺跡群23	佐久市大字岩村田	1,429.00	H 11. 7. 28	試掘
8	一本柳遺跡群８	佐久市大字岩村田	728.00	H 11. 7. 29	試掘

No.	遺　跡　名	所　在　地	開発面積(㎡)	調査期間	調査方法
9	中原遺跡群22	佐久市大字中込	1,302.00	H11. 8. 23	試掘
10	猿久保屋敷添遺跡４	佐久市大字猿久保	1,733.22	H11. 8. 27	試掘
11	枇杷坂遺跡群16	佐久市大字長土呂	2,171.00	H11. 8. 31　9. 1・14	試掘
12	樋村遺跡群１	佐久市大字平賀	2,467.69	H11. 10. 22・23	試掘
13	周防畑遺跡群７	佐久市大字長土呂	2,724.00	H11. 10. 25 ～ 27	試掘
14	三千束遺跡群２	佐久市大字三塚	500.00	H11. 10. 28・29・30	試掘
15	中原遺跡群23	佐久市大字中込	2,815.00	H11. 11. 19	試掘
16	西浦遺跡群２	佐久市大字本新町	1,448.00	H11. 11. 24・25	試掘
17	吹付遺跡１	佐久市大字香坂	339.70	H11. 12. 8・9・10	試掘
18	岩村田遺跡群24	佐久市大字岩村田	3,887.14	H11. 11. 8・10・13 ～ 16	試掘
19	西近津遺跡群３	佐久市大字長土呂	1,117.00	H11. 12. 21	試掘
20	周防畑遺跡群８	佐久市大字長土呂	13,927.44	H11. 11. 8 ～ 26	試掘
21	中西ノ久保遺跡群２	佐久市大字岩村田	754.00	H11. 11. 16 ～ 20	試掘
22	西赤座遺跡10	佐久市大字岩村田	1,212.91	H11. 11. 30	試掘
23	東五里田遺跡３	佐久市大字野沢	86.53	H12. 2. 1	試掘
24	松の木遺跡２（隣接）	佐久市大字岩村田	86.53	H12. 2. 9	試掘
25	周防畑遺跡群９	佐久市大字長土呂	582.00	H12. 2. 16	試掘
26	未周知	佐久市大字中込	2,800.00	H12. 2. 23	試掘
27	枇杷坂遺跡群17	佐久市大字岩村田	266.00	H12. 2. 17	試掘
28	尼塚遺跡２	佐久市大字鳴瀬	688.00	H12. 3. 21・22	試掘
29	周防畑遺跡群10	佐久市大字長土呂	200.00	H12. 3. 23	試掘
30	上の木戸遺跡１	佐久市大字志賀	6,400.00	H12. 3. 17 ～ 24	試掘
31	未周知	佐久市大字前山	675.00	H11.7.10 ～ 12 3.8 ～ 22	試掘
32	野沢館跡５	佐久市大字原	25.20	H11. 8. 19	立会
33	深堀遺跡群４	佐久市大字瀬戸	234.00	H11. 8. 23	立会
34	館ケ沢Ａ遺跡１	佐久市大字内山	2,876.83	H11. 10. 8	立会
35	一本松砦跡１（隣接）	佐久市大字常和	340.00	H11. 10. 20	立会
36	栗毛坂遺跡群18	佐久市大字岩村田	270.00	H11. 11. 17・18	立会
37	新町遺跡７	佐久市大字中込	255.00	H12. 2. 28	立会

4　普及・公開事業

（1）　第20回少年考古学教室

開催遺跡　　跡部儘田遺跡

開　催　日　　平成11年８月４日～６日

対象・参加者　　市内小中学校生徒・138名

内　　容　　講話「佐久地方における発掘調査の成果」

実　　技　　古代竪穴住居址の発掘調査

見　　学　　奈良から平安時代の竪穴住居址等

（2） 埋蔵文化財資料展示室利用状況

入室者数　　203名

5　分析・鑑定

（1）榛名平遺跡

木製品保存処理　（株）東都文化財保存研究所

木製品鑑定・分析　（株）古環境研究所

（2）番屋前遺跡Ⅲ

鉄製品保存処理　（財）元興寺文化財研究所

（3）川原端遺跡

獣骨鑑定　日本ほ乳類学会　宮崎重雄氏

（4）蛇塚古墳

人骨鑑定　聖マリアンナ医科大学　平田和明教授

（5）跡部儘田遺跡

製鉄関係遺構熱残留磁気年代測定　島根大学　時枝克安教授

6　刊行図書

第77集　『番屋前遺跡Ⅲ』

第78集　『蛇塚遺跡・蛇塚古墳』

第79集　『四ツ塚遺跡Ⅰ』

第80集　『四ツ塚遺跡Ⅱ』

第81集　『薬師寺遺跡』

第82集　『市内遺跡発掘調査報告書1998』

第83集　『下聖端遺跡Ⅳ』

佐久市埋蔵文化財　年報　8　平成10年度

7　調査概要

樋村遺跡群樋村遺跡ⅡＨ４号住居址カマド

三千束遺跡群宮添遺跡土坑遺物出土状況

1　野沢館跡　薬師寺遺跡

所　在　地　佐久市大字原屋敷467

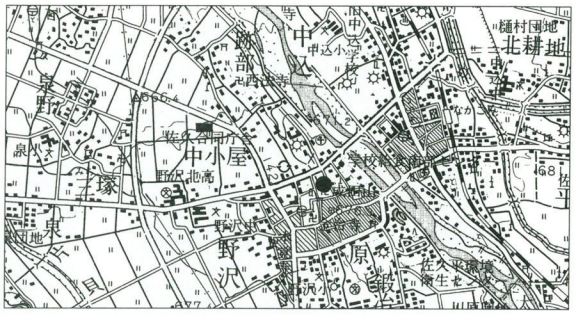
調査委託者　宗教法人　薬師寺

開発事業名　本堂改築工事

調 査 期 間　平成11年４月１日～４月30日

調 査 面 積　1399.15㎡

調査担当者　羽毛田卓也



薬師寺遺跡位置図（1:50,000）

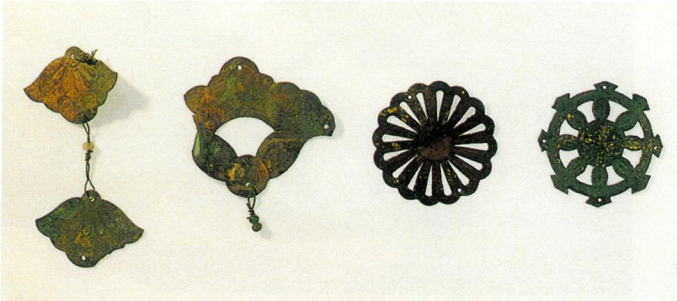
経過と立地

野沢館跡は、佐久市大字野沢・原に所在する平安時代末期から中世にかけての居館址である。本館跡は平成３年度に試掘調査され、中世の土坑・柱穴址・石組遺構などが検出されている。今回調査した薬師寺遺跡は、本館跡の中央東端の標高674m内外を測る千曲川により形成された低段丘東端に位置する。今回宗教法人薬師寺が行う本堂改築工事に伴い、佐久市教育委員会と協議の結果、試掘調査を行うこととなった。その結果、対象地全体に中世から近世にかけての遺構と遺物包含層が広がっていることが判明し、再度両者協議の結果、基礎工事により破壊される地下0.8ｍまでを緊急に発掘調査し、それ以下については保存する運びとなった。

調査概要

現存する薬師寺本堂は江戸時代中期前半の建造で、佐久市内においては貴重な寺院建築である。そのため取り壊しの前に、平面図の作成や、可能な限りの遺物の収集を行った。礎石を露出させ図面を作成後、基礎面の掘下げを行った結果、40cm 下方より小規模な堂の礎石が部分的に発見された。さらに掘下げを行った結果、中世の池の面に到達した。基壇構築当時、池はまだ存在しており、千曲川の川原石や砂で埋め立てながら嵩を上げて、叩き占めながら構築していた。中世池面や構築土からは中世の多量の遺物が出土した。

遺物は中世から現代にいたる陶磁器や銭貨・仏具・石製品・金属製品など多量に出土した。中世の遺物は土鍋や陶磁器・古銭のほか、石すり鉢・五輪塔部材・石灯篭部材など多種多様であった。近世では本堂再建時に地鎮として埋納されたと推定される四匁豆板銀が内陣主柱礎石の脇から出土した。

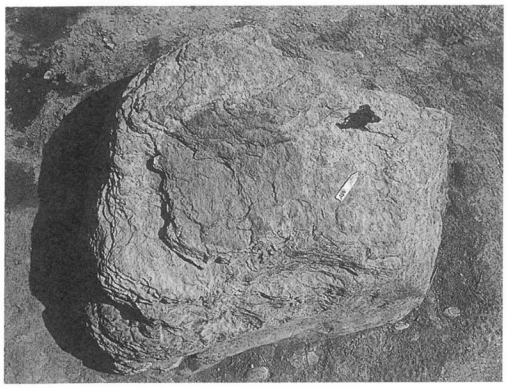


薬師寺遺跡出土金銅製品（幡部品）

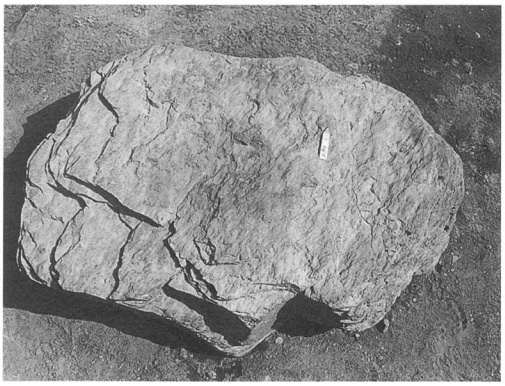
調査風景

ＦⅣ区掘下状況（南から）

ＦⅢ区掘下状況（南から）



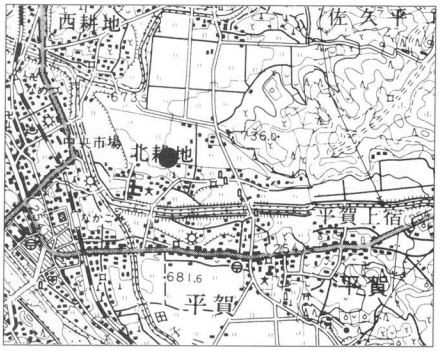
内陣北側主柱礎石（Ｓ88）



内陣北側主柱礎石（Ｓ90）

2　樋村遺跡群　樋村遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字平賀字樋村2704－1外４筆
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　道路改良
調 査 期 間　平成11年９月28日～平成12年３月31日
調 査 面 積　6,880㎡
調査担当者　上原　　学



樋村遺跡Ⅱ位置図（1:50,000）

経過と立地

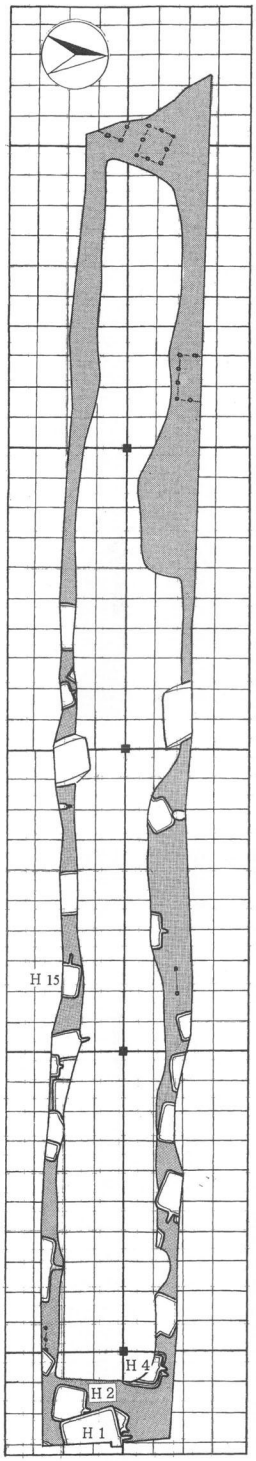
樋村遺跡は、千曲川右岸の平賀地積にあり、広く水田として利用されている地域に展開する。遺跡周辺では昭和49年に遺跡の東、後家山丘陵西端に所在する後家山古墳の調査が行われ、側壁最下段の石材及びかまち石、礫床が検出された。遺物は切子玉・管玉・ガラス小玉・臼玉・鉄族・直刀片・刀子・土師器・須恵器などが出土した。また昭和57・58年度には、今回調査区の南に接する地域において、土地改良事業に伴う樋村遺跡の調査が行われ、水田下より弥生時代から平安時代に至る住居址約300軒が調査されている。

今回、佐久建設事務所による道路改良事業が行われることとなり、遺跡の記録保存を目的として、佐久建設事務所から委託を受けた佐久市教育委員会が主体となり発掘調査を行う運びとなった。

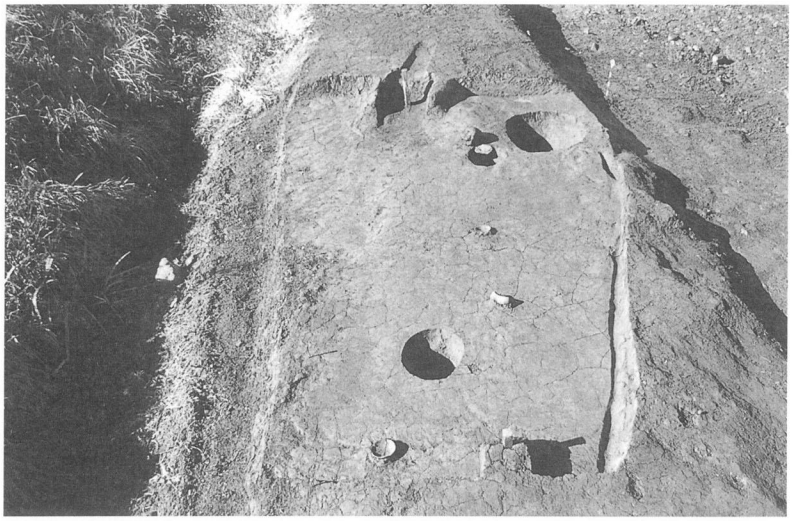
調査概要

調査の結果、調査区内は縁辺部を残し中央部の大半が土取りされており、遺構の多くはすでに破壊されていた。しかし、残存部からは、古墳時代後期を中心とした住居址29軒、掘立柱建物址６棟、溝状遺構1条、土坑１基が一部破壊されながらも確認することができた。これらの遺構は、地山が強粘性であることからいずれも安定した壁面を持ち、カマドの残存状況も良好であった。また、住居址の中には、カマド周辺に多数の土器が当時のままと考えられる状態で出土した例も認められ、当時の生活を考える上で貴重な資料である。

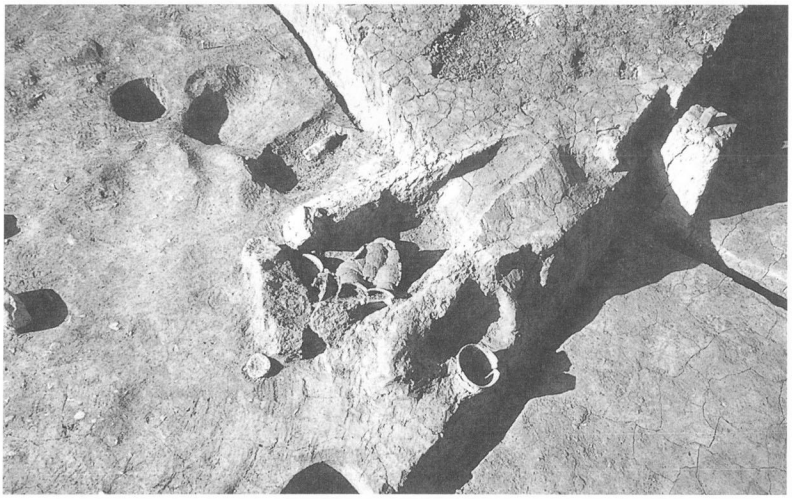
樋村遺跡Ⅱ航空写真（東から）



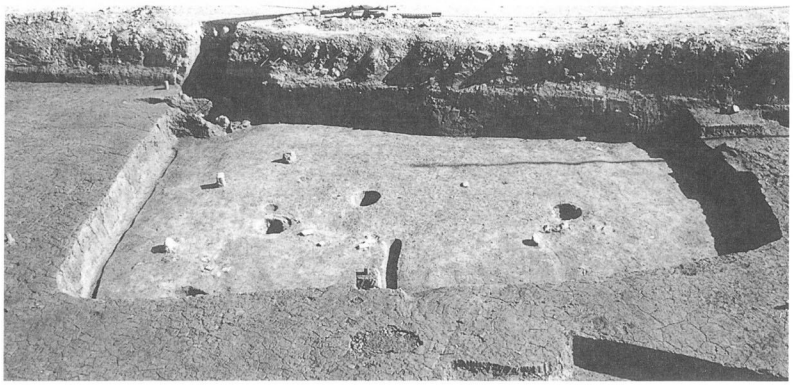
樋村遺跡Ⅱ調査全体図
(1:1,000)



西カマドを持つH15号住居址全景（東から）



H２号住居址カマド（南から）



H１号住居址全景（西から）

Ｈ４号住居址全景（南から）

Ｈ４号住居址カマド左遺物出土状況

3　畳石遺跡

所　在　地　佐久市大字駒込1883外

調査委託者　佐久建設事務所

開発事業名　緊急地方道整備事業

調 査 期 間　平成11年８月３日～平成12年３月31日

調 査 面 積　5,000㎡

調査担当者　小林　眞寿　　出澤　　力

畳石遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

畳石遺跡は笠原城跡から志賀川に南向きに傾斜する、山の尾根間の緩傾斜面に位置し、標高800ｍ内外を測る。当該事業に関わる調査は平成８年の試掘調査に続き、平成９年に地ケ入遺跡、地ケ入遺跡Ⅱが実施され、平安時代と中世の遺構や縄文～中世の遺物が出土している。今回の調査地点は、地ケ入遺跡Ⅱと小河川による沢を挟んだ東方に位置する。

調査概要

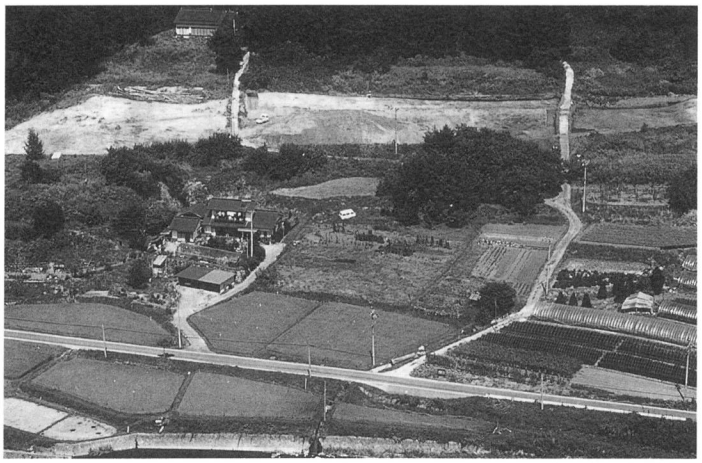
検出された遺構・遺物は以下のとおりである。

◎遺　　構

竪穴住居址	２軒（平安時代）
土　　坑	１基
溝　　址	２条
近世の鳥居台座	１

◎遺物

土師器



遺跡遠景

4　深堀Ⅲ

所　在　地　佐久市大字瀬戸字深堀1310外

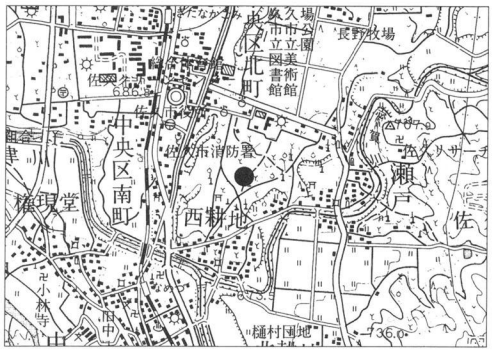
調査委託者　佐久地方事務所

開発事業名　県営農村活性化住環境整備事業

調 査 期 間　平成11年４月26日～平成12年１月25日

調 査 面 積　47,000㎡

調査担当者　小林　眞寿　　出澤　　力



深堀Ⅲ位置図（1:50,000）

経過と立地

深堀遺跡群は佐久市大字瀬戸に所在し、東方を志賀川、西方を田切谷に挟まれた台地上に展開する複数の遺跡により構成され、標高670～690ｍを測る。また、東千石平遺跡群は志賀川により形成された、深堀遺跡群南隣の河岸段丘上に展開し、標高は670ｍ内外を測る。

両遺跡群内において佐久地方事務所による瀬戸原農村活性化住環境整備事業が計画されたため、平成９年度の試掘調査と平成10年度試掘調査及び深堀Ⅰ・Ⅱの調査に継続して、平成11年度も調査を行った。

調査概要

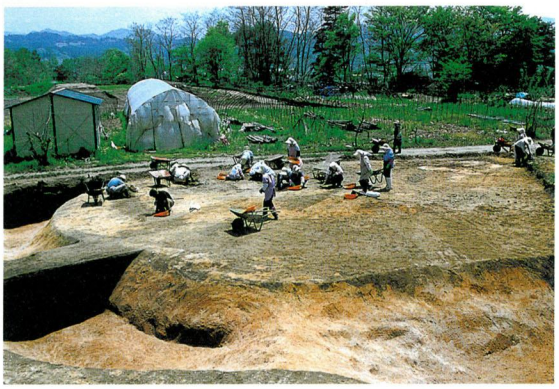
主な調査遺構としては、中世城郭である八反田城を区画する最も外側の堀址が調査された。この堀より外側に堀址が存在しないことは、今回の一連の調査により明らかとなっており、八反田城の範囲が確定された。しかし、遺物はほとんど出土しなかったため、年代を考察する資料は提供できなかった。狐塚古墳群の350－４号墳と350－５号墳の調査では、２基ともに石室は昭和初期に石材を農業用水路に転用した際破壊されていることが判明した。特に350－５号墳は、近年においても土地の所有者により塵の捨て場所としての掘削を頻繁に受けほぼ消滅していた。350－５号墳が存在した地点には、円形の平面プランを呈する周溝の可能性を有する溝址が検出されたが、内部から土器の出土は認められず、深さも最深部では２ｍに及び、更に底面には段差が形成され、これに連動して平面プランも多数の括れ部を有するため、現時点ではこの溝址が350－５号墳の周溝とは判断しかねている。しかし、玉類や馬具金具と思われる鉄製品が出土していることから古墳が存在したことは疑う余地はない。一方350－４号墳は石室こそ存在しないものの周溝や、マウンドの一部が残存していた。年代的には２基ともに僅かに出土した土器と地元の古老の話を総合すると７世紀代の横穴式石室古墳と考えられる。佐久地方の弥生時代中期の土器編年において、最古段階の土器が出土した昭和40年調査と同時期の集落址も検出され、数軒の住居

址が調査された。古墳から平安時代の集落址は、広大な台地上における分布が大まかに把握された。また、無数に走る溝址の経路も過去に例がないほどに広範囲に及び把握されたものもある。内容が不明であった東千石平遺跡群からは奈良～平安にかけての極めて多量の土器と、帯金具などとともに同時期の集落址が確認された。

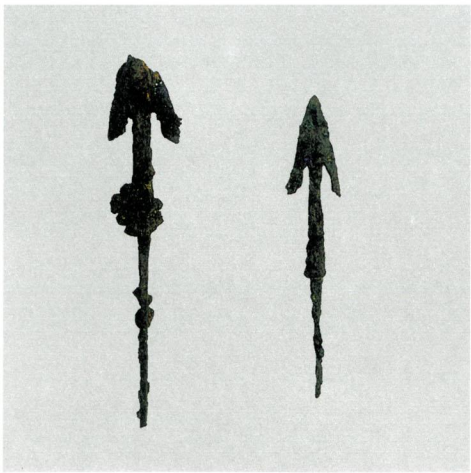
八反田城堀址

弥生中期の住居址

東千石平全景（北から）



出土鉄器　上－鎌・下－刀子

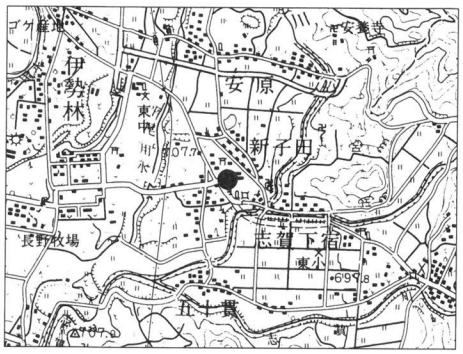


出土鉄器　鏃

深堀Ⅲ全景（西から）

5　戸坂遺跡群　四ツ塚遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字新子田字供養塚841-3外8筆
調査委託者　佐久市土地開発公社
開発事業名　市道改良
調 査 期 間　平成11年6月8日～6月11日
調 査 面 積　320㎡
調査担当者　森泉かよ子

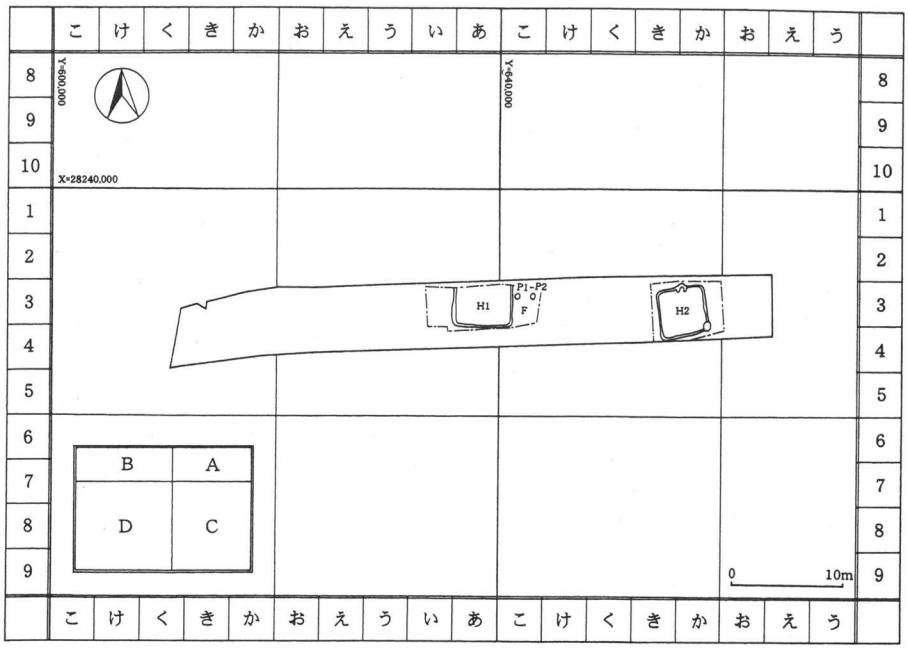


四ツ塚遺跡Ⅱ位置図（1:50,000）

経過と立地

戸坂遺跡群は、佐久市岩村田市街地の東1.5kmの新子田地積に展開し、標高704m内外の台地上に位置する。調査区は遺跡群中央のやや東にあり、北には奈良時代の住居址2軒を検出した供養塚遺跡、東には奈良時代の住居址5軒及び古墳跡1基等が検出された四ツ塚遺跡Ⅰが存在する。

今回、佐久市土地開発公社による市道改良事業が行われることとなり、平成11年4月に試掘調査を行った。その結果、竪穴住居址の存在が確認されたため、遺構の記録保存を目的として本調査を行う運びとなった。



四ツ塚遺跡Ⅱ調査全体図

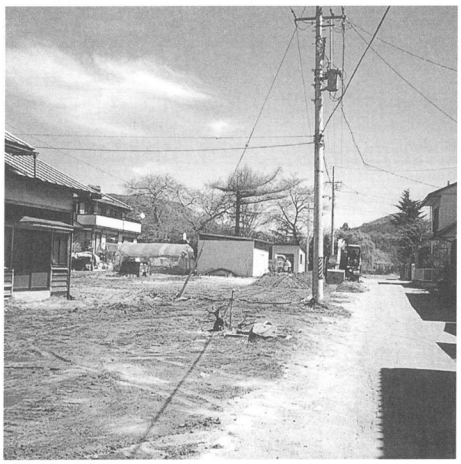
調査概要

調査により、住居址２軒、掘立柱建物址の一部と思われるピット２が確認できた。

Ｈ１号住居址は、調査区中央に位置し、全体の南側３分の２が確認できた。調査範囲にカマドが認められないことから北カマドと考えられた。ピットは４本確認でき、内３本が主柱穴、１本は南壁際中央に堀り込まれていることから出入り口部に関係するものと思われる。遺物は土師器の坏、甕、高坏が出土した。

Ｈ２号住居址は、調査区東に位置し、住居址全体が調査可能であった。カマドは北壁中央に構築されており、ピットは主柱穴が４本確認でき、北東コーナーには土坑が１基認められた。遺物は土師器の坏、甕が出土した。

住居址の年代は、出土遺物の特徴からＨ１号住居址が７世紀末頃、Ｈ２号住居址が７世紀前半と考えられる。



調査区全景（西から）

Ｈ１号住居址（西から）

検出状況（東から）

Ｈ２号住居址（西から）

Ｈ２号住居址カマド

Ｈ２号住居址カマド掘方

Ｈ２号住居址掘方

6　長土呂遺跡群　下聖端遺跡Ⅳ

所　在　地　佐久市大字長土呂字下聖端
179－1・7

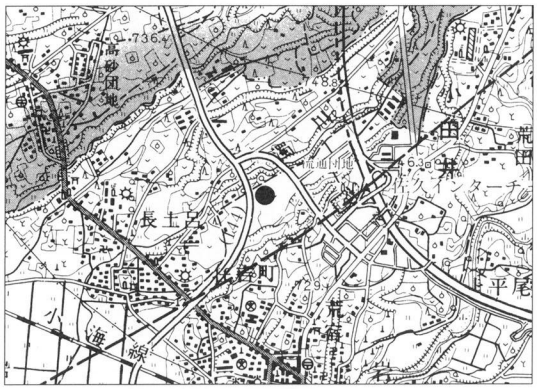
調査委託者　与志本林業株式会社

開発事業名　宅地分譲開発による造成工事

調 査 期 間　平成11年４月５日～５月14日

調 査 面 積　2,846㎡

調査担当者　森泉かよ子



下聖端遺跡Ⅳ位置図（1:50,000）

経過と立地

佐久市長土呂付近は上信越自動車道、流通業務団地造成事業、区画整理事業、新幹線などの開発事業が集中している。それに伴い、大規模な発掘調査が行われ、多くの遺跡がすでに調査されている。今回の下聖端地籍はすでに遺跡と周知されており、与志本林業株式会社が宅地分譲開発による造成工事がなされることになり、試掘調査を行った。結果、竪穴住居址・掘立柱建物址等が検出され、開発に伴う破壊が想定され、発掘調査を行うこととなった。

下聖端遺跡Ⅳは佐久市の北端、浅間山麓の末端部に位置する。この地域は浅間第１軽石流が堆積し、火山山麓に特有な田切り地形が発達した所である。放射状に伸びた田切りの台地中央あたりで、台地上でも凹地に遺構が検出され、標高730.0～730.50ｍで検出された。

調査概要

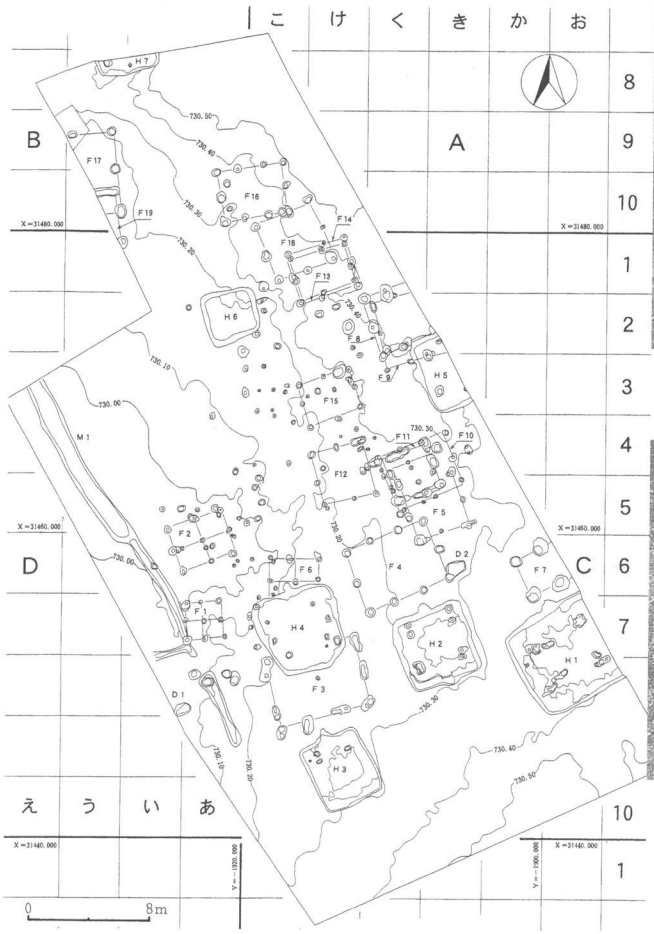
遺構

竪穴住居址	７棟（奈良～平安時代）
掘立柱建物址	19棟（奈良～平安時代）
土坑	２基
単独ピット	85個
溝	１条

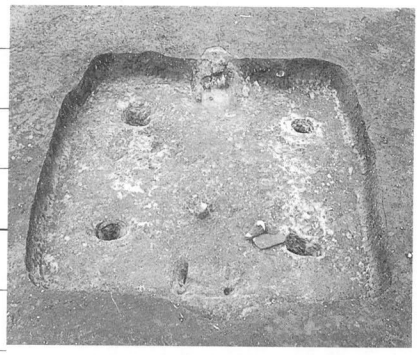
遺物

須恵器・土師器・スリ石・砥石
凹石・石擂鉢・刀子・鉄鏃・金環

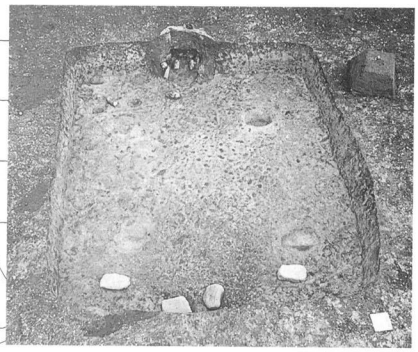
奈良から平安時代の集落が確認された。床下の堀方から旧住居址が確認される住居址が多くみられ８ｃ頃から９ｃ頃に渡るものであろう。東方の聖原遺跡では900棟を越える古墳から平安時代の住居址が調査されている。本遺跡はその延長であろう。



下聖端遺跡Ⅳ調査全体図（1:500）



Ｈ２号住居址（南から）



Ｈ３号住居址（南から）

下聖端遺跡Ⅳ航空写真

7　周坊畑遺跡群　入高山遺跡

所　在　地　佐久市大字長土呂
字入高山970－1　970－13

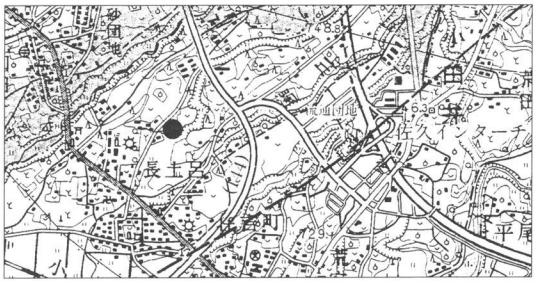
調査委託者　佐久エレクトロン株式会社

開発事業名　工場増築工事

調 査 期 間　平成11年11月８日～11月26日

調 査 面 積　2,724㎡

調査担当者　森泉かよ子

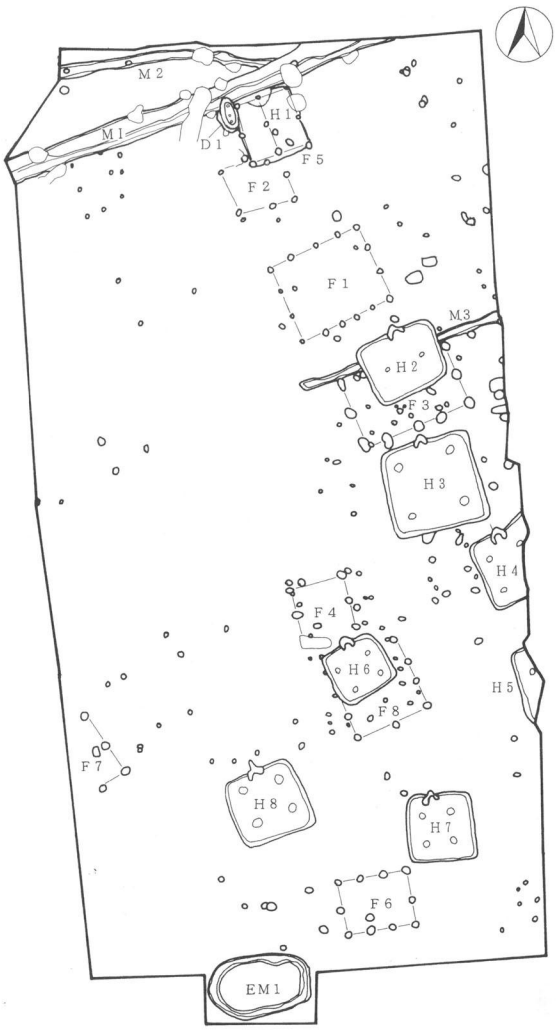


入高山遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

周坊畑遺跡群は佐久市の北部、浅間山麓の南端にある。この地域は浅間山の火山堆積物である浅間第１軽石流が堆積し、その流失し易い性質から田切り地形が発達している。周防畑遺跡群はその細長い台地上に展開される遺跡群である。周防畑遺跡群は周防畑Ａ遺跡、周防畑Ｂ遺跡、若宮遺跡Ⅰ・Ⅱ、南近津遺跡がすでに発掘調査され、弥生時代後期から平安時代にわたる集落や墓域が検出された。

今回、佐久エレクトロン株式会社が工場増築計画に伴い、試掘調査を実施した。その結果、竪穴住居址・掘立柱建物址等が検出された。開発に伴い破壊が余儀なくされるため、協議の結果発掘調査を行い記録保存することとなった。



入高山遺跡調査全体図（1:500）

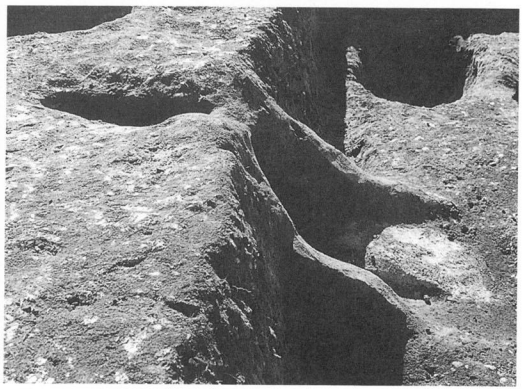
調査概要

発掘調査により、竪穴住居址８棟、掘立柱建物址7棟、単独ピット159個、円形周溝

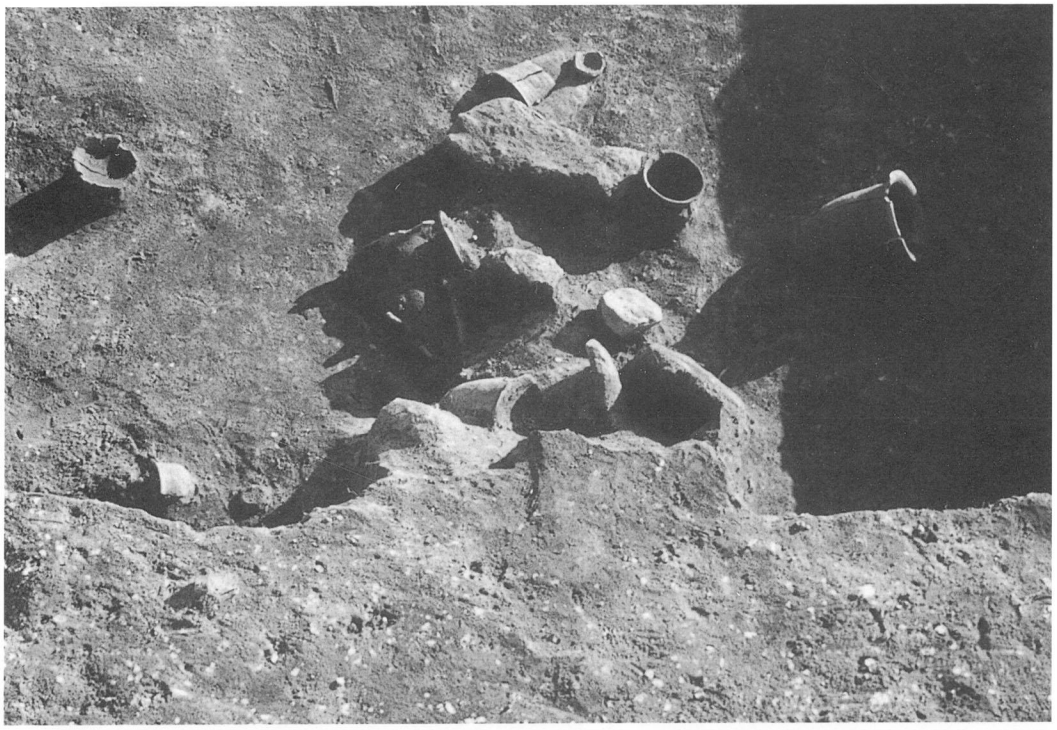
１基、溝址３条が検出された。竪穴住居址はＨ１・Ｈ６号住居址が平安時代、Ｈ４・Ｈ５号住居址が 奈良時代、Ｈ２・Ｈ３・Ｈ４号住居址が古墳時代後期である。比較的カマドの残存状況がよく、煙道なども残っていた。Ｈ７号住居址は焼失家屋で、使用状態のまま遺物が残されていた。

入高山遺跡航空写真（南から）

Ｈ３号住居址全景



Ｈ３号住居址カマド

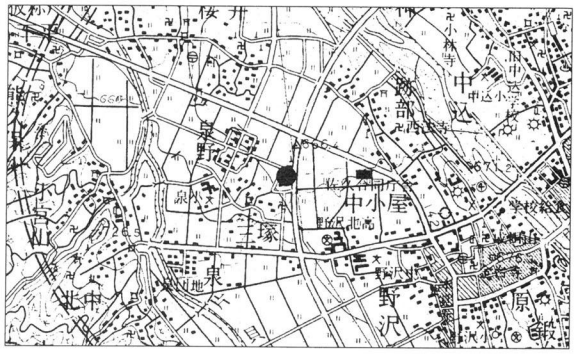


Ｈ７号住居址カマド（南から）

Ｈ８号住居址完掘（東から）

8　三千束遺跡群　宮添遺跡

所　在　地　佐久市大字三塚字宮添90－1外
調査委託者　佐久市農業協同組合
開発事業名　事務所建設事業
調 査 期 間　平成11年11月5日～11月30日
調 査 面 積　605㎡
調査担当者　出澤　　力



宮添遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

三千束遺跡群宮添遺跡は佐久市大字三塚に所在する。本遺跡は千曲川と片貝川に挟まれた沖積微高地上に立地しており、標高は668m内外を測る。周辺では市道遺跡Ⅰ（昭和49年調査）・Ⅱ（平成10年調査）、寺添遺跡（平成6年調査）など多くの発掘調査が行われており本遺跡周辺に古墳時代～中世に至る集落の存在が知られている。

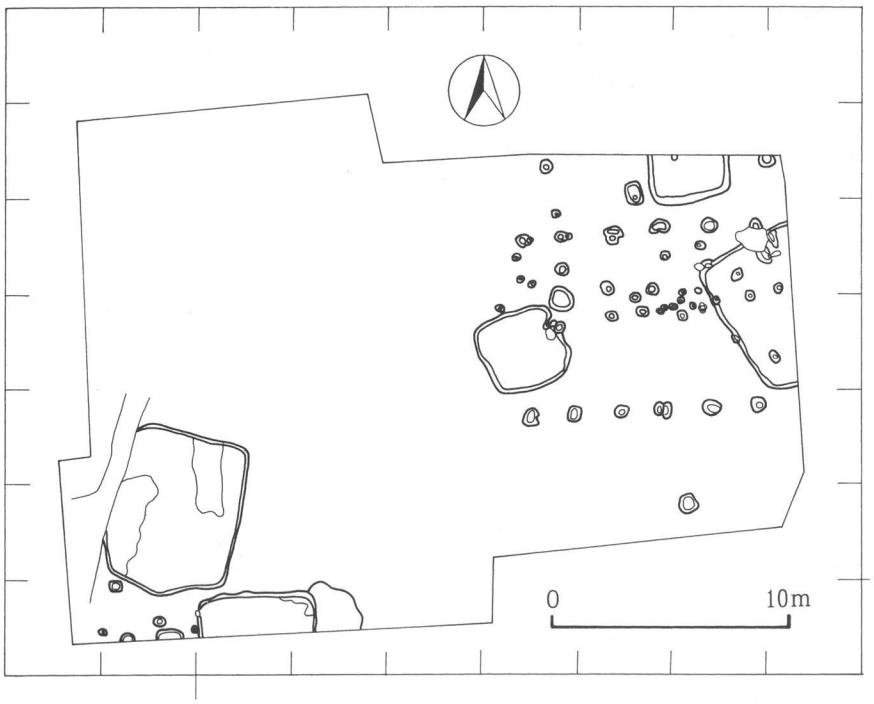
今回、佐久市農業協同組合により事務所建設事業が行われることとなり、平成11年10月28.29日に建物部分について試掘調査が行われ、竪穴住居址4軒、土坑1基、ピット多数が検出され、遺物も多数確認された。その結果を受けて保護協議が行われ、記録保存のための発掘調査が行われることとなった。

調査概要

建物にかかる約605㎡の面積について発掘調査を行い、竪穴住居址4軒、竪穴状遺構2軒、土坑3基とピット43基を確認した。竪穴住居址は古墳時代中期末～後期初頭にかかるもの1軒に、奈良・平安時代のもの2軒、あとの1軒は床の一部が残るのみの状態で発見されたもので古墳時代に所属するものと思われる。古墳時代中期末の住居址からは土師器などの他に管玉、臼玉等の玉類が合計で12点確認されている。

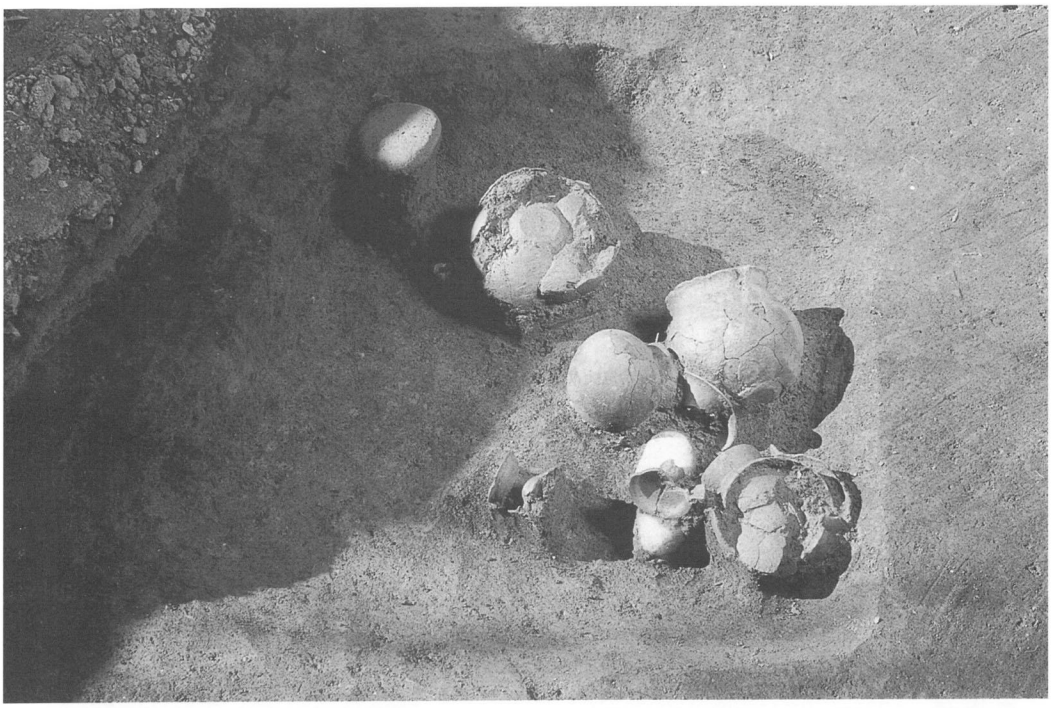
また、確認された土坑内より一括して土師器甕4点と器台2点が出土しており、器台の形態から古墳時代前期後葉のものと考えられる。佐久地方では古墳時代前期に該当する遺構・遺物の発見例が比較的少なく、遺跡周辺においてもこの時期の遺構は発見されていない。

このほか遺物では、土師器、須恵器、石製品、鉄製品、古銭、青磁破片、獣骨、人骨等が発見されている。



宮添遺跡調査全体図

宮添遺跡全景（北から）



土坑遺物出土状況

住居址全景（南から）

9　枇杷坂遺跡群　円正坊遺跡Ⅲ・Ⅳ

（円正坊遺跡Ⅲ）

所　在　地　佐久市大字岩村田字下直路1106 - 6外

調査委託者　佐久市都市計画課

開発事業名　宅地代替地造成工事

調 査 期 間　平成11年５月13日～８月９日

調 査 面 積　5,200㎡

（円正坊遺跡Ⅳ）

所　在　地　佐久市大字岩村田字円正坊1281 - 8外

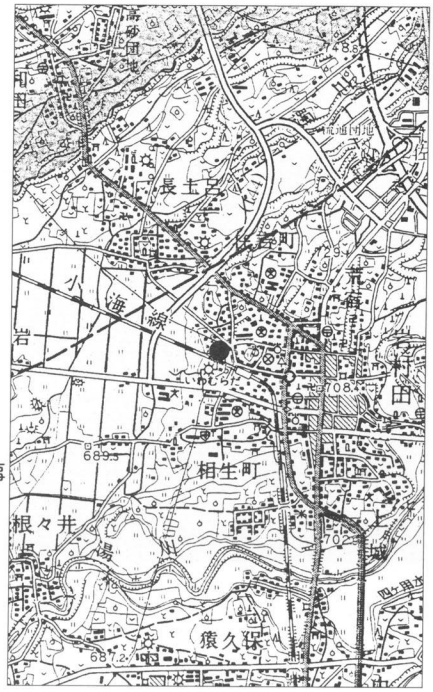
調査委託者　佐久市都市計画課

開発事業名　都市計画道路佐久平駅蓼科口線道路改築工事

調 査 期 間　平成11年５月13日～８月９日

調 査 面 積　4,200㎡（内11年度は約900㎡）

調査担当者　森泉かよ子



円正坊遺跡Ⅲ・Ⅳ位置図（1:50,000）

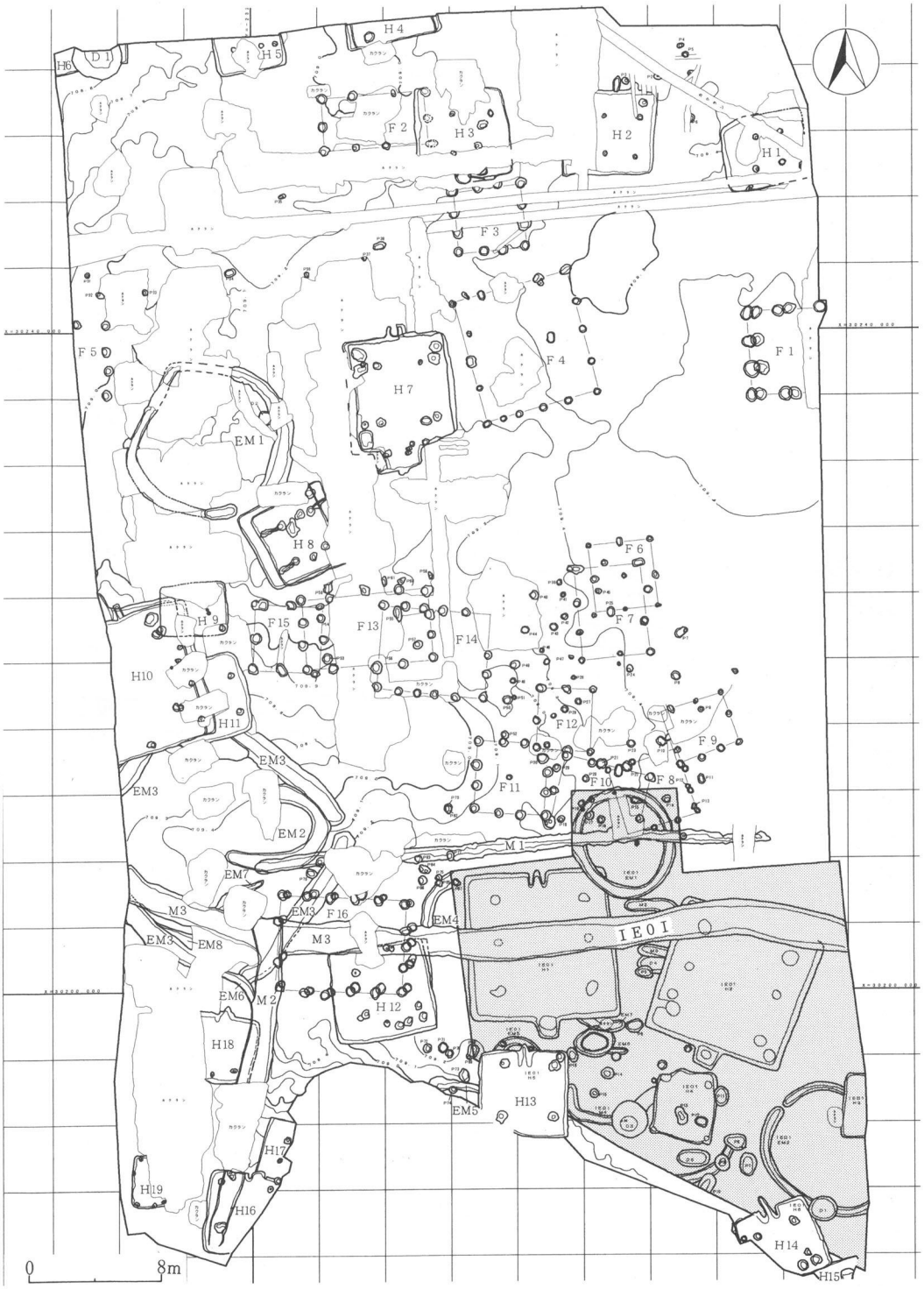
経過と立地

枇杷坂遺跡群は佐久市の北方にあって、浅間山麓南端にあたる。浅間火山灰の堆積物である浅間第１軽石流が厚く覆っている地点である。流失し易い性格から田切り地形を形成している。円正坊遺跡はその台地上の東端にある遺跡で、隣接して南東は低地になっている。枇杷坂遺跡群では上直路遺跡、直路遺跡Ⅰ・Ⅱなど、弥生時代後期の住居址・墓壙などがすでに調査されている。また本遺跡の一画は平成元年に古墳時代の竪穴住居址３棟、円形周溝５基が発掘調査されている。

今回都市計画整備事業の一環で、当遺跡に道路、代替用の宅地造成をすることとなり、試掘をしたところ住居址・掘立柱建物址が検出され、発掘調査をすることとなった。標高は709.0m内外を測る。

調査概要

本調査区域は近年の建築物による破壊で、著しく撹乱されていた。また地殻移動の影響を受け、遺構のずれがあった。地殻移動も地盤や遺構の深さ、大きさなどに左右され一様ではなく、南西方向に40～100cmずれている。従って地盤の下になり未検出の遺構もある。調査の結果、古墳時代の竪穴住居址18棟、掘立柱建物址16棟、円形周溝８基、溝址３基が検出された。



円正坊遺跡Ⅲ・Ⅳ調査全体図（1:400）

円正坊遺跡Ⅲ・Ⅳ航空写真（南から）

Ｈ８号住居址完掘（南から）

Ｈ８号住居址遺物出土状況（北から）

円正坊遺跡Ⅲ・Ⅳ全景

Ｈ12号住居址完掘（南から）

ＥＭ１号円形周溝（北から）

10　跡部儘田遺跡群　跡部儘田遺跡・跡部町田遺跡Ⅱ

所　在　地　跡部儘田遺跡

佐久市大字跡部字儘田314・304－2

字口明塚291－2

跡部町田遺跡Ⅱ

佐久市大字跡部字孫次郎237－5、249－5

字反田206－2

調査委託者　佐久市都市計画課

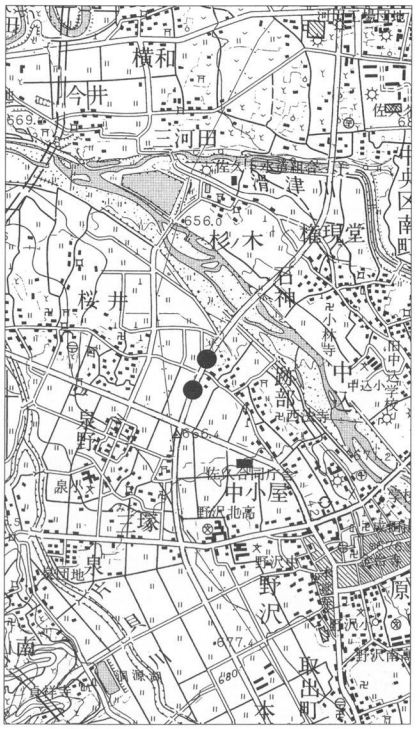
開発事業名　都市計画道路小諸臼田線道路改良事業

（国道141号）

調査期間　平成11年４月17日～７月18日

調査面積　18,609.5㎡

調査担当者　上原　　学、佐々木宗昭、林　　幸彦



跡部儘田遺跡群跡部儘田遺跡（上）
跡部町田遺跡Ⅱ位置図（１:50,000）

経過と立地

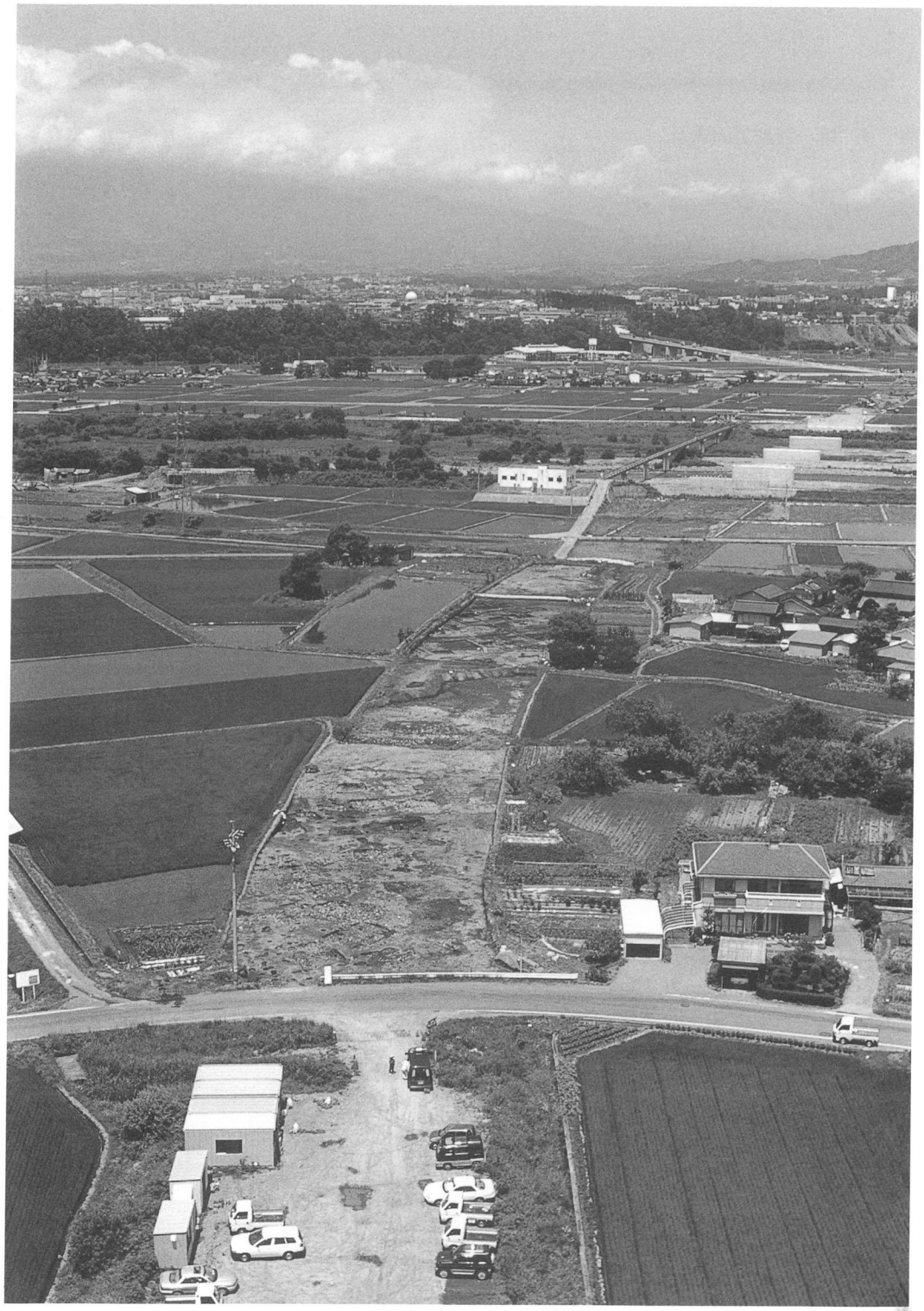
跡部儘田遺跡群は、佐久市跡部の集落北に位置し、標高は664ｍを測る。北西流する千曲川左岸に形成された第２・第３河岸段丘上にある。跡部町田遺跡Ⅱは、跡部儘田遺跡とは市道を挟んだ南側に位置する。

昨年、都市計画道路小諸佐久臼田線道路改良工事計画に伴い試掘調査を実施した。跡部儘田遺跡からは30余軒の竪穴住居址が検出された。また、圃場整備が実施された跡部町田遺跡Ⅱにおいても、削平されずに数件の竪穴住居址が確認された。

試掘調査の結果、遺構の存在が確認されたため今年度記録保存調査を実施した。

調査概要

調査の結果、古墳時代～平安時代の竪穴住居址86軒、掘立柱建物址、溝、土坑、畑跡等が検出された。



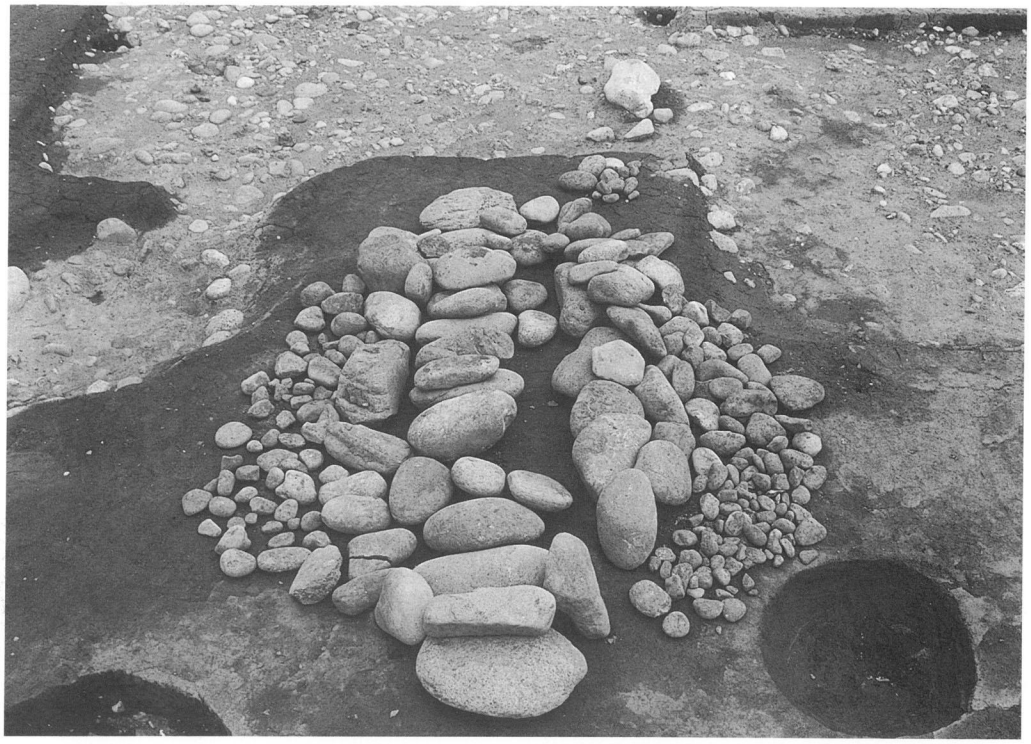
跡部儘田遺跡航空写真（駐車場部分跡部町田遺跡Ⅱ）南から

跡部儘田遺跡航空写真（西から）

跡部儘田遺跡航空写真（東から）畑跡・砂に埋もれた住居址等が認められた

跡部儘田遺跡H23号住居址カマド

跡部儘田遺跡H23号住居址カマド煙道天井石除去状態



跡部儘田遺跡H23号住居址カマド構築用石材

跡部儘田遺跡砂に埋もれた住居址（H47号住居址）

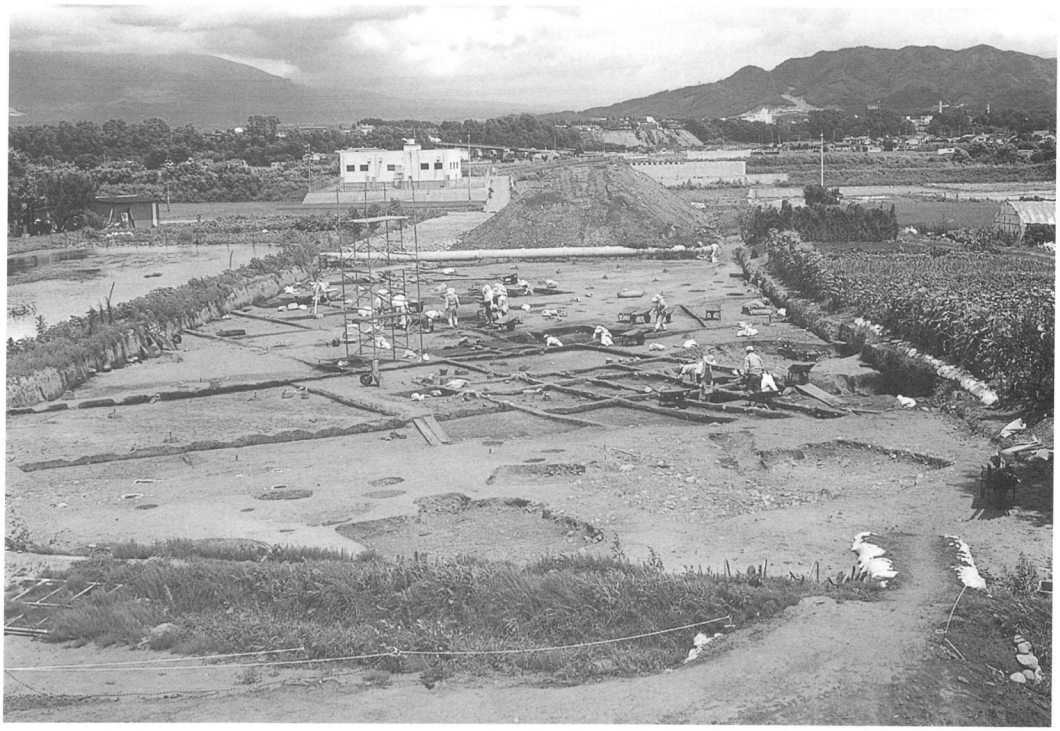
跡部儘田遺跡H31号住居址全景（西から）

カマド半裁状況

カマド全景

カマド天井石除去状況

カマド掘方全景



跡部儘田遺跡調査風景（南から）

跡部儘田遺跡掘立柱建物址

11　新海坂遺跡群　新海坂遺跡

所　在　地　佐久市大字根岸3000－1、3004－1外

調査委託者　佐久市建設部土木課

開発事業名　道路改良

調 査 期 間　平成11年９月31日～10月14日

調 査 面 積　800㎡

調査担当者　上原　　学

新海坂遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

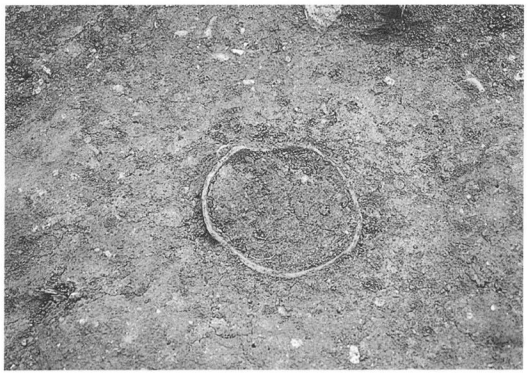
新海坂遺跡群は佐久市根岸地積に所在し、蓼科山麓の舌状に張り出した尾根に挟まれた沢から西に枝状に延びる沢上に位置する。調査区はこの沢の標高723～730ｍの緩斜面上に位置する。付近の調査としては昭和61年に行われた瀧の峯古墳群、平成５年に行われた榛名平遺跡の調査があげられ、縄文時代から中世に至る多数の遺構・遺物が確認されている。

今回、佐久市建設部土木課による道路建設が行われることとなり、試掘調査を行い遺構の確認された地域の記録保存を目的として発掘調査を行った。

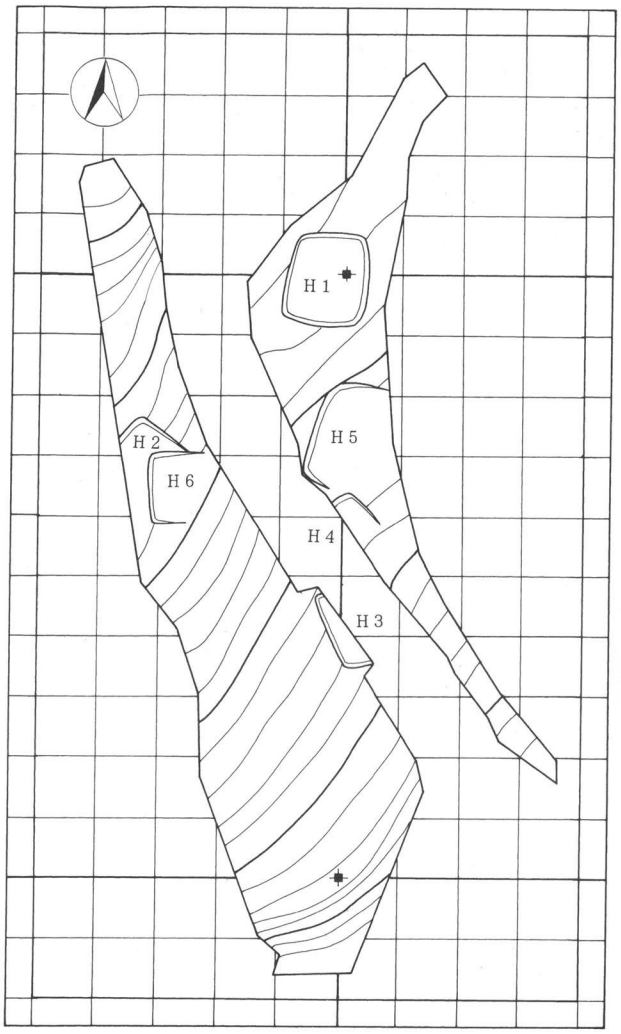
調査概要

調査の結果、沢の比較的緩やかな斜面上において弥生時代末から古墳時代初頭に位置付けられる住居址６軒を確認した。遺物は住居址内から坏・甕・高坏・石斧・石鏃が出土した。

Ｈ４号住居址全景



Ｈ４号住居址炉跡



新海坂遺跡遺構配置図（1：1,000）

Ｈ４号住居址炉跡完掘状況

Ｈ１号住居址遺物出土状況

新海坂遺跡近景（北から）

調査風景

新海坂遺跡Ｈ１号住居址全景

新海坂遺跡Ｈ１号住居址遺物出土状況

12　村上遺跡群　村上遺跡

所　在　地　佐久市大字根岸2824－1外
調査委託者　佐久市建設部土木課
開発事業名　道路改良
調 査 期 間　平成11年７月５日～７月30日
調 査 面 積　400㎡
調査担当者　上原　　学

村上遺跡位置図（1:50,000）

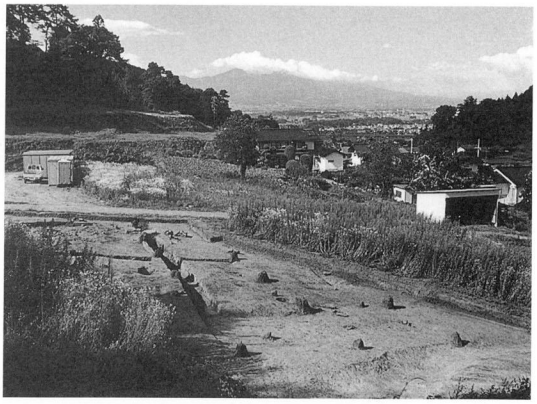
経過と立地

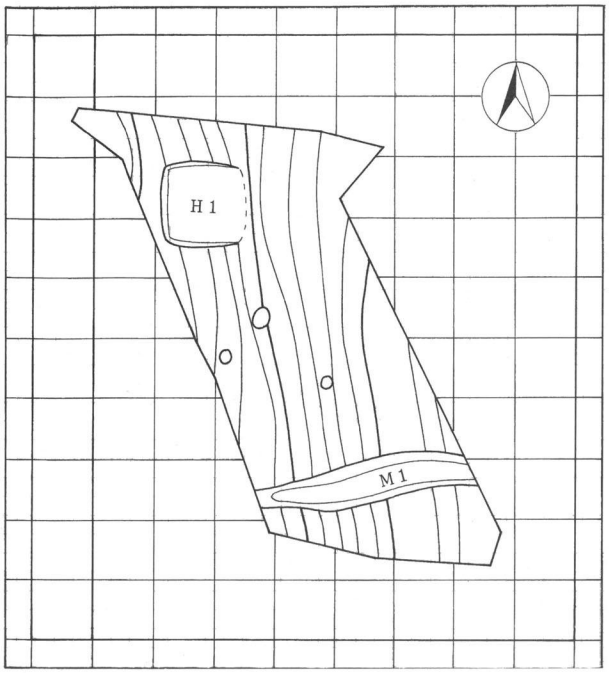
村上遺跡群は佐久市根岸地積にあり、蓼科山麓の舌状に張り出した尾根に挟まれた沢の西側に展開する。調査区は遺跡群の北側、沢から更に西方向に枝状に延びる沢の標高720～723mの緩斜面上に位置する。付近の調査としては昭和61年度、村上遺跡の北１㎞の沢沿いにある立科丘陵地北端に位置する瀧の峯古墳群の調査が行われ、３基の古墳の調査が行われている。また平成５年には村上遺跡の北１㎞、瀧の峯古墳群の北東300mに所在する榛名平遺跡の調査が行われ、縄文時代から中世に至る幅広い時期の遺構・遺物が多数確認されている。

今回、佐久市建設部土木課による道路建設事業が行われることとなり、試掘調査を行い遺構の確認された地域の記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。

調査概要

本遺跡からは、弥生時代末から古墳時代初頭に位置付けられる焼失住居址１軒、時期不明の土坑３基、溝１条が認められた。遺物は住居址から高坏・甕・壺・炭化材などが出土した。また調査区内では検出面上において、縄文土器の散布が多数認められたことから、遺構の調査終了後、グリッドによる包含層の掘り下げを行った。その結果、堆積土である黒色土層中から縄文時代中期～後期を中心とする土器が多量に出土した。これにより、付近の丘陵地帯に縄文時代の集落が存在する可能性が推察できた。


村上遺跡全景（南から）



村上遺跡遺構配置図（1：1,000）

Ｈ１号住居址遺物出土状況

Ｈ１号住居址全景（北東から）

村上遺跡遠景（北西から）

調査風景（北西から）

13　枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字長土呂字水引283 - 1

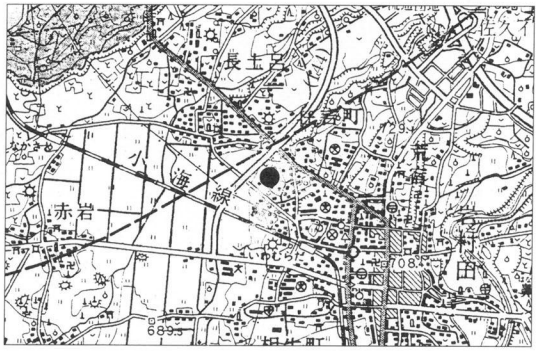
調査委託者　佐久市区画整理課

開発事業名　佐久平駅周辺土地区画整理事業

調 査 期 間　平成11年９月13日～９月24日

調 査 面 積　316㎡

調査担当者　森泉かよ子



直路遺跡Ⅲ位置図（1:50,000）

経過と立地

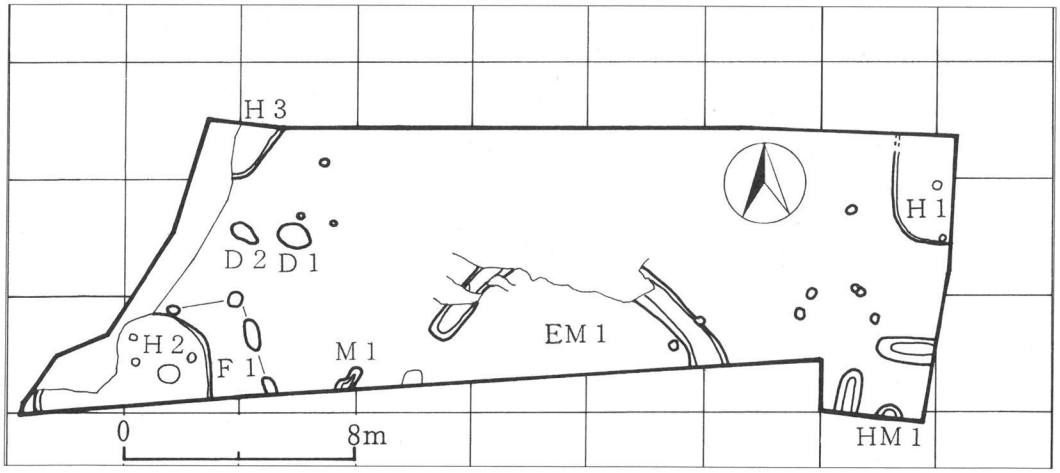
枇杷坂遺跡群は浅間山麓南端にあって、浅間第１軽石流が堆積し、火山山麓特有の田切り地形を形成している。直路遺跡Ⅲは標高710mを測る微高地にあり、すぐ西は田切りと接し低地となる。本遺跡は直路遺跡Ⅰ・Ⅱとして、平成９年・10年にすでに発掘調査がなされている。弥生時代後期の住居址を中心とする集落で、中世の竪穴状遺構・井戸等も調査されている。

今回、区画整理事業のため調査依頼があり、発掘調査した。

調査概要

今回の調査では竪穴住居址３棟、掘立柱建物址１棟、土坑２基、方形周溝１基、円形周溝１基、単独ピットが検出された。Ｈ１号住居址は床面で検出され明確でない。Ｈ２・３号住居址は弥生時代後期の住居址である。Ｈ２号住居址は地殻変動で30cmほど西に移動していた。

遺物は弥生時代後期の土器・石器・赤彩された土製勾玉が出土している。



枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅲ調査全体図

直路遺跡Ⅲ全景（西から）　　Ｈ３号住居址出土勾玉

Ｈ２号住居址（北から）

14　周防畑遺跡群　辻の前・中仲田遺跡

所　在　地　佐久市大字長土呂字辻の前・仲田
佐久平駅周辺区画整理事業区内

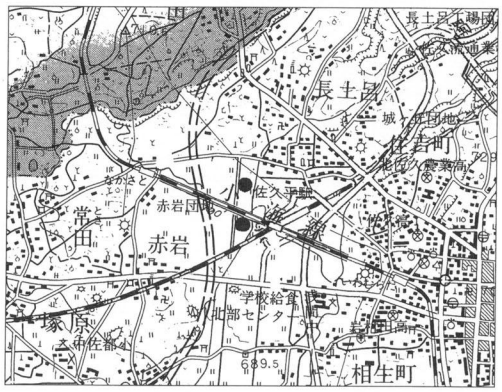
調査委託者　佐久市区画整理課

開発事業名　佐久平駅周辺区画整理

調 査 期 間　平成11年５月６日～10月12日

調 査 面 積　20,000㎡

調査担当者　羽毛田卓也



辻の前遺跡（下）・中仲田遺跡（上）位置図（1:50,000）

経過と立地

辻の前・中仲田遺跡は、佐久市長土呂の南西に位置し、濁川に接する西側の標高700ｍの低地と微高地の交互地形上に展開する。東西に走るＪＲ小海線部分の低地を挟み、北側を中仲田遺跡、南側を辻の前遺跡とした。今回佐久市区画整理課が行う佐久平駅周辺区画整理事業に伴い、遺跡の破壊が余儀なくされ、佐久市区画整理課と佐久市教育委員会文化財課と協議の結果、全体を試掘調査することとなった。その結果、圃場整備事業により残された道路と、旧地形が低かった部分に、破壊を免れた遺跡が残存していることが判明し、再度両者協議の結果、緊急に発掘調査をする運びとなった。

調査概要

対象地全体に試掘トレンチを掘削した結果、８割以上が圃場整備に伴い破壊されていた。今回はその破壊を免れた部分を中心に調査を行った。

辻の前遺跡からは、弥生時代末から古墳時代初頭にかけての集落と中世の集落が検出された。また中仲田遺跡からは、弥生時代後期の良好な遺物包含層と平安時代・中世の集落が検出された。近年の調査と今回の調査により、弥生時代の集落は長土呂を中心に馬蹄形状に展開すると捉えられてきたが、濁川・蟹沢川を中心に東西にややふれる南北方向に、少なくとも４本が帯状に展開することが判明した。

辻の前遺跡全景（東から）

15　芝宮遺跡群　下曽根遺跡Ⅶ

所　在　地　佐久市大字小田井字穴沢147－6外7筆

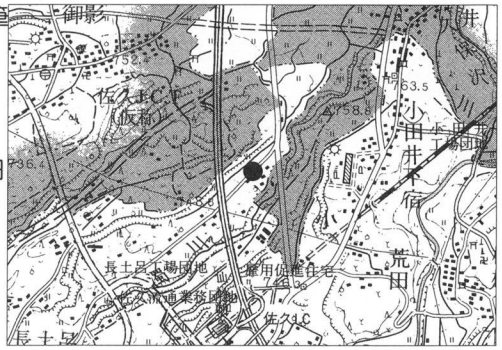
調査委託者　佐久市高速交通課

開発事業名　市道改良

調 査 期 間　平成11年11月8日～平成12年3月31日

調 査 面 積　1,050㎡

調査担当者　小林　眞寿



下曽根遺跡Ⅶ位置図（1:50,000）

経過と立地

芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代の集落遺跡として知られている。この付近は浅間火山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された田切地形の発達した地域であり、この田切りに挟まれた台地上には多くの遺跡が存在している。

平成6年度から、佐久市による市道改良事業に伴い調査を実施してきた下曽根遺跡の調査も今年度で現場での調査は終了した。

調査概要

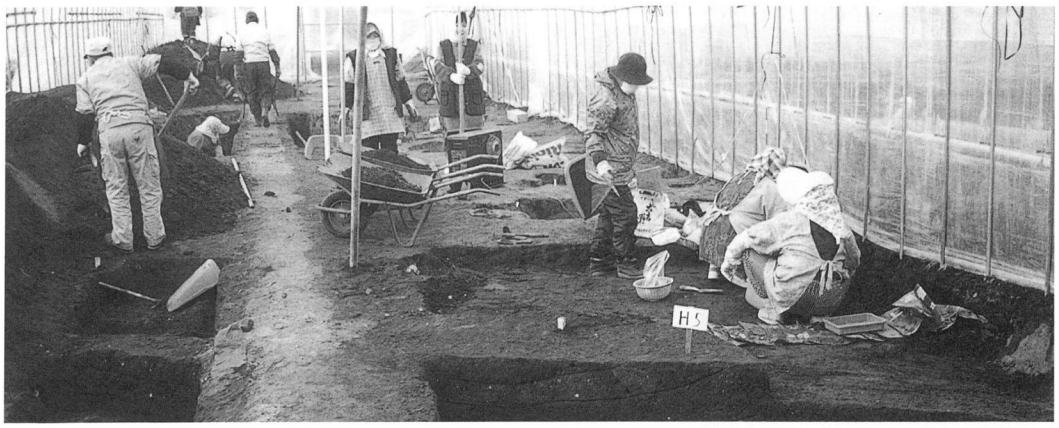
平成11年度の調査で検出された遺構は以下のとおりである。

○竪穴住居址－13軒（古墳時代～平安時代）　○掘立柱建物址－8棟（古墳時代～平安時代）

○溝址－1条　○土坑－2基

調査遺構の総計は以下であった。（時代は縄文、古墳～平安、中世）

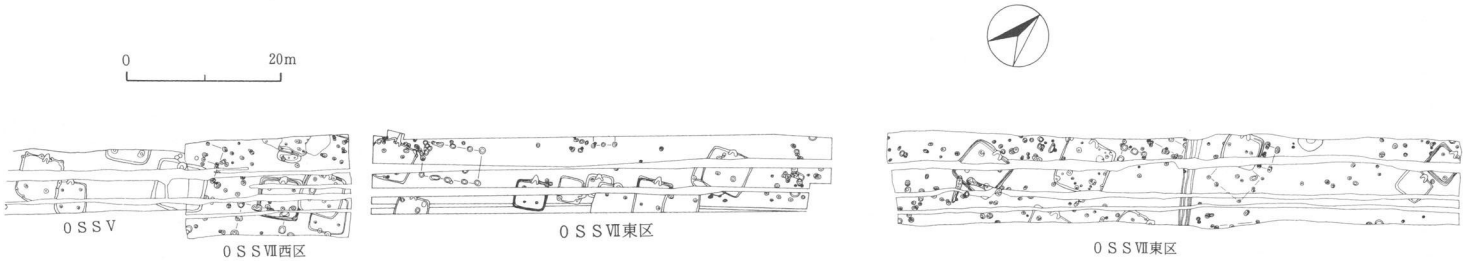
◎竪穴住居址－115軒　◎掘立柱建物址－41棟　◎竪穴－2基　◎溝址－5条　◎土坑－13基



調査風景

完掘されたカマド

縄文時代陥穴



下曽根遺跡Ⅶ　全体図

16　中道遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字前山字中道113-1外

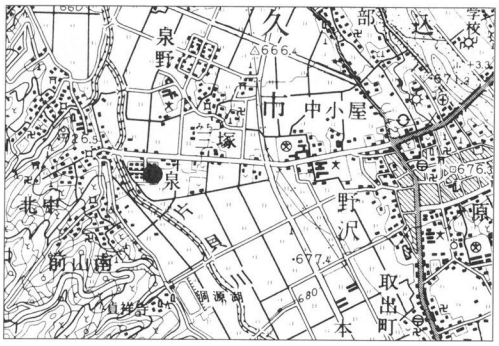
調査委託者　佐久市都市計画課

開発事業名　公営団地整備事業泉団地建替工事

調 査 期 間　平成11年７月30日～８月11日

調 査 面 積　1,400㎡

調査担当者　上原　　学



中道遺跡Ⅱ位置図（1:50,000）

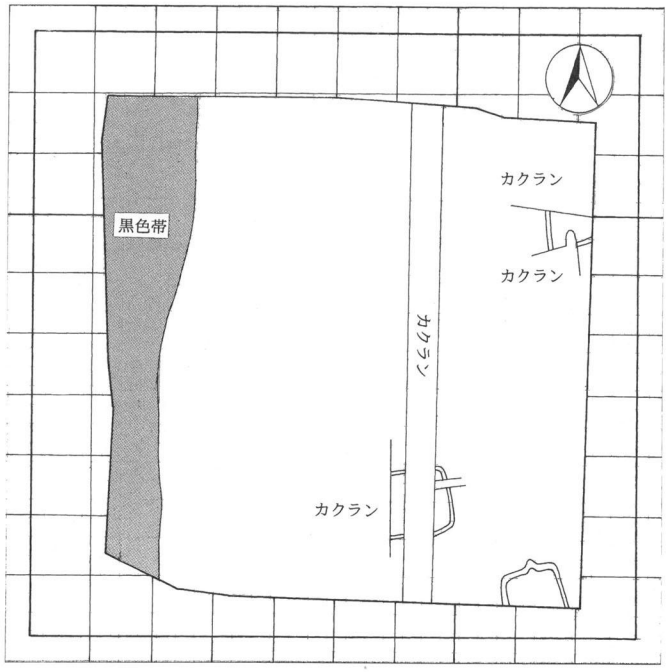
経過と立地

中道遺跡は野沢平の西方、千曲川と片貝川に挟まれた沖積低地に立地する。遺跡周辺の標高は670m内外を測る。遺跡内の調査は昭和46年に調査が行われ古代の竪穴住居址が確認されている。また平成９年には佐久市による公営住宅立て替え工事に伴う発掘調査が行われ古墳時代・平安時代の竪穴住居址12軒が確認されている。今回は前述の公営住宅建て替え工事に伴う調査の継続である。

調査概要

調査の結果、古墳時代の住居址３軒が認められた。また調査区西側はややに西方向に落ち込んだ谷状地形を見せ、堆積土中から弥生土器・土師器・須恵器・石製品（石包丁）などが多数出土した。

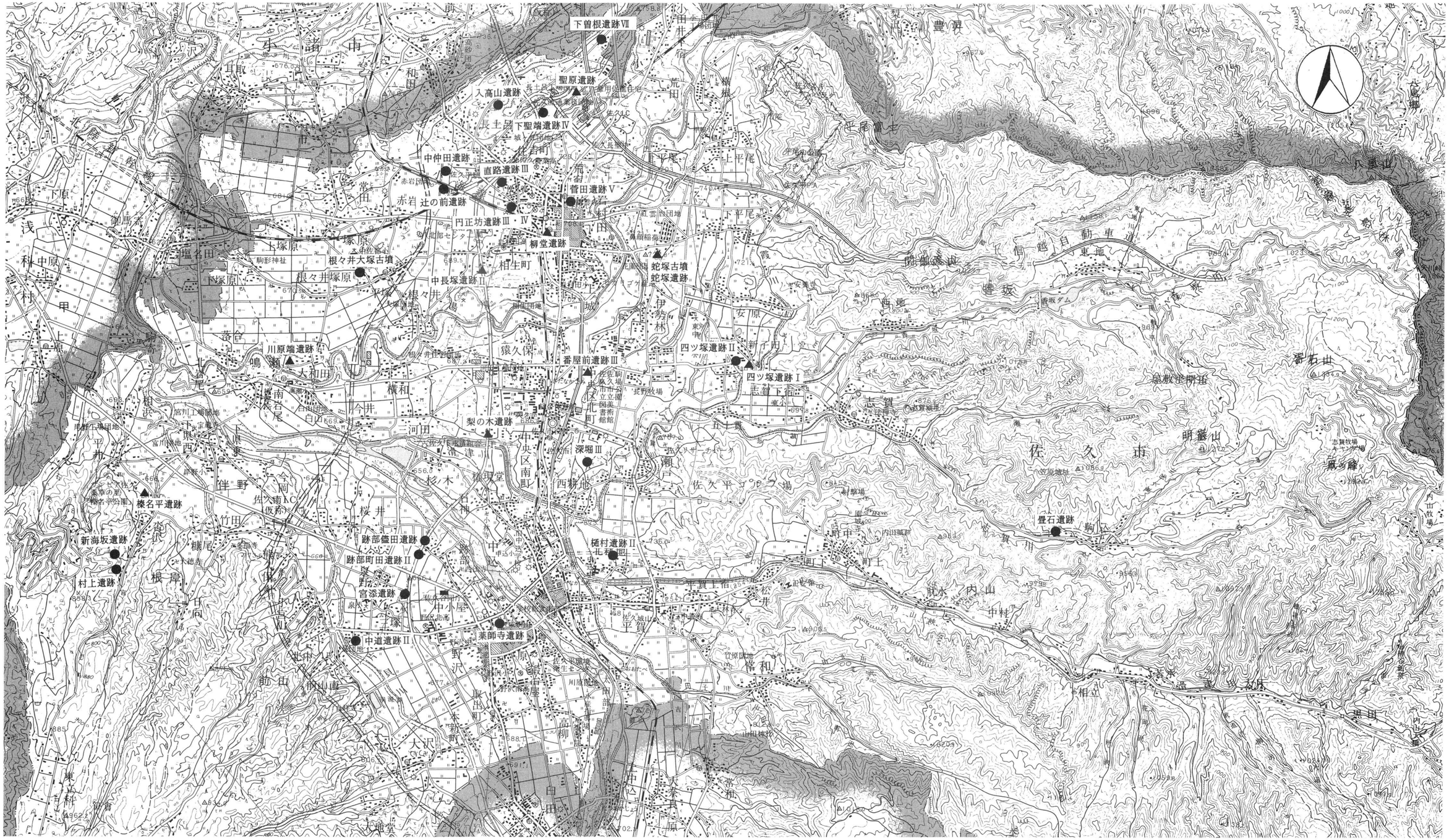
住居址カマド（東から）



中道遺跡Ⅱ遺構配置図（１:500）

中道遺跡Ⅱ調査風景（南東から）

住居址全景（西から）

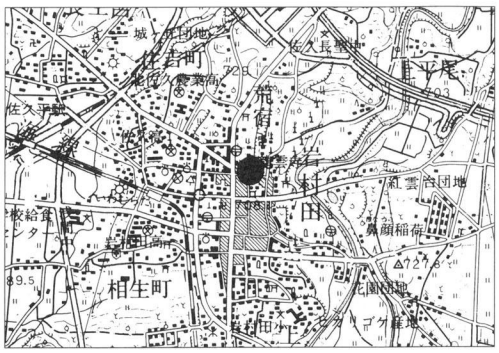


平成11年度　発掘調査及び整理調査遺跡位置図（1:50,000）　●は発掘調査・整理作業　▲は整理作業

8．岩村田遺跡群 菅田遺跡Ⅴ 調査報告書

岩村田遺跡群　菅田遺跡Ⅴ

所　在　地　佐久市大字岩村田字菅田415外１筆
調査委託者　龍雲寺
開発事業名　壇信徒開館増築工事
調 査 期 間　平成９年11月18日～28日（現場）
調 査 面 積　250㎡
調査担当者　上原　　学



菅田遺跡Ⅴ位置図（1:50,000）

例言・凡例

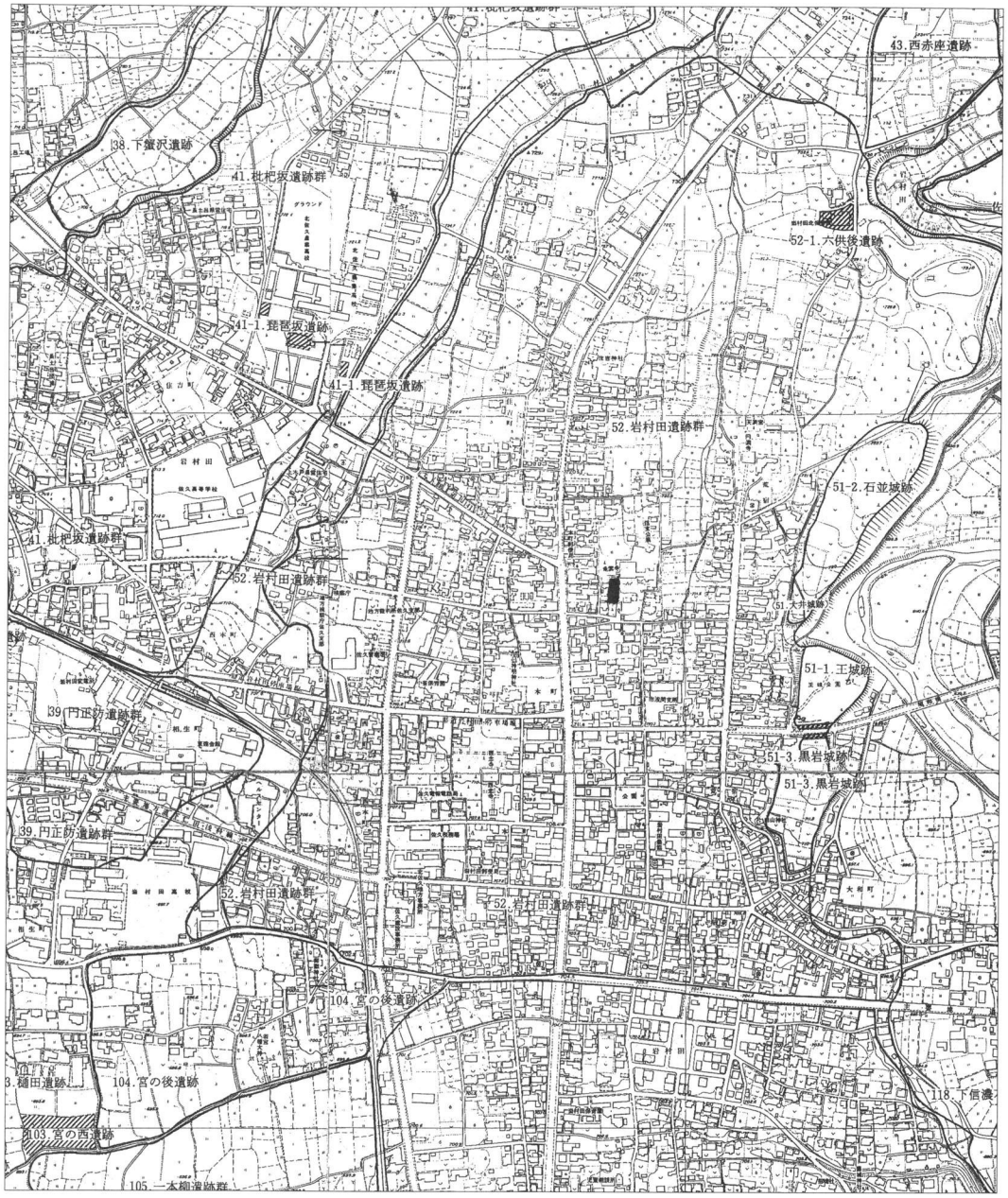
1　本書は平成９年度に調査した、長野県佐久市大字岩村田字菅田に所在する岩村田遺跡群菅田遺跡Ⅴの発掘調査報告書である。
2　本書の作成、執筆は上原が行った。
3　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
4　遺跡の略称－ＩＳＲ　Ⅴ
5　遺構の略称　竪穴状遺構－Ｔａ　土坑・土坑墓－Ｄ　溝跡－Ｍ
6　図面の縮尺は遺構が１/80．遺物が１/４である。その他の縮尺は図面下に明記。
7　調査区グリットは公共座標に基づき大グリット40×40m、小グリット４×４に設定。
8　土説・土器色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

経過と立地

岩村田遺跡群は岩村田市街地を中心とし、東西を「田切り」地形によって分断された標高705～730mの台地上に展開する。調査区は遺跡群のほぼ中央の龍雲寺敷地内に位置し、標高は705m内外を測る。また調査区西には佐久市北部を拠点とし勢力を振るった大井氏の居城である大井城跡が所在する。このため調査区内において、中世関連の遺跡の存在が予測された。

今回、龍雲寺住職による壇信徒会館増築工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

その結果、中世と思われる遺構・遺物の存在が認められたため、龍雲寺住職から委託を受けた佐久市教育委員会が遺跡の記録保存を目的として本調査を行った。



岩村田遺跡群　菅田遺跡Ⅴ位置図（1:1,000）

佐久地方の歴史と龍雲寺（中世）

佐久地方は古代において有力な三つの御牧（望月・長倉・塩野）がおかれ、良馬の産地として発展を遂げてきた。このように土壌に恵まれたためか、平安時代末期には多くの有力武士団が形成され、その一つ、牧経営等で有力な豪族であった滋野一族の一系である根々井氏は木曽義仲の四天王となるほどの勢力を持っていた。根々井館跡、根々井東原館跡はその居城とされている。

このころの佐久には大井荘、伴野荘二つの荘園があり、大井荘は岩村田を中心とする大井郷、伴野荘は野沢平を中心とする刑部郷を中心に成立した荘園といわれている。この他、平賀・田口を中心とした平賀郷があった。平安時代から鎌倉時代の承久の乱に至る間の平氏と源氏、さらには官方と幕府との政権争いという大きな日本史の流れの中で、これらの佐久武士団は大きく関与し、一族の盛衰を体験したのである。

承久の乱（1221）後、佐久には、小笠原氏が新興勢力をはる。長時は伴野氏を称して野沢平を中心とする佐久の南部に、その弟朝光は大井氏を称して岩村田を中心とする佐久の北部にそれぞれ勢力を振るった。伴野氏関連の遺跡は前山城や伴野城址、大井氏関連の遺跡は大井・長土呂・耳取・森山・平原・岩尾・上の城・燕城等があげられ承久の乱以後佐久において着々とその勢力を拡大したことが伺える。中先代の乱（1335）では、大井氏は同族の小笠原貞宗や村上信貞らとともに北朝方に属し、信濃の旧勢力である南朝方の諏訪氏や佐久・小県の滋野一党と対した。一時大井城は落城したが、桔梗ケ原の戦い（1335）で南朝方が敗北してからは、望月氏ら滋野一党にかわって大井氏の勢力が伸びた。更に、信濃守護小笠原長秀と信濃の国人盟主村上満信との大塔合戦（1400）では、大井光矩が仲裁に入ったり1436年には川西の芦田氏と争い家臣に組み込んでいる。鎌倉府の足利持氏と京都の室町幕府との争い永享の乱（1437）では、持氏の子永寿王丸を安原の安養寺に匿った。次いで起こった結城合戦（1440）の際にも大井持光は永寿王丸を支持し反幕の姿勢を示した。文安四年（1447）に永寿王丸（足利成氏）は許されて関東管領に補せられ、鎌倉公方足利成氏として復職させた大井持光は佐久において大きな勢力を持った。このころから文明十六年（1484）に村上氏に大井城を焼かれるまでが、大井氏の全盛であった。これにより前同族である大井・伴野の両氏は抗争を続けついに文明十一年（1479）の大井殿が伴野氏に捕らわれるという争いにまで達し、佐久郡は大いに乱れ村上氏をはじめ甲斐武田氏の佐久侵攻のきっかけをつくることになった。文明十六年の戦いに敗れ、以後大井氏は衰退し、このころから佐久郡内には、大井・伴野氏を初め数多くの小豪族が割拠し、100を越える多数の城・館を構えていった。　　佐久市教育委員会『大井城跡（黒岩城）』1986　歴史的環境抜粋

以上が佐久市の中世における概略であるが、今回、岩村田遺跡群菅田遺跡Ⅴが所在する龍雲寺について若干述べてみたい。龍雲寺は現在、曹洞宗で岩村田菅田地積に所在するが、創建時は臨済宗で端下平という地に存在し、大井氏が建てたとされる。その後文明十五年（1483）上野国碓氷郡長源寺の天英称貞が住職となり、曹洞宗に改宗されたが、文明十六年（1484）佐久市の北部、岩村田を中心に勢力を振るった大井氏の居城である大井城（北から石並城・王城・黒岩城）が、坂城の村上政清によって襲われ、戦いに敗れた際、龍雲寺も焼かれ称貞は寺を弟子にまかせ長源寺に戻っている。９年後、龍雲寺は寺地を端下平から現地に移し、再び称貞が住職となっている。

移転直後の16世紀になると、龍雲寺は甲斐武田氏と深く関わりを持ち、現存する古文書から、信玄、勝頼らによって厚く保護されていた様子を伺い知ることができる。さらに武田氏衰退後も、佐久地方に深く係わった武将（滝川一益、北条氏直、小諸城主である仙石秀久ら）からの文書が多く残されていることから、当時、龍雲寺は宗教的に重要な位置付けをされていた寺であったようである。

参考文献　　佐久市教育委員会　『佐久市の文化財』　H3
佐久市　『佐久市志　歴史編（二）　中世　　H3

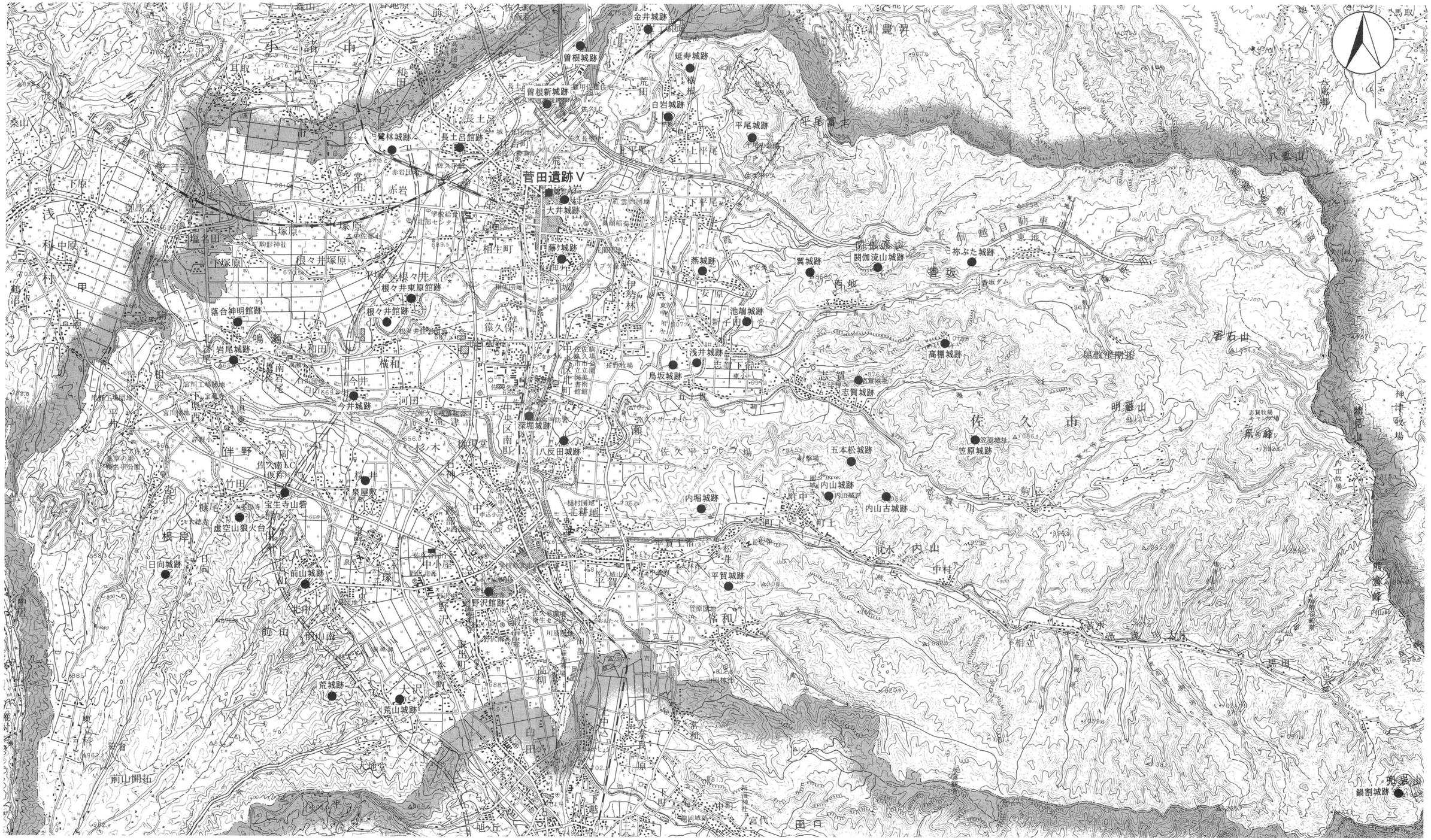
佐久市歴史年表（井出正義『岸野村誌より』）

	西暦	年号	月	事　　蹟
南北朝時代	1336	建武3 延元1	11	足利尊氏幕府を開く
	1345	興国6 貞和1	8	伴野出羽前司長房足利尊氏直義の天竜寺供養の随兵を勤める
	1346	正平1 貞和2	9	伴野長房が伴野荘の年貢を抑留したと大徳寺雑掌が幕府に訴える
	1349	正平4 貞和5	2	大徳寺領伴野荘の役夫工米所課の田数200町と注進される
	1352	正平7 文和1	2	宗良親王信濃の兵を率い足利尊氏と小手指原などに戦い敗れる。友（伴）野十郎ら宮に従う
	1353	正平8 文和2	6	伴野長房足利義詮の軍に属し楠正儀と京都神楽岡に戦って戦死す
	1355	正平10 文和4	8	甲斐等の駒牽は絶えたが望月牧だけが貢進している
	1383	弘和3 永徳3	2	小笠原長基その子長秀に与えた譲状に「信濃国沓沢郷比丘尼浄仙一期之後可知行之」とある
	1392	元中9 明徳3	8	伴野次郎源長信が足利義満の相国寺落慶供養の先陣随兵を勤める
			10	南北両朝合一
室町時代	1400	応永7	8	大塔合戦おこり、伴野氏ら国人一揆に属し信濃守護小笠原長秀を破る。守護代大井光矩講和をはかり長秀を救う
	1435	永享7	2	将軍足利義教が信濃守護小笠原政康に大井持光と芦田下野守の和睦を命じる
	1436	永享8	8	芦田下野守が信濃守護小笠原政透（政康）に降り、この日将軍正透に太刀を与える
	1437	永享9	11	大井持光関東公方足利持氏の遺児永寿王を安養寺にかくまう
	1440	永享12	4	大井持光家臣の芦田・清野をつけて永寿王を結城に入城させる
	1441	嘉吉1	4	結城落城、大井持光再び永寿王をかくまう
	1446	文安3	・	「佐久郡平賀乱あり」（平賀氏滅亡）
	1465	寛正6	4	伴野貞棟が幕府に願い上総介に推挙される
	1467	応仁1	1	応仁の乱おこる
			5	幕府奉行人伊勢貞親が大井刑部少輔政光の埴科郡船山郷入部を認める
	1471	文明3	6	伴野貞棟が太刀等を将軍義政に献じ、義政が答謝する
	1479	文明11	8	大井と伴野が合戦し大井殿生捕られ阿江木（相木）入道討死する

	西暦	年号	月	事　　蹟
戦国時代	1484	文明16	2	大井城陥り岩村田灰燼となり大井宗家滅亡する
			7	伴野と野沢と戦う
	1509	永正6	5	将軍義伊が関東管領上杉顕定らに命じ伴野六郎と大井太郎を和解させる
	1521	大永1	・	伴野貞祥叙父節香徳忠を開山に請い貞祥寺を創建する
	1527	大永7	6	佐久郡乱れ伴野殿が武田信虎に援兵を乞う
	1530	享禄3	8	伴野刑部大輔貞慶が高野山蓮華定院を領内住民の宿坊と定める
	1540	天文9	5	武田信虎佐久郡に侵入し数十城を攻め破り前山城を修築して在陣する
			8	武田信虎海ノ口に伝馬を命ずる
	1541	天文10	10	志賀の笠原新三郎雲興寺を創建して節香徳忠を開山とする
	1543	天文12	9	武田晴信（信玄）大井貞隆を小県郡長窪城を攻め生捕る
	1546	天文15	5	武田晴信内山城を攻め城主大井貞清を降す
	1547	天文16	8	武田晴信志賀城を攻略する
	1548	天文17	9	小山田信有田口城を攻めて重囲に陥ち武田晴信これを救援して、佐久郡諸城を落す
	1550	天文19	11	村上義清桜井山城を攻めてこれを焼く
	1551	天文20	9	小山田備中守昌辰（上原伊賀守改め）重ねて内山城に入る
	1552	天文21	7	荻原豊前守武田晴信の命を受け松原神社の神馬銭六貫文を渡す
	1554	天文23	9	武田晴信佐久郡をことごとく平定し明春信濃奥郡への出陣に備えさせる
	1559	永禄2	4	前山城主伴野貞祥死す
			5	武田信玄越後境に出兵せんとし松原神社に戦勝を祈る
	1560	永禄3	5	武田信玄上州南牧の市川右馬介らに佐久郡内の地を宛行う
	1561	永禄4	11	武田信玄上州に出兵のため松原神社に戦勝を祈る
	1562	永禄5	10	武田信玄大井左馬允の軍役を定める
	1564	永禄7	8	武田信玄貞祥寺領伴野の内百貫文を安堵し制札を掲げる

	西暦	年号	月	事　　蹟
戦国時代	1565	永禄8	2	武田信玄上州箕輪城を攻略のため新海神社に戦勝を祈る
	1567	永禄10	2	武田信玄田畑不作につき海ノ口郷に本年分の伝馬役を免除する
	1568	永禄11	8	武田信玄佐久小県両郡修験の普請役を免除する
			9	上原筑前の検地が志賀等で行なわれる
			12	依田信守信蕃父子等信玄に従って駿河薩田山に今川勢と戦う
	1569	永禄12	7	伴野信是野沢郷八幡宮に鰐口を寄進する。永禄六年薬師寺にも寄進する
	1572	元亀3	2	信玄岩村田御家人衆に命じ竜雲寺の萱萱を運上させる
			2	竜雲寺を武田家分国曹洞宗の僧録司とする
			4	竜雲寺北高全祝信玄の要請で千人法幢の準備をする
			7	信玄千人法幢奉行小宮山昌友の精励を嘉し甲州萩原郷百貫文を与える
			12	武田信玄甲斐信濃の兵を率いて遠州三方原に徳川家康を破る
	1573	天正1	4	武田信玄三河陣中に病み伊那郡駒場で死ぬ
			7	足利幕府滅亡する
安土・桃山時代			9	武田勝頼正安寺を小山田昌辰の位牌所とし同寺領を安堵する
	1575	天正3	6	依田信守信蕃父子遠州二俣城を守り、信守城中に病死する
			12	依田信蕃二俣城を家康に渡し、高天神城を守る
	1576	天正4	2	織田信長安土城に移る
	1577	天正5	10	小諸城主武田信豊浅科八幡社を造立する
	1578	天正6	2	武田勝頼平井之郷　沓沢之郷　下県之郷　県沢之郷等信濃諸郷に諏訪造宮勤仕を命ずる
	1579	天正7	10	武田勝頼が依田信蕃に駿河藤枝鬼岩寺分堤の普請を命じる
	1580	天正8	・	この年武田勝頼が依田信蕃に駿河田中城を守らせる
	1581	天正9	6	武田勝頼が上野箕輪城将内藤昌月に命じ竜雲寺門前番匠を同寺方丈造立のため帰国させる
	1582	天正10	3	武田勝頼父子甲州田野で自殺し、武田家滅亡する
			3	依田信蕃駿河田中城を徳川家康に渡し、14日春日城に帰る
			3	下曽根覚雲軒小諸城主武田信豊を殺す
			3	依田信蕃が徳川家康の勧めにより、遠江二俣に隠れる
			3	織田信長上野と佐久・小県二郡を滝川一益に与え関東の鎮とする
			6	2日本能寺の変
			6	19日滝川一益北条氏と上野に戦い敗れて佐久郡に退く
			6	依田信蕃遠州二俣より佐久郡に帰る（20日頃）
			6	滝川一益小諸を発って本領伊勢長嶋に落ちる（23日）
			7	徳川家康が平尾平三に所領をあてがう（11日）

西暦	年号	月	事　　蹟
		7	北条氏直依田信蕃を小諸城に攻め信蕃三沢小屋に退く。徳川家康柴田康忠をやって信蕃を援ける（12日）
		7	北条氏政海尻の井出善四郎に甲斐在陣の徳川家康の軍状を探らせる
		7	依田肥前守信守が伴野を攻め、徳川家康その戦功を賞する（15日）
		7	徳川家康が依田信蕃に諏訪、佐久両郡をあてがう（26日）
		9	依田信蕃北条氏直の兵と戦いその首帳を家康に送る（8日）
		9	徳川家康が依田信蕃等に命じ真田昌幸を説いて家康に属させる
		10	徳川家康と北条氏直が講和し、上州沼田を北条に佐久郡と甲斐都留郡を徳川領に換え、家康の女を氏直に嫁す（29日）
		11	柴田康忠依田信蕃が前山城を攻落す（4日）
		11	依田信蕃真田昌幸と岩村田城を攻めとる
		11	依田信蕃高棚城、小田井城を落す
		11	大井民部之助、小山田六左衛門、平尾平蔵、平原善真、森山豊後、志賀与左衛門、柏木六郎、望月印月斉等依田信蕃に降る
1583	天正11	2	依田（阿江木）能登守田口城を退去して関東へ浪人につき、家康が依田信蕃に命じ阿江木の守兵を滅じる
		2	依田信蕃岩尾城を攻め戦死する（22日）城主岩尾行吉城を開いて上州に去る
		3	徳川家康松平康国に父信蕃の遺跡を嗣がせる
1586	天正14	12	佐久郡郷村貫高帳「信州佐久郡之内貫之御帳」ができる
1587	天正15	2	松平康国貞祥寺の寺領を安堵する
		11	松平康国が臼田監物の子甚蔵に小宮山等の地をあてがう
		11	大久保忠隣の女が松平康国に嫁すため三河を発す（28日）
		7	松平康国が丸山内匠助に佐久郡中の番匠の取締りをさせる
		10	松平康国が臼田藤吉に佐久郡平井等の地をあてがう
1590	天正18	3	松平康国依田（阿江木）能登守、伴野刑部を柏木谷の白岩城に攻めてこれを破る
		4	松平康国上州西牧城を落す　26日康国上州怒社に於て刺殺さる
		5	徳川家康松平康真に兄康国の跡を嗣がせる
		7	松平康真上州藤岡に転封される
1590	天正18	9	仙石越前守秀久佐久郡を領す（5万石）
1596	慶長元	・	この頃下平村、小宮山村より独立と伝える
1600	5	9	関ケ原合戦
1602	7	・	中仙道宿駅制度
		・	今岡村開発人新左衛門、熊久保畑掛り惣兵衛、長百姓相談の上熊久保を分郷として一村一和をきめる
1603	8	2	江戸幕府開く



佐久市内　中世城・館跡（1:50,000）

調査概要

検出遺構

竪穴状遺構	5棟
土　　坑	14基
集　　石	8
溝 状 遺 構	3条

出土遺物

弥生式土器

土師器・須恵器片

かわらけ

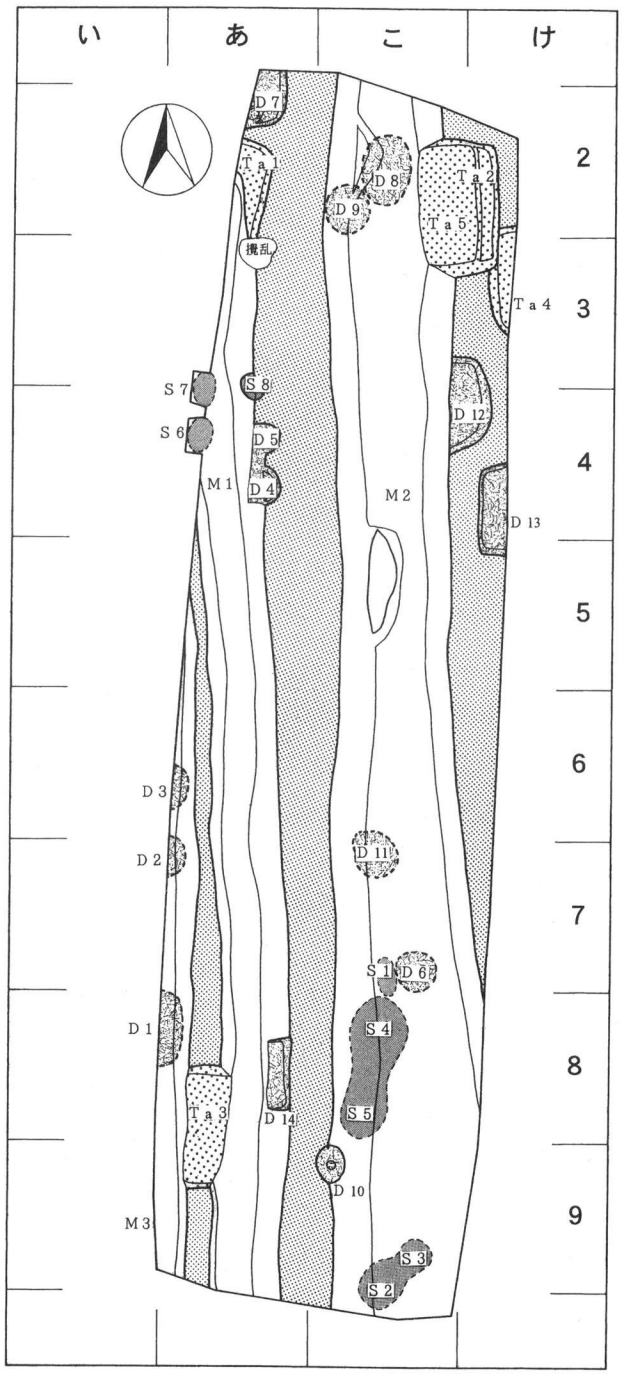
陶磁器片

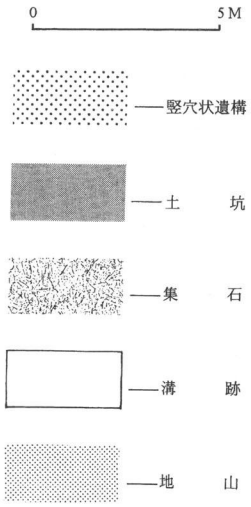
鉄製品（刀子・釘）

石製品（石臼・多宝塔・五輪塔）

羽口

古銭





菅田遺跡Ⅴ遺構配置図（1:200）

遺　構

今回、菅田遺跡Ｖの調査によって、竪穴状遺構５棟、土坑14基、溝跡３条が確認された。竪穴状遺構は竪穴建物址・竪穴遺構とも称し、中世期の遺跡から検出される代表的な遺構の一つである。形態は方形、長方形が中心で、その規模は１辺２ｍ前後から時には10ｍを超す大型のものも確認されている。遺構内部には柱穴を持ち建物址と考えられるものも多いが、中には使用目的が不明なものもある。しかし、基本的には建物址とされ、その目的は従属的人々の住居・兵事の簡易住居・季節的な住居・貯蔵庫・作業場・集会所などと考えられている。本遺跡からは５棟の竪穴状遺構が検出され、形態は方形・長方形を基本とし深さは0.28ｍ～0.84ｍを測り、壁面はやや外形気味に立ち上がる。遺物は、Ｔａ１からかわらけ、香炉が出土した。

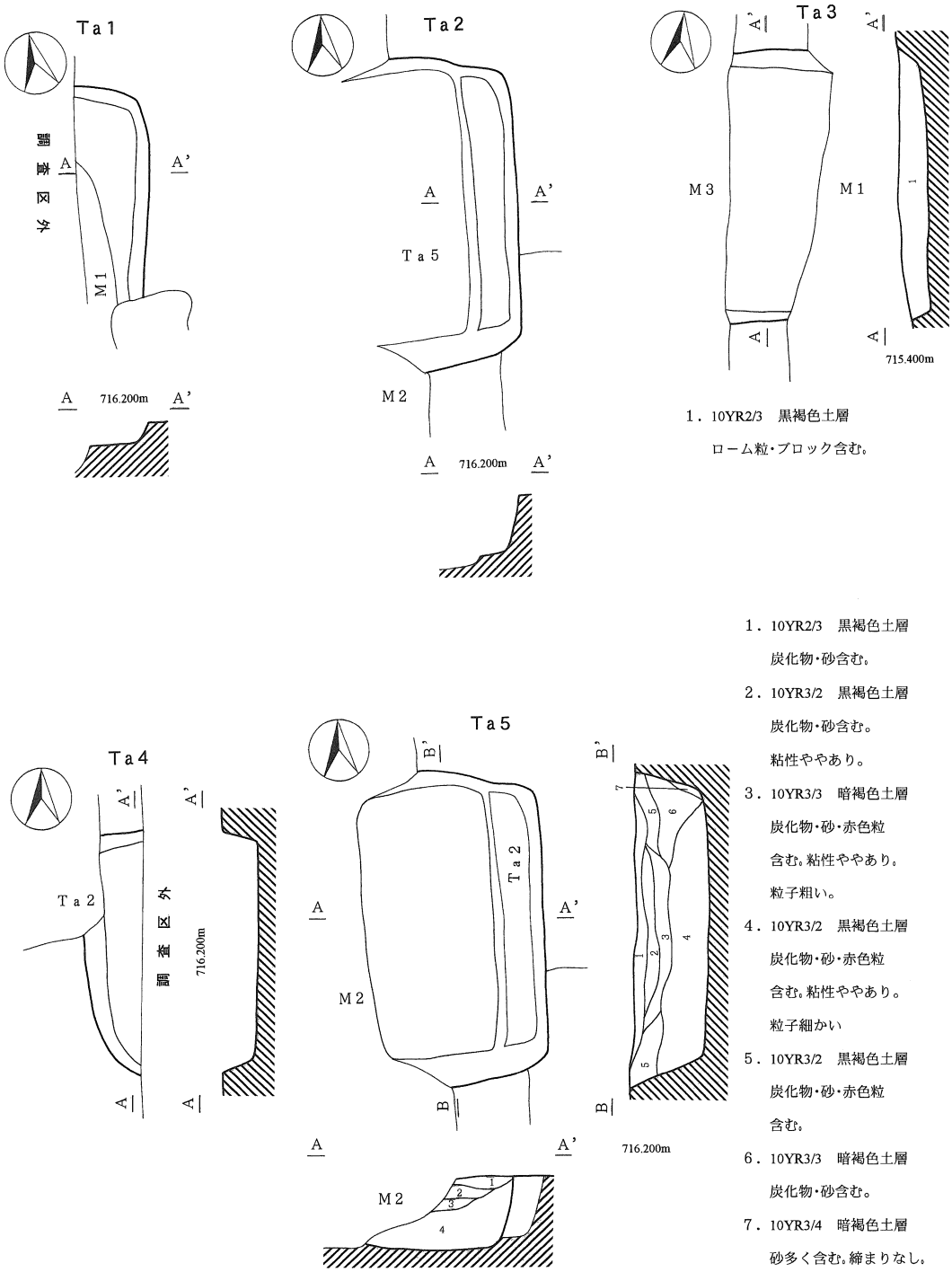
菅田遺跡Ｖ全景

土坑は14基が検出され、形態は円形・方形・楕円形がある。Ｄ５・８・９には集石が認められた。遺物はＤ１・２・３・４・５・６・９・11・12・13からかわらけ、Ｄ５から蓋・磁器が出土した。

集石は土坑の一部とも考えられるが、今回は堀り込みが確認できなかったことから集石として取り扱う。Ｓ２の集石直下から火鉢、Ｓ４・５付近からかわらけが出土している。

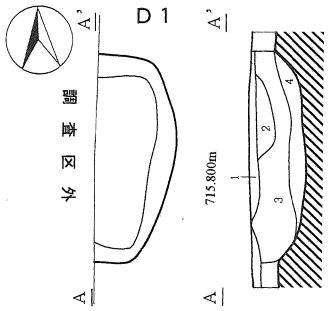
溝状遺構は南北方向に走る３条が認められた。Ｍ１は３条の内中央に位置し、その間隔はＭ２が0.8～1.2ｍ、Ｍ３は0.2～0.5ｍと近接している。幅は検出面で0.96～1.1ｍ、底で0.32～0.65ｍを測り、深さは調査区北端で0.72ｍ、南端で0.3ｍを測る。遺物は下層の底付近から弥生式土器、中層から上層にかけてかわらけ・陶器・磁器・五輪塔が出土している。Ｍ２はＭ１の東に位置し、３条中最大で、幅は検出面上で1.5～2.0ｍ、底で0.35～1.4ｍ、深さは北端で0.84ｍ、南端で0.5ｍを測る。遺物は下層の底付近の砂礫層内から数多くの弥生式土器が出土し、中層から上層にかけて多量のかわらけ、石臼などの遺物が出土した。Ｍ３は、Ｍ１の西、調査区西端に位置し、東壁付近の一部が調査可能であった。部分的調査のため規模の計測は不可能であった。

第１節　竪穴状遺構



竪穴状遺構実測図

第２節　土坑

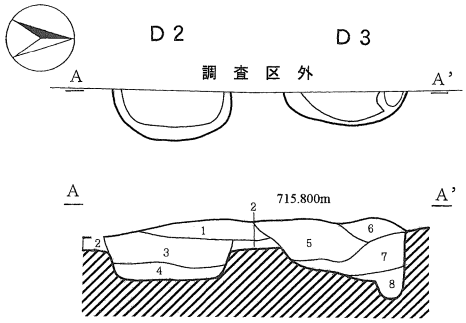


１．10YR3/4　暗褐色土層　ローム主体,軽石・黒色土・砂含む。

２．10YR3/4　暗褐色土層　ローム主体、軽石・砂・黒色土やや多く含む。

３．10YR4/3　鈍い黄褐色土層　ローム主体、軽石・砂含む。

４．10YR4/4　褐色土層　ローム主体、軽石・砂含む。



１．10YR2/3　黒褐色土層　ロームブロック含む。

２．10YR2/3　黒褐色土層　ロームブロック・炭化物含む。

３．10YR3/3　暗褐色土層　ロームブロック・黒色土・炭化物含む。

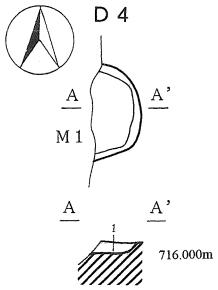
４．10YR3/2　黒褐色土層　ロームブロック・黒褐色土・炭化物含む。

５．10YR3/4　暗褐色土層　ローム多量・軽石・砂含む。

６．10YR4/3　鈍い黄褐色土層　ローム多量・軽石・砂含む。

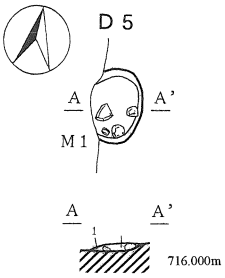
７．10YR4/4　褐色土層　ローム多量・軽石・砂含む。

８．10YR3/3　暗褐色土層　ローム多量・軽石・砂含む。



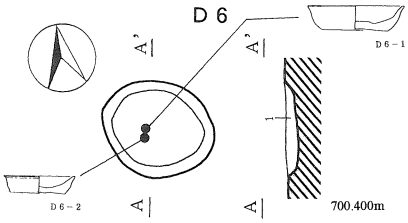
１．10YR2/3　黒褐色土層

ローム粒含むしまりあり。

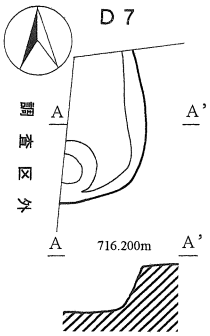


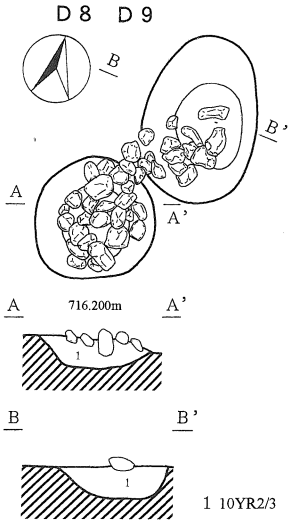
１．10YR2/3　黒褐色土層

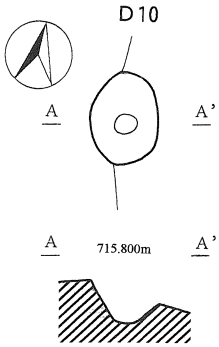
ローム粒含む。



１．10YR2/3　黒褐色土層　炭化物多く・焼土・砂含む。

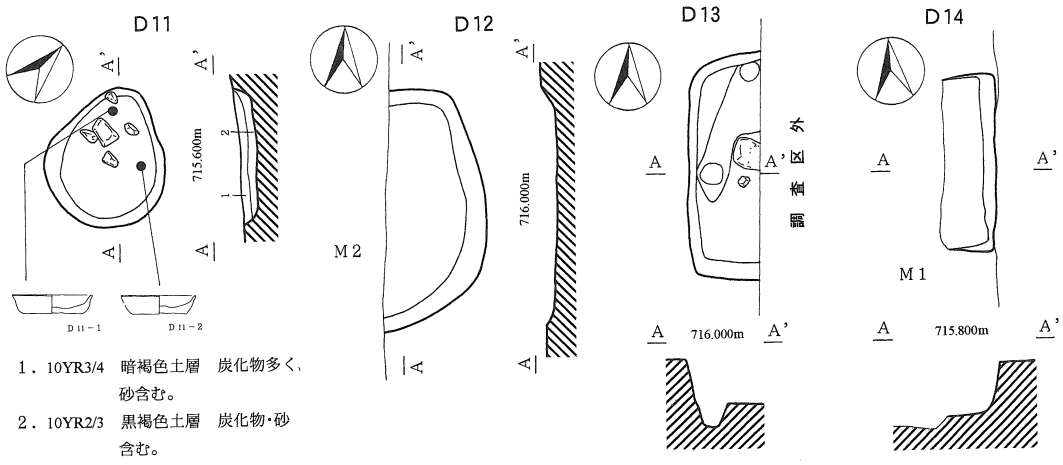






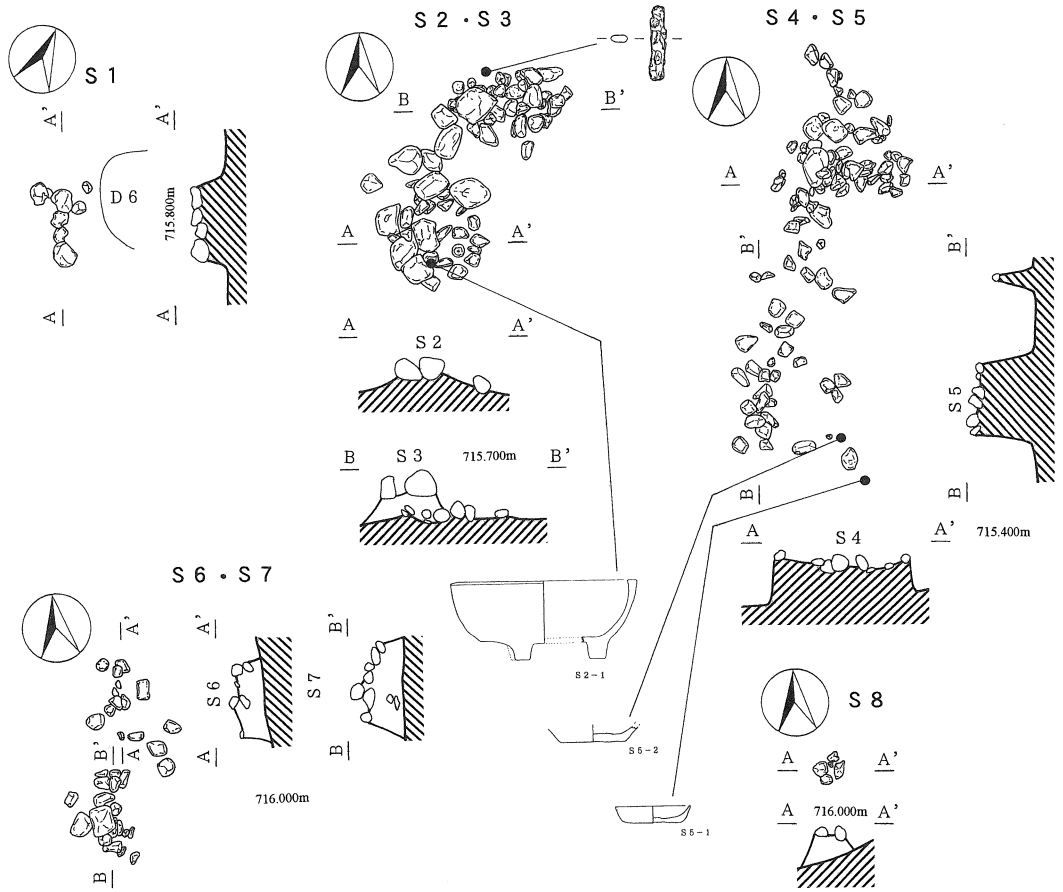
１ 10YR2/3　黒褐色土層　砂・炭化物含む。粘性ややあり。

土坑実測図（１）



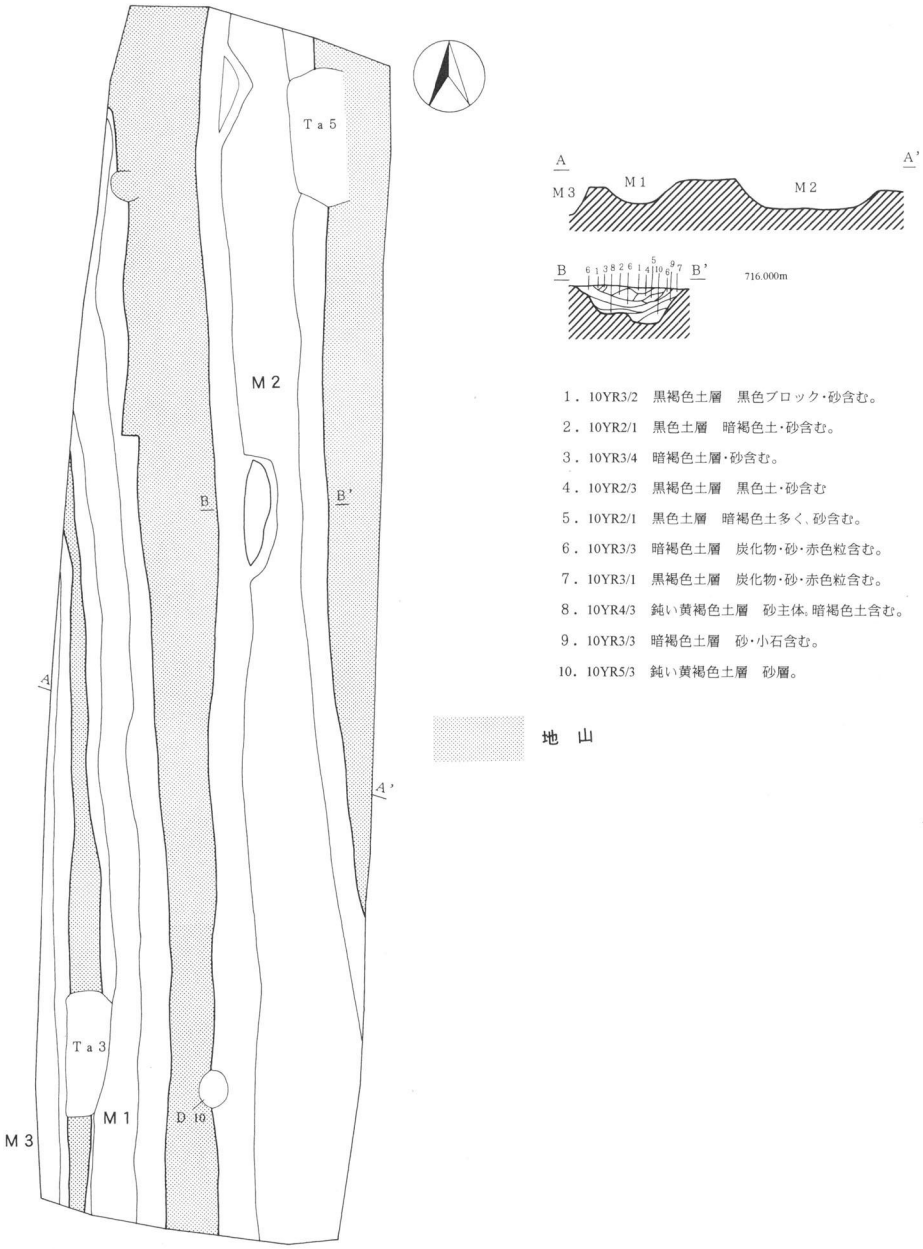
土坑実測図（2）

第3節　集石



集石実測図

第４節　溝状遺構



溝状遺構実測図

遺　物

本遺跡は現在龍雲寺敷地内となっており、また、遺跡の東に位置する湯川左岸の台地縁辺部には中世遺跡である大井城（北から石並城・王城・黒岩城を含め大井城と称す）が所在する。こうした周辺の状況も関係するためか、本遺跡からは中世及びそれ以降に使用されたと思われるかわらけと称する土師質の小型皿が溝状遺構から多量に出土した。佐久市ではこれほどのかわらけが遺構内から集中して出土した例は少ない。このほか中世以降の遺物は、香炉、火鉢、蓋、陶器、磁器、土鍋、石臼、石搗き臼、五輪塔、羽口、鉄製品（釘・刀子）、古銭が出土しているが数は少ない。原始・古代の遺物は、溝状遺構の底付近から弥生式土器片が出土した他、僅かな土師器・須恵器が認められた。

原始・古代の遺物

原始・古代の遺物は、弥生式土器及び僅かだが土師器・須恵器が認められた。遺物はＭ２からの出土が大半を占め、弥生式土器は底面付近の砂礫層内から出土し、壺・甕・高坏が存在する。表面には櫛描文、赤色塗彩などが施される。弥生時代後期の特徴を有する。土師器・須恵器は中間・上層の暗褐色土層中から僅かに出土した。流れ込みの可能性が高い。

中世の遺物

中世及びそれ以後と考えられる遺物はかわらけ、香炉、火鉢、陶磁器、石臼、石搗き臼、五輪塔、多宝塔、鉄製品、古銭が出土した。特にかわらけはＭ２（中層～上層）から多量に出土している。

かわらけは素焼きの小型皿で、食器・灯明皿または祭祀に使用されたと考えられ、本遺跡では、竪穴状遺構（Ｔａ）、土坑（Ｄ）、溝跡（Ｍ）から出土した。図示したのは104点であるが、他に図示し得ない破片も多数出土している。すべて轆轤成形され、底部は平底の回転糸切り痕を残すものであり、本遺跡の南東300ｍ付近において昭和59年度に調査された大井城跡及び、昭和63年・平成元年に小田井工場団地造成事業に伴い行われた金井城跡などの調査によって出土したものと形態・法量など非常に酷似している。また中には色調が灰白色で、器厚は薄く、粒子の細かい表面がなめらかなものも含まれ、これも僅かだが他の中世遺跡に認めることができる。これは、当時一般に使用されていた赤かわらけに対し、高価であったとされる白かわらけである可能性が考えられる。

器形は赤褐色のかわらけが底部からやや内湾気味に立ち上がり、体部途中で明瞭な稜を持ち外反するもの（Ａ）と、底部からやや丸みをおび立ち上がり、体部中央付近において僅かに外反し口縁に至るもの（Ｂ）、底部からほぼ直線的に口縁部に至るもの（口縁間近でやや外反するものも含む）（Ｃ）、底部からやや内湾気味に立ち上がり、そのまま口縁に至るもの（Ｄ）の４種に大別

できる。（一部例外あり）法量は口径7.3cm～8.9cm、器高2.3cm内外の小型品、口径9.0cm～11.9cm、器高2.5cm 内外の中型品、口径12.0cm を越え、器高2.7cm 内外の大型品に大別できる。灰白色のかわらけは底部から開き気味に立ち上がり口縁端部付近において大きく外反するもの（E）と、底部からわずか高台状に立ち上た後やや開き気味に口縁部に至るもの（F）、小型で底部から内椀気味に立ち上がるもの（G）の３種が存在し、法量は口径7.56cm ～13.8cm、器高5.5cm ～7.7cm、底径2.6cm ～3.3cm を測り、比較的口径の大きいものが目立つ。　（P72－表参照）

香炉はＴａ１から１点出土し、底部に半球形の独立脚が３本つく。香炉で脚のつくものは金井城に類例が認められるが、本遺跡出土の香炉は、金井城が口径13cm内外に対し、口径約18cmと大型である。

火鉢は集石２の礫直下から押しつぶされた状態で出土し、口径約39cm、器高16cm（脚高3.5cm）、底径26cm を測り、底部に円柱状の脚が３本つくものと、Ｍ２から出土した口縁部付近の破片で口縁外面に雷紋状の文様がめぐらされる２種が出土した。

蓋はＭ２の中間層から出土している。形態は下部中央に宝珠状の突起を持つ。骨壺などの蓋の可能性が考えられる。

陶器・磁器は中世・近世が認められる。中世では常滑の甕・瀬戸の椀・青磁・産地不明品、近世は瀬戸が中心で鉢・椀・壺が出土し、他に青磁・産地不明品が認められる。

石臼は多孔質安山岩製の小破片が１点、Ｍ２から出土した。放射状の分画が認められるが、画数は不明である。また、僅かに上縁と思われる段が認められることから上臼と考えられる。

石搗き臼は多口質安山岩製でＤ８の集石に転用されていた。形態は搗き部が深く、底部に窪みを持つため底の厚みは薄い。本製品は底部が突き抜けた状態であることから、使用に耐えられなくなり、破壊し廃棄したものと考えられる。

五輪塔はＭ１から多孔質安山岩製の最上部空風輪が出土した。

多宝塔は検出時に安山岩製の最上部１点が出土した。

羽口はＭ２から２点出土した。破損品である。１つは先端部の一部で、送風の際付着したものか鉱滓の付着が認められる。もう一点も先端部だが、最先端は僅かに欠損している。付近に製鉄関連遺構の存在が伺われる。

鉄製品は角釘・刀子片が出土した。

古銭は検出時に「元豊通宝」、Ｍ１から「聖宋元宝」、Ｍ２から「皇宋通宝」の３枚が出土した。すべて北宋銭で平安後期、日本国内に多量に流入し中世期の国内にて多数認められた貨幣である。

以上が、菅田遺跡Ｖ出土遺物であるが、弥生時代の遺物が溝底面から多数出土した以外は、大半が中世あるいはそれ以降と思われる遺物であった。特にかわらけは溝を中心に竪穴状遺構、土坑から出土している。ここで、資料の豊富なかわらけの年代について考えてみたい。菅田遺跡に

おいては、この年代を引き出す対比資料が乏しいことから、本遺跡出土のかわらけと非常に酷似し、位置的にも近接した大井城跡を参考にしたい。佐久市教育委員会発行の報告書大井城跡（黒岩城跡）では大井城跡のかわらけは、同遺跡出土の国産陶器の年代に注目し、16世紀の製品が最も多く出土していることから16世紀代と推定している。さらにかわらけの編年が整備されている鎌倉を例に取り、類似するものが15世紀後半から16世紀に出現することを付け加え、「漠然とではあるが、大井城跡出土の土師質土器小皿の年代が16世紀代であることが分かってきた。」と結論付けている。これらの状況から、大井城跡と非常に近い位置にあり、形態等の特徴が酷似する菅田遺跡出土のかわらけも16世紀代と考えるのが妥当と思われる。

このように周辺から出土したかわらけの年代を考え合わせると、菅田遺跡Ⅴのかわらけの年代は16世紀代に落ち着くが、資料に乏しいこの時代の遺物については、必ずしも正確な年代と確定できない。今後のさらなる資料の蓄積・編年の整備が必要と思われ、再度遺物の検討を行う必要もあろう。

M2号溝状遺構出土かわらけ

これらの出土遺物から遺跡の性格を考えると、溝状遺構に関しては下層から弥生式土器、中・上層からかわらけが多数認められることにより、この地には原始古代から南北方向にのびる溝的なものが存在し、中世のある時期まで痕跡をとどめていたとおもわれる。その後、かわらけが投げ込まれ、いつしか埋め戻され竪穴状遺構、土坑といった新たな土地利用が行われたのではないだろうか。遺跡付近に所在する龍雲寺が、創建時の端下平という地積から明応三年（1494）に現在地に移転してきた時期が、十五世紀末と本遺跡から多量に出土したかわらけの使用されていたと思われる十六世紀代の直前ということは非常に興味く、本遺跡と何か深い関係がありそうだ。今後は、龍雲寺・大井城など遺跡周辺の歴史的背景をふまえて遺跡の性格を考察してゆく必要があると考える。

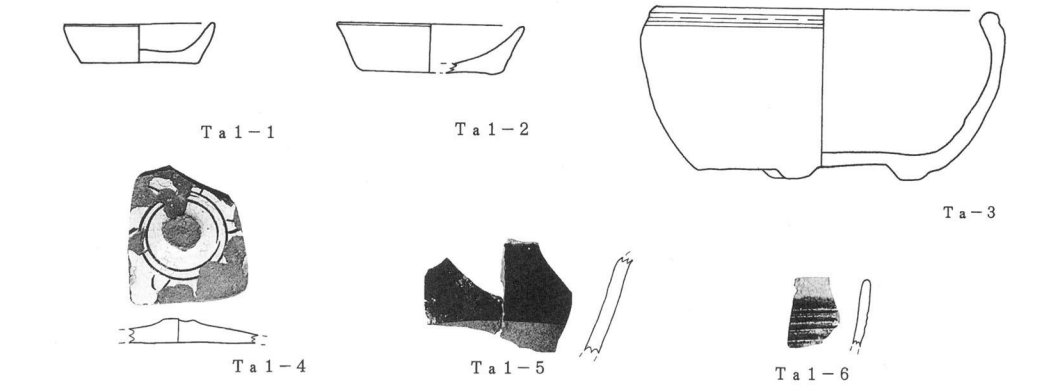
種類	A　底部からやや内椀気味に立ち上がり、体部途中で明瞭な稜を持ち外反する	B　底部からやや丸みをおび立ち上がり、体部中央付近において僅かに外反する	C　底部からほぼ直線的に口縁部に至る（口縁間近でやや外反するものも含む）	D　底部からやや内椀気味に立ち上がり、そのまま口縁に至る
図				
小型品	D6－2　D11－3. 5　M2－3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 12	D11－2. 4 S5－1 ケン－2 M2－1. 2. 10. 11. 17 18. 19. 20. 21	M2－22. 14	D1－1　Ｔａ1－1　S4－1　M2－13. 16
中型品	D6－1　D11－6. 9　M2－27. 39. 41. 50	D4－2 D9－1 D12－1 ケン－3.4.7.9.10 M2－23. 25.26.28.29.31.32.33.34.37.38.42.44.47.48.49	D4－2. 4　D9－1　D11－8　D13－1 M2－30. 35. 36. 43　Ｔａ1－2　ケン－1	D13－2　ケン－5. 6　M2-15. 45. 46
大型品	D11－7	M2-51. 52	M2－53. 54. 55	

種類	E　底部から開き気味に立ち上がり口縁端部付近にて大きく外反する（灰白色）	F　底部からわずか高台状に立ち上がった後やや開き気味に口縁部に至る（灰白色）	G　器形が小型で底部から内椀気味に立ち上がる（灰白色）
図			
小型品			ケン－8
中型品		D3－1　M2－64	
大型品	D2－1　D11－10　M2－65. 66. 67		

D1－1　口径　　～8. 9cm
中型品　口径9. 0cm ～11. 9cm
大型品　口径12. 0cm 以上

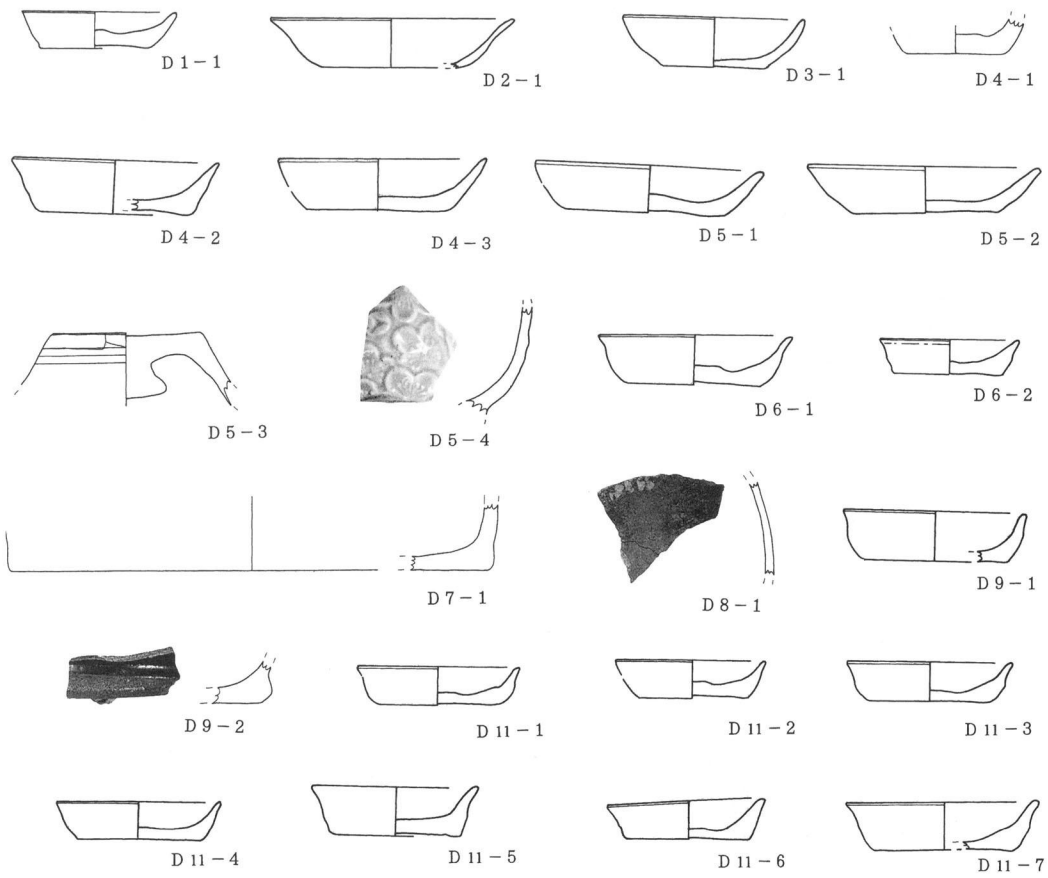
第１節　土　器・かわらけ・陶磁器

竪穴状遺構

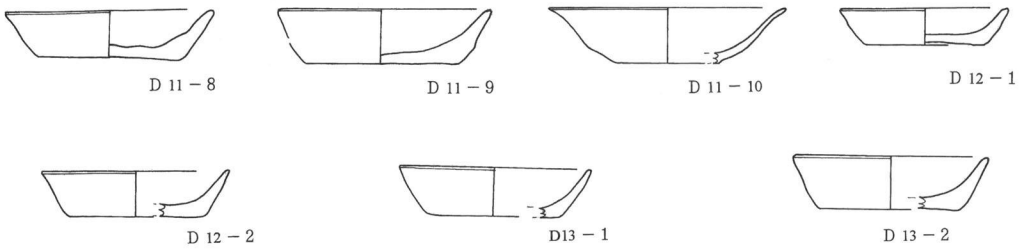


竪穴状遺構出土遺物実測図

土　坑

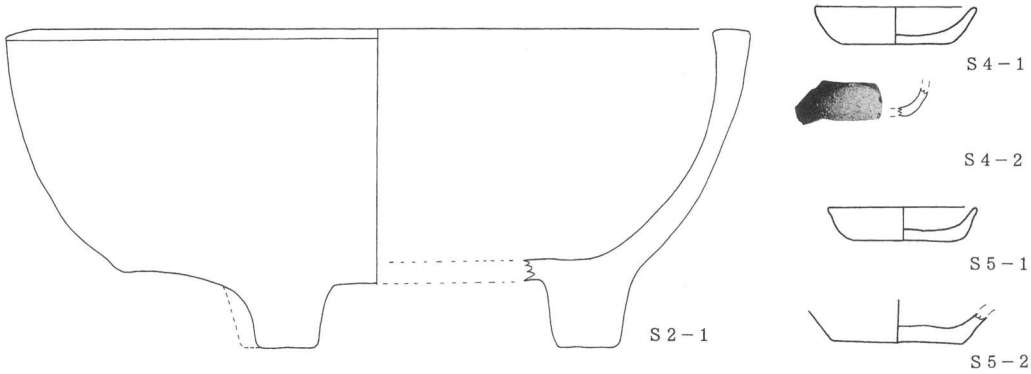


土坑出土遺物実測図（１）



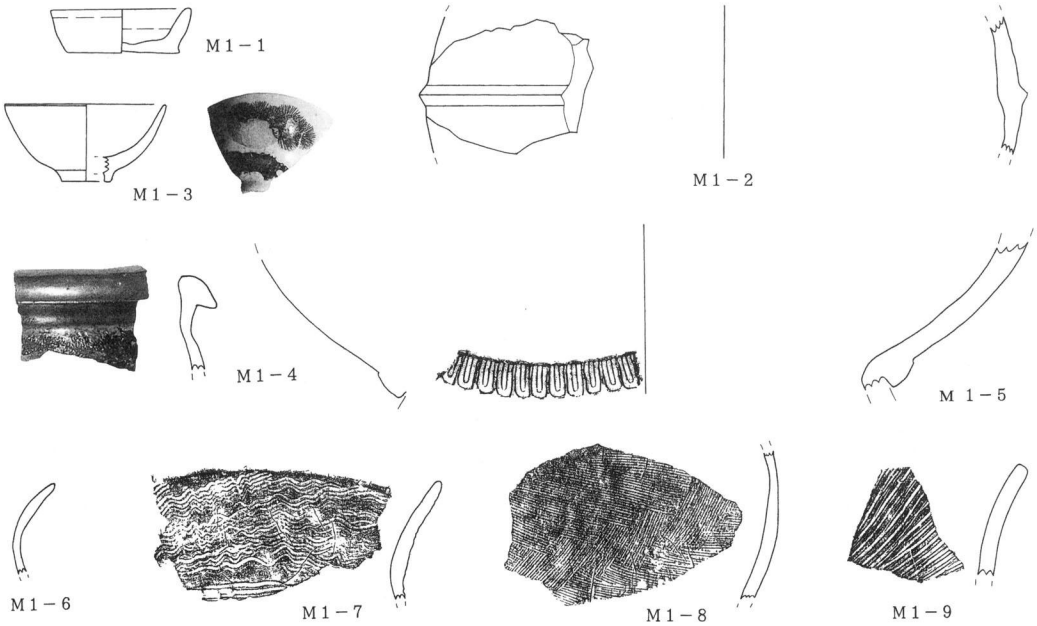
土坑出土遺物実測図（2）

集　石

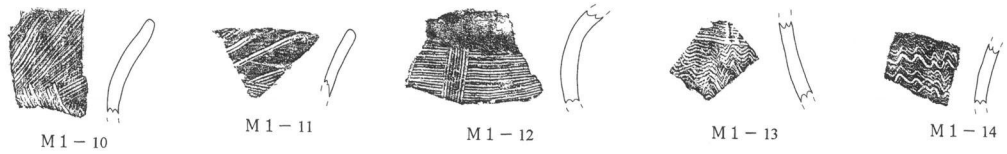


集石出土遺物実測図

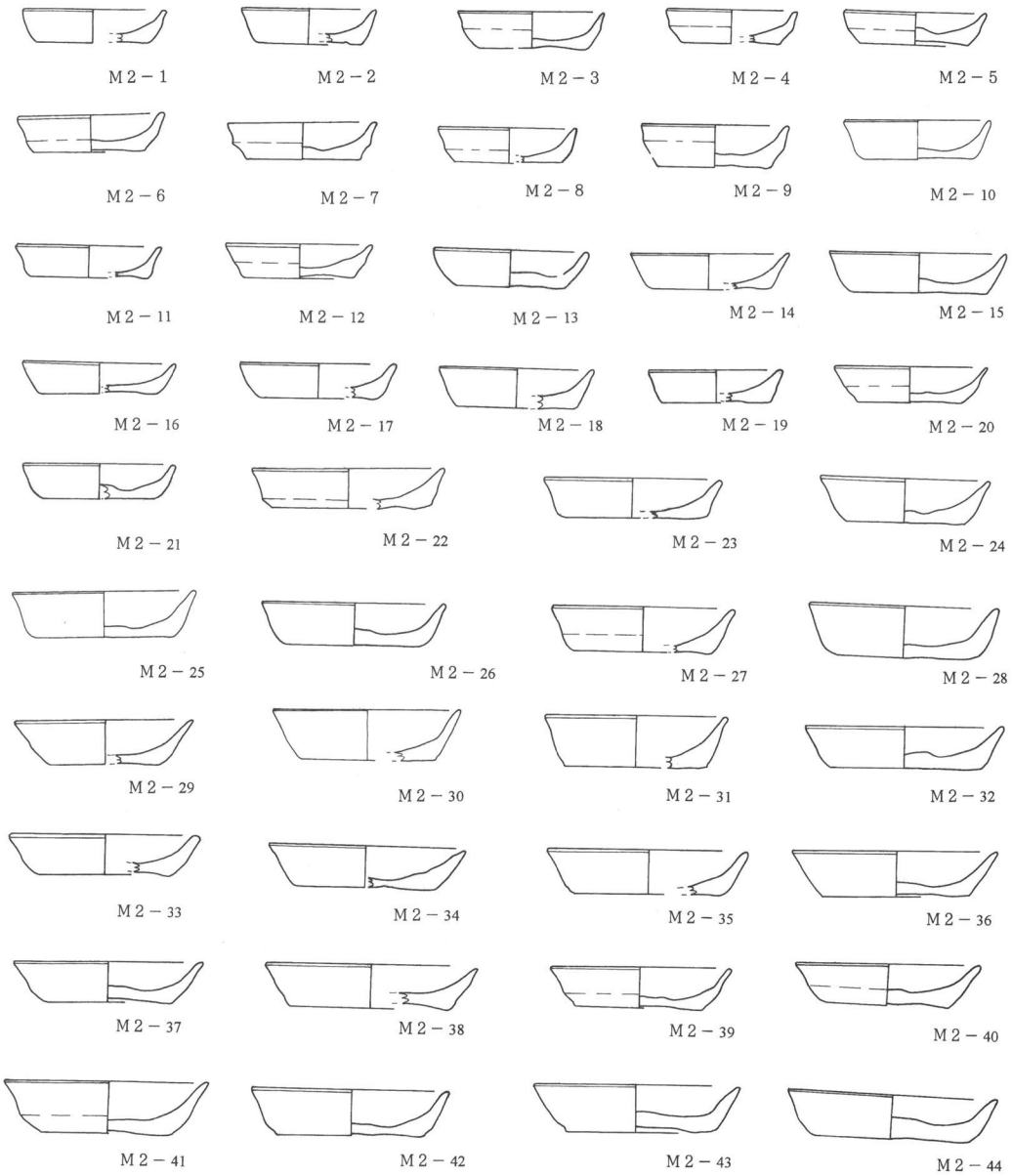
溝状遺構



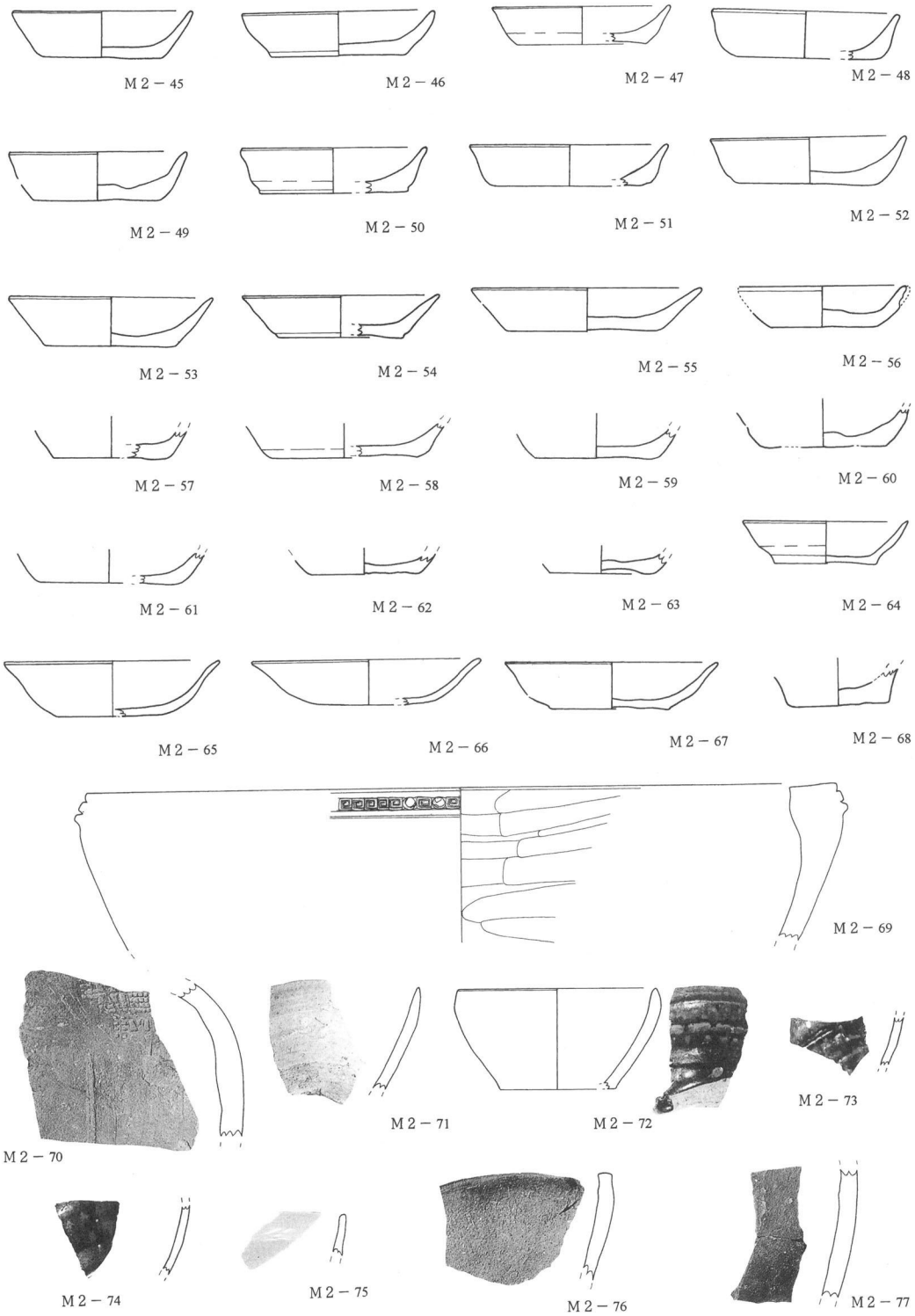
Ｍ１号溝状遺構出土遺物実測図（1）



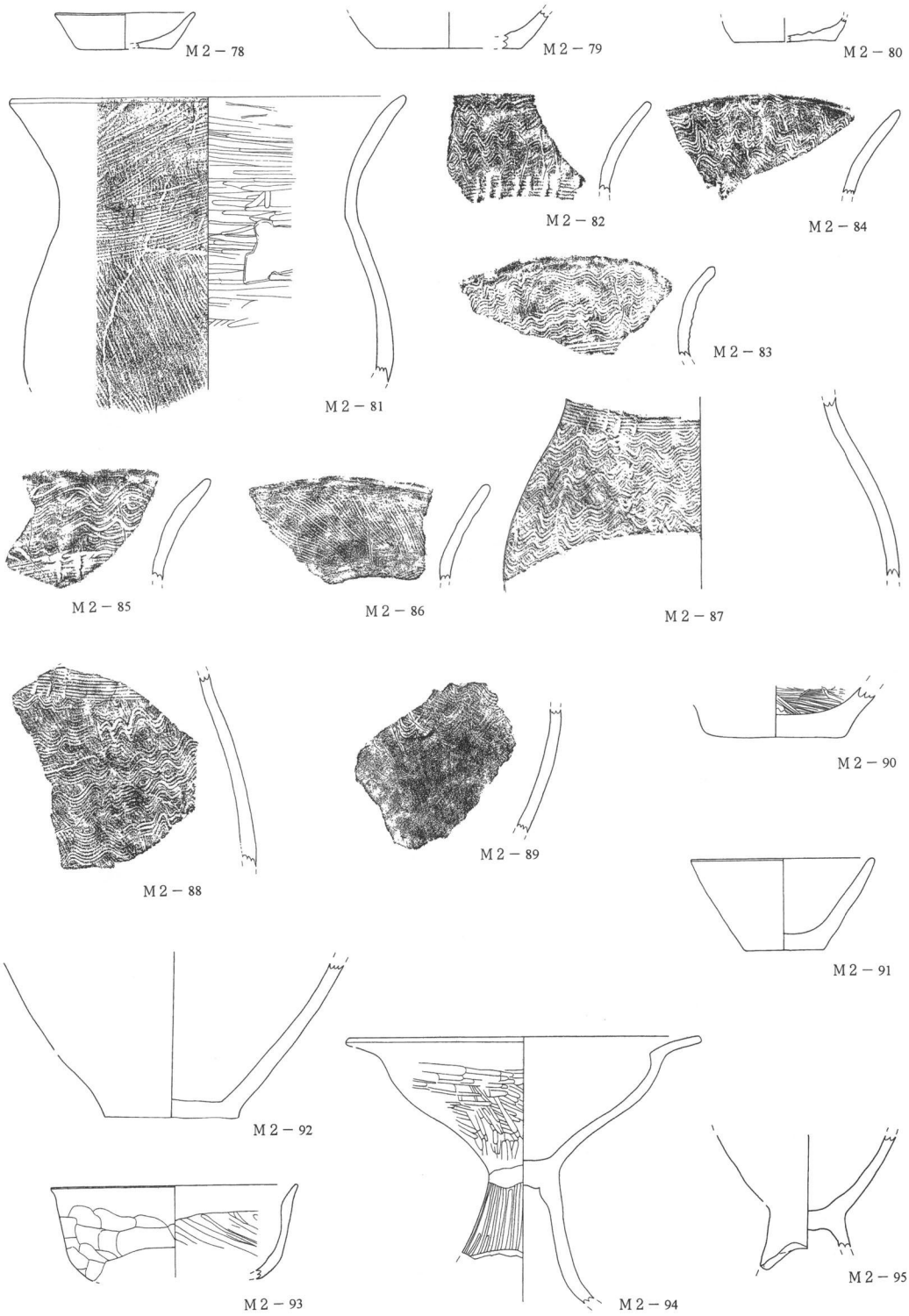
M１号溝状遺構出土遺物実測図（２）



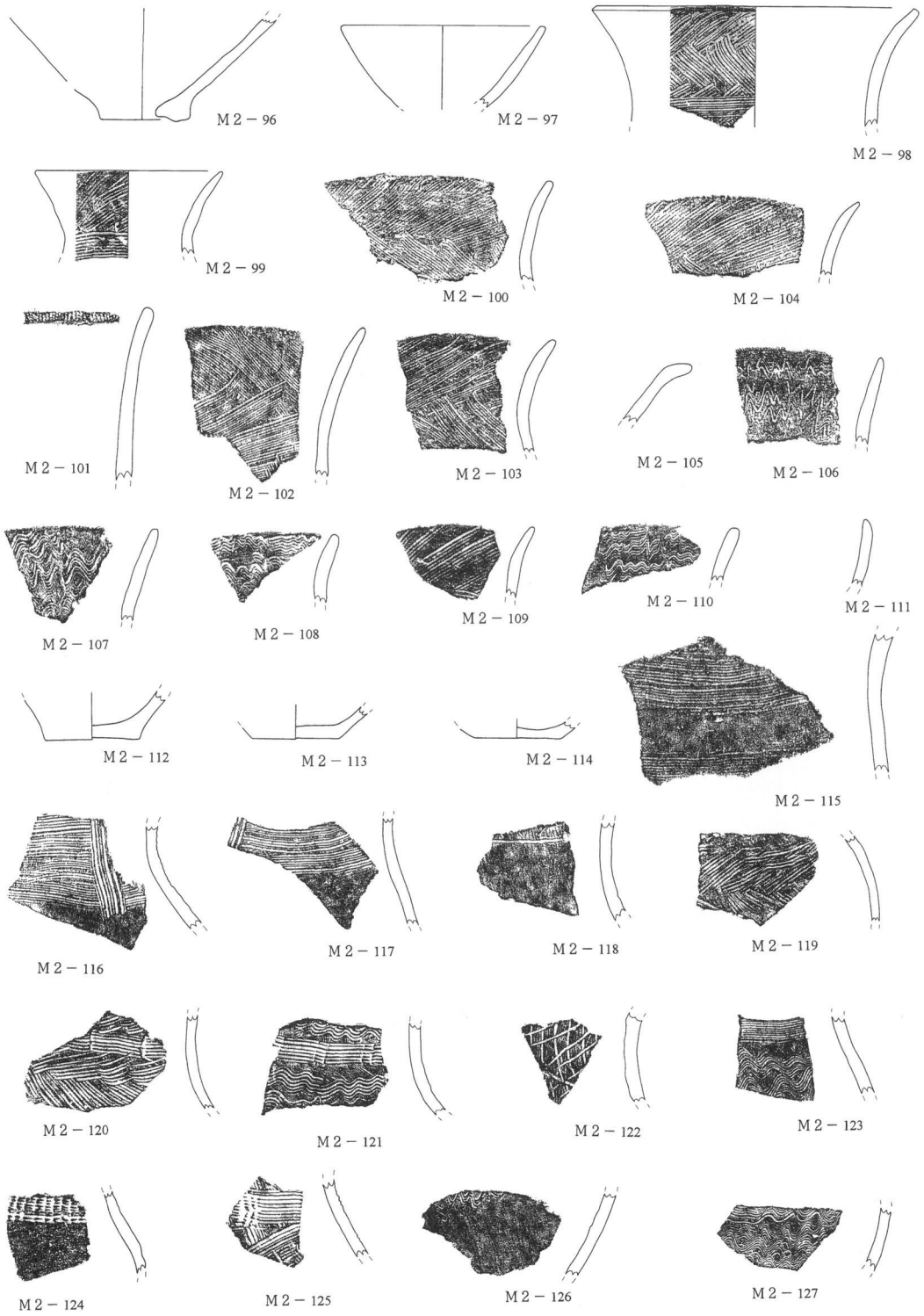
M２号溝状遺構出土遺物実測図（１）



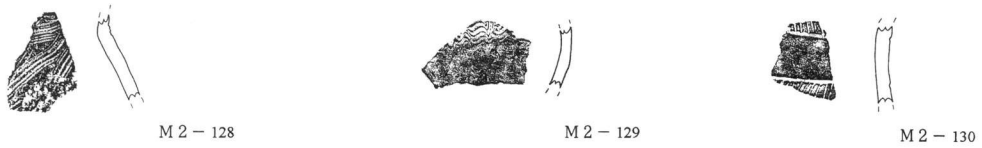
M２号溝状遺構出土遺物実測図（２）



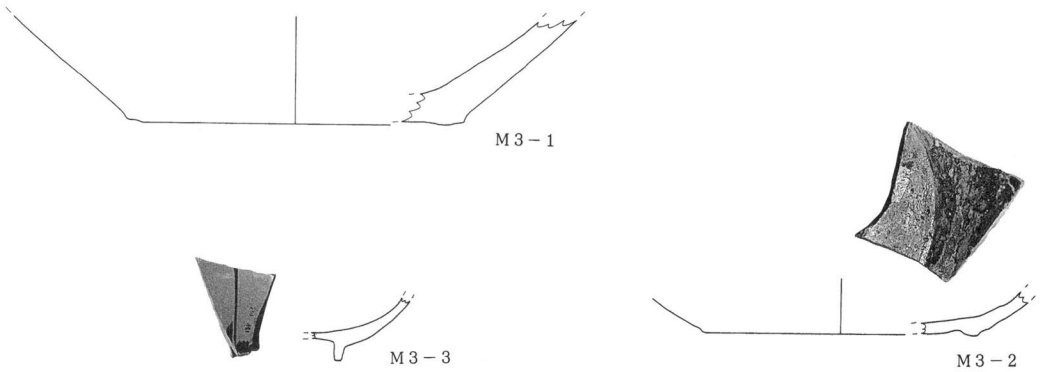
M２号溝状遺構出土遺物実測図（３）



M２号溝状遺構出土遺物実測図（４）

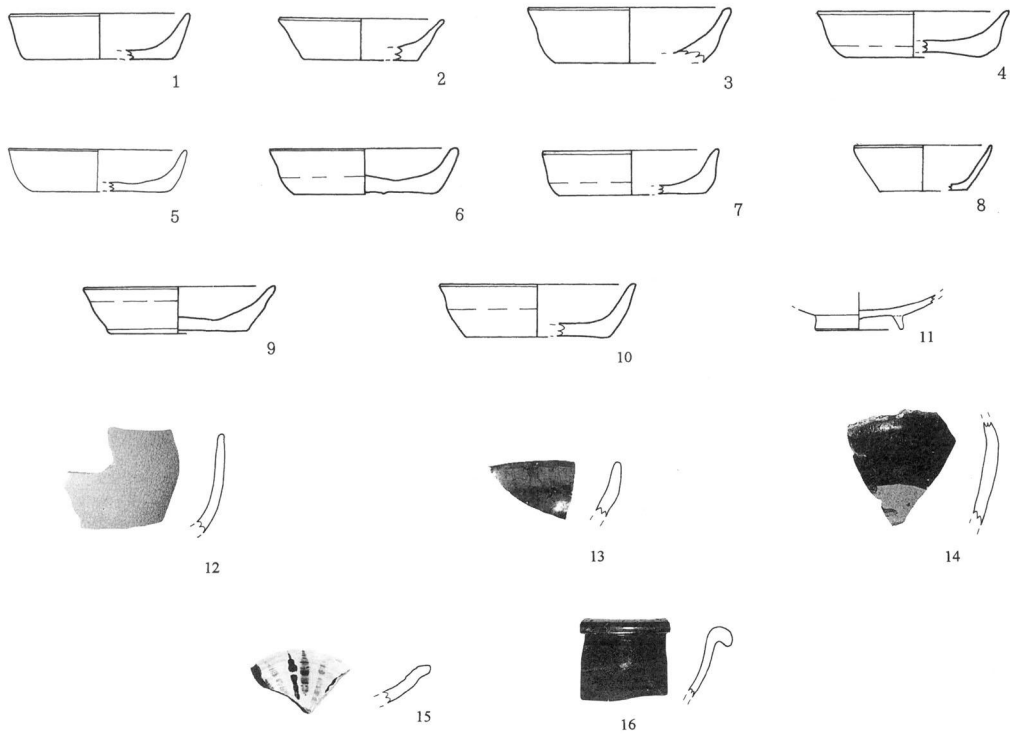


Ｍ２号溝状遺構出土遺物実測図（５）



Ｍ３号溝状遺構出土遺物実測図

遺構外出土遺物（検出）



遺構外出土遺物実測図

遺構名・No.	器種・器形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
Ｔａ１－１	かわらけ 小型皿	(8.0)	(6.2)	2.0	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	7.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
Ｔａ１－２	かわらけ 小型皿	(10.0)	(7.0)	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	10	良好	10Ｒ４／３ 褐色	
Ｔａ１－３	土師質土器 香炉	18.0	12.7	9.1	底部独立脚張り付け（３脚）	70	良好	10ＹＲ６／３ 鈍い黄橙色	
Ｔａ１－４	陶器 蓋	－	－	－		破片	良好	7.5ウＲ６／３ 鈍い褐色	近世
Ｔａ１－５	瀬戸 鉢	－	－	－		体部破片	良好	10ＹＲ４／４ 褐色	近世
Ｔａ１－６	瀬戸 椀	－	－	－		口縁破片	良好	7.5ＹＲ４／４ 褐色	近世

竪穴状遺構出土遺物観察表

遺構名・No.	器種・器形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
Ｄ１－１	かわらけ 小型皿	(8.3)	5.8	1.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	50	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
Ｄ２－１	かわらけ 小型皿	(12.3)	(7.7)	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	10ＹＲ８／２ 灰白色	
Ｄ３－１	かわらけ 小型皿	(9.7)	(5.6)	2.4	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好		
Ｄ４－１	かわらけ 小型皿	－	5.3	－	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	2.5ＹＲ６／６ 橙色	
Ｄ４－２	かわらけ 小型皿	(11.0)	(7.8)	2.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	35	良好	５ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
Ｄ４－３	かわらけ 小型皿	(11.1)	7.6	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	50	良好	7.5ＹＲ６／３ 鈍い褐色	
Ｄ５－１	かわらけ 小型皿	－	8.4	－	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	70	良好	7.5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
Ｄ５－２	かわらけ 小型皿	12.5	7.8	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	80	良好	7.5ＹＲ８／４ 浅黄橙色	黒色部多
Ｄ５－３	土師質土器 蓋	8.0	－	3.9	底部周辺　ヘラ削り 内外面　ロクロヨコナデ	80	良好	7.5ＹＲ２／１ 黒色	
Ｄ５－４	青磁 瓶子	－	－	－		体部破片	良好	５Ｇ７／１ 明緑灰色	中世
Ｄ６－１	かわらけ 小型皿	10.3	7.1	2.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	99	良好	５ＹＲ７／８ 橙色	
Ｄ６－２	かわらけ 小型皿	7.6	5.8	1.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	85	良好	10ＹＲ８／３ 浅黄橙色	
Ｄ７－１	土師質 土鍋	－	(25.6)	－		底部付近 破片	良	7.5ＹＲ２／１ 黒色	
Ｄ８－１	陶器 不明	－	－	－		体部破片	良	7.5ＹＲ３／１ 黒褐色	近世
Ｄ９－１	かわらけ 小型皿	(9.8)	(7.4)	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
Ｄ９－２	陶器 壺	－	－	－		底部破片	良好	５ＹＲ３／６ 暗赤褐色	近世
Ｄ11－１	かわらけ 小型皿	(8.6)	6.2	2.0	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	70	良好	7.5ＹＲ７／６ 橙色	
Ｄ11－２	かわらけ 小型皿	(8.0)	5.7	2.0	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	80	良好	５ＹＲ７／６ 橙色	
Ｄ11－３	かわらけ 小型皿	(8.8)	(6.4)	2.1	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	45	良好	５ＹＲ７／６ 橙色	
Ｄ11－４	かわらけ 小型皿	(8.6)	(6.4)	2.0	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
Ｄ11－５	かわらけ 小型皿	(8.9)	(6.6)	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	20	良好	7.5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
Ｄ11－６	かわらけ 小型皿	8.5	6.3	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	70	良好	7.5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
Ｄ11－７	かわらけ 小型皿	10.3	7.5	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	80	良好	7.5ＹＲ７／６ 橙色	
Ｄ11－８	かわらけ 小型皿	11.1	7.4	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	80	良好	５ＹＲ７／６ 橙色	
Ｄ11－９	かわらけ 小型皿	(11.2)	8.0	2.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	70	良好	7.5ＹＲ８／３ 浅黄橙色	
Ｄ11－10	かわらけ 小型皿	(12.6)	(5.4)	2.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	10	良好	10ＹＲ７／１ 灰白色	

土坑出土遺物観察表（１）

遺構名・No.	器種・器形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
D 12－ 1	かわらけ 小型皿	9.0	6.3	2.0	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	80	良好	7.5 Y R 7／3 鈍い橙色	
D 12－ 2	かわらけ 小型皿	(10.0)	(6.2)	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5 Y R 6／6 橙色	
D 13－ 1	かわらけ 小型皿	(10.2)	(7.0)	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	10	良好	7.5 Y R 5／3 鈍い橙色	
D 13－ 2	かわらけ 小型皿	(10.4)	(6.6)	2.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	7.5 Y R 6／6 鈍い橙色	

土坑出土遺物観察表（2）

遺構名・No.	器種・器形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
S 2 － 1	土師質土器 火鉢	40.0	16.8	27.4	脚張り付け	45	良好	10 Y R 1.7／1 黒色	
S 4 － 1	かわらけ 小型皿	8.5	5.8	1.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	90	良好	5 Y R 7／4 鈍い橙色	
S 4 － 2	瀬戸 鉄釉小壺	－	－	－	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	底部付近 破片	良好	2.5 Y 3／1 黒褐色	
S 5 － 1	かわらけ 小型皿	8.4	6.0	1.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り		良好	5 Y R 7／4 鈍い橙色	
S 5 － 2	かわらけ 小型皿	－	(6.8)	－	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	底部破片	良好	5 Y R 6／6 橙色	

集石出土遺物観察表

No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
1	かわらけ	小型皿	8.0	8.3	2.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	100	良	7.5 Y R 8／6 浅黄橙色	
2	陶器	不明	－	－	－	鍔張り付け	体部破片	良	5 Y R 6／3 鈍い橙色	中世
3	磁器		(8.6)	(2.6)	4.1		20	良好	白色	
4	陶器	壺	－	－	－		口縁破片	良好	5 Y R 3／6 暗赤褐色	近世
5	瓦質土器	手焙	－	－	－	内面　ヘラナデ	体部破片	良好	7.5 Y R 2／1 黒色	中世
6	弥生式土器		－	－	－	内外面　ミガキ	口縁の 一部	良	5 Y R 4／4 鈍い赤褐色	内外面 赤色塗彩
7	弥生式土器		－	－	－	外面　櫛描波状文	口縁破片	良	5 Y R 4／4 鈍い赤褐色	
8	弥生式土器		－	－	－	外面　櫛描き文	体部破片	良	7.5 Y R 6／4 鈍い橙色	
9	弥生式土器		－	－	－	外面　櫛描き文	口縁破片	良	7.5 Y R 7／6 橙色	
10	弥生式土器		－	－	－	外面　櫛描き文	口縁破片	良	7.5 Y R 6／4 鈍い橙色	
11	弥生式土器		－	－	－	外面　ヘラ描き文	口縁破片	良	7.5 Y R 6／6 橙色	
12	弥生式土器		－	－	－	外面　櫛描き文	頸部破片	良	10 R 5／6 赤色	外面 赤色塗彩
13	弥生式土器		－	－	－	外面　簾状文　櫛描波状文 内面　ミガキ	頸部破片	良	5 Y R 5／4 鈍い赤褐色	
14	弥生式土器		－	－	－	外面　櫛描波状文 内面　ミガキ	体部破片	良	5 Y R 5／4 鈍い赤褐色	

M 1 号溝状遺構出土遺物観察表

No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
1	かわらけ	小型皿	(7.7)	(6.2)	1.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	7.5 Y R 4／4 褐色	
2	かわらけ	小型皿	(7.4)	(5.3)	1.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	5 Y R 4／6 赤褐色	
3	かわらけ	小型皿	8.0	5.6	1.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	55	良好	5 Y R 6／6 橙色	
4	かわらけ	小型皿	(7.2)	(5.4)	1.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	5 Y R 7／6 橙色	
5	かわらけ	小型皿	7.9	6.0		内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	90	良好	5 Y R 7／4 鈍い橙色	
6	かわらけ	小型皿	8.0	6.0	1.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	90	良好	5 Y R 7／4 鈍い橙色	

M 2 号溝状遺構出土遺物観察表（1）

No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
7	かわらけ	小型皿	8.0	6.2	2.1	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	80	良好	7.5ＹＲ７／３ 浅黄橙色	
8	かわらけ	小型皿	(7.6)	(5.9)	1.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	５ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
9	かわらけ	小型皿	(8.1)	6.2	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	50	良好	7.5ＹＲ７／６ 橙色	
10	かわらけ	小型皿	(8.0)	(6.0)	2.1	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	５ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
11	かわらけ	小型皿	(8.0)	(6.4)	1.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
12	かわらけ	小型皿	8.1	6.2	1.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	95	良好	10ＹＲ８／３ 浅黄橙色	
13	かわらけ	小型皿	(8.0)	(5.8)	1.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	7.5ＹＲ７／３ 鈍い橙色	
14	かわらけ	小型皿	(8.6)	(6.6)	2.0	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
15	かわらけ	小型皿	(8.6)	(6.3)	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	５ＹＲ６／８ 橙色	
16	かわらけ	小型皿	8.4	6.3	1.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	50	良好	５ＹＲ６／８ 橙色	
17	かわらけ	小型皿	(8.4)	(6.4)	1.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	20	良好	５ＹＲ５／８ 明赤褐色	
18	かわらけ	小型皿	(8.4)	(6.6)	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
19	かわらけ	小型皿	(7.3)	(5.8)	1.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ７／６ 橙色	
20	かわらけ	小型皿	8.4	5.7	2.1	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	80	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
21	かわらけ	小型皿	(8.4)	(6.0)	1.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	35	良好	５ＹＲ６／８ 橙色	
22	かわらけ	小型皿	(9.0)	(6.5)	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	５ＹＲ７／３ 鈍い橙色	
23	かわらけ	小型皿	(9.5)	(7.2)	2.1	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
24	かわらけ	小型皿	(9.3)	6.8	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	50	良好	7.5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
25	かわらけ	小型皿	(10.5)	(7.6)	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
26	かわらけ	小型皿	(10.0)	(7.0)	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
27	かわらけ	小型皿	(10.0)	(7.5)	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	20	良好	５ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
28	かわらけ	小型皿	(10.4)	(6.8)	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
29	かわらけ	小型皿	(9.7)	(6.0)	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	7.5ＹＲ６／３ 鈍い褐色	
30	かわらけ	小型皿	(10.2)	(7.2)	2.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	20	良好	５ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
31	かわらけ	小型皿	(10.0)	(7.8)	2.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	５ＹＲ５／６ 明赤褐色	
32	かわらけ	小型皿	(10.8)	(8.0)	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	2.5ＹＲ４／６ 赤褐色	
33	かわらけ	小型皿	(10.2)	(7.0)	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ７／６ 橙色	
34	かわらけ	小型皿	(10.6)	7.4	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	10ＹＲ８／１ 灰白色	
35	かわらけ	小型皿	(10.9)	(7.9)	2.4	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	20	良好	５ＹＲ５／６ 明赤褐色	
36	かわらけ	小型皿	11.2	7.9	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	98	良好	2.5ＹＲ７／４ 淡赤橙色	
37	かわらけ	小型皿	10.2	6.8	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	98	良好	2.5ＹＲ４／６ 赤褐色	
38	かわらけ	小型皿	(10.3)	(7.0)	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
39	かわらけ	小型皿	9.9	7.0	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	85	良好	7.5ＹＲ５／６ 明褐色	
40	かわらけ	小型皿	10.2	6.9	2.4	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	98	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	

Ｍ２号溝状遺構出土遺物観察表（２）

No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
41	かわらけ	小型皿	11.1	7.2	2.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	99	良好	5ＹＲ７／８ 橙色	
42	かわらけ	小型皿	(10.8)	(7.4)	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	2.5ＹＲ５／６ 明赤褐色	
43	かわらけ	小型皿	(11.3)	8.0	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	60	良好	5ＹＲ５／４ 鈍い赤褐色	
44	かわらけ	小型皿	(10.9)	(8.4)	2.4	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ５／４ 鈍い褐色	
45	かわらけ	小型皿	(11.4)	(7.5)	2.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	10ＹＲ５／６ 黄褐色	
46	かわらけ	小型皿	(11.8)	(8.2)	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	2.5ＹＲ４／６ 赤褐色	
47	かわらけ	小型皿	(10.8)	(7.8)	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	7.5ＹＲ７／３ 鈍い橙色	
48	かわらけ	小型皿	(11.4)	(8.4)	2.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	7.5ＹＲ６／４ 橙色	
49	かわらけ	小型皿	(10.8)	7.6	2.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	45	良好	5ＹＲ６／６ 橙色	
50	かわらけ	小型皿	(10.4)	(7.9)	2.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	5ＹＲ５／６ 橙色	
51	かわらけ	小型皿	(12.0)	(8.8)	2.4	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	20	良好	2.5ＹＲ５／６ 明赤褐色	
52	かわらけ	小型皿	11.9	8.6	2.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	80	良好	7.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
53	かわらけ	小型皿	(12.2)	(7.6)	2.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	7.5ＹＲ３／４ 暗褐色	
54	かわらけ	小型皿	(12.0)	(7.6)	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	10ＹＲ６／２ 灰黄褐色	
55	かわらけ	小型皿	(14.0)	9.2	2.6	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	50	良好	5ＹＲ６／８ 橙色	
56	かわらけ	小型皿	(10.4)	(6.5)	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	2.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
57	かわらけ	小型皿	－	(7.0)	－	底部　回転糸切り	底部破片	良好	7.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
58	かわらけ	小型皿	－	(8.6)	－	底部　回転糸切り	底部破片	良好	5ＹＲ７／３ 鈍い橙色	
59	かわらけ	小型皿	－	(7.2)	－	底部　回転糸切り	底部破片	良好	5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
60	かわらけ	小型皿	－	(7.8)	－	底部　回転糸切り	底部破片	良好	5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
61	かわらけ	小型皿	－	(8.2)	－	底部　回転糸切り	底部破片	良好	5ＹＲ７／３ 鈍い橙色	
62	かわらけ	小型皿	－	6.4	－	底部　回転糸切り	60	良好	5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
63	かわらけ	小型皿	－	6.1	－	底部　回転糸切り	底部 95	良好	7.5ＹＲ７／４ 鈍い橙色	
64	かわらけ	小型皿	(10.0)	6.2	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	35	良好	10ＹＲ８／２ 灰白色	
65	かわらけ	小型皿	(13.8)	(6.6)	3.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	7.5ＹＲ８／２ 灰白色	
66	かわらけ	小型皿	(13.8)	(7.3)	2.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	50	良好	7.5ＹＲ８／２ 灰白色	
67	かわらけ	小型皿	(13.0)	7.0	2.7	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	50	良好	2.5Ｙ８／２ 灰白色	
68	弥生式土器	－	－	6.1	－	内外面・底部　ミガキ	底部 100	良好	5ＹＲ６／３ 鈍い橙色	
69	土師質土器	火鉢	(45.6)	－	－	内面　ヘラナデ 口縁部「雷文」文様あり	口縁破片	良好	7.5ＹＲ５／２ 灰褐色	
70	常滑	甕	－	－	－	外面　ヘラ削り・叩き痕あり 内面　輪積み痕あり	体部破片	良好	2.5ＹＲ５／４ 鈍い赤褐色	
71	瀬戸	椀	－	－	－		口縁破片	良好	2.5Ｙ７／２ 灰黄色	中世
72	瀬戸天目	椀	－	－	－		10	良好	7.5Ｒ２／１ 赤黒色	近世
73	瀬戸天目	椀	－	－	－		体部破片	良好	7.5Ｒ３／１ 暗赤灰色	近世
74	瀬戸天目	椀	－	－	－		体部破片	良好	7.5Ｒ２／１ 赤黒色	近世

Ｍ２号溝状遺構出土遺物観察表（３）

No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
75	青磁	椀	－	－	－		口縁破片	良好	緑色	中世
76	須恵質土器	擂鉢	－	－	－	内面　櫛目　口縁　ヨコナデ	口縁破片	良好	N 6／0 灰色	在地
77	常滑	甕	－	－	－		体部破片	良好	10 Y 4／2 灰赤色	中世
78	かわらけ	小型皿	(8.6)	(5.4)	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	20	良好	2.5 Y R 5／1 赤灰色	内面 付着物
79	かわらけ	小型皿	－	(8.8)	－	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	底部破片	良好	5 Y R 6／3 鈍い橙色	内面 付着物
80	かわらけ	小型皿	－	(6.2)	－	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	底部破片	良好	2.5 Y R 5／1 赤灰色	内面 付着物
81	弥生式土器	甕	(24.0)	－	－	外面　櫛描文 内面　ミガキ	口縁 40	良好	10 Y R 6／4 鈍い黄橙色	
82	弥生式土器	甕	－	－	－	外面　簾状文・櫛描波状文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	10 Y R 5／6 黄褐色	
83	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描波状文 内面　ミガキ	口縁破片	良	7.5 Y R 4／2 明褐灰色	
84	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描波状文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	7.5 Y R 5／6 明褐色	
85	弥生式土器	－	－	－	－	外面　簾状文・櫛描波状文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	10 Y R 7／3 鈍い黄橙色	
86	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	7.5 Y R 5／2 灰褐色	
87	弥生式土器	甕	－	－	－	外面　簾状文・櫛描波状文 内面　ミガキ	体部破片	良好	7.5 Y R 6／8 橙色	
88	弥生式土器	－	－	－	－	外面　簾状文・櫛描波状文 内面　ミガキ	体部破片	良好	7.5 Y R 6／6 橙色	
89	弥生式土器	－	－	－	－	内外面　ミガキ 外面　櫛描波状文	体部破片	良好	7.5 Y R 6／4 鈍い橙色	
90	弥生式土器	－	－	(8.6)	－	内面　櫛目	底部 100	良好	10 Y R 5／2 灰黄褐色	外面 赤色塗彩
91	弥生式土器	鉢	(11.2)	(4.8)	5.6	外面　ミガキ	35	良好	7.5 R 4／6 赤色	内外面 赤色塗彩
92	弥生式土器	－	－	8.0	－		底部 100	良好	5 Y R 5／6 明赤褐色	
93	弥生式土器	鉢	(15.0)	－	－	内面ミガキ 外面　ヘラ削り・ミガキ	口縁破片	良好	5 Y R 5／6 明赤褐色	内面黒色
94	弥生式土器	高坏	21.6	－	－	外面　ミガキ	80	良好	7.5 Y R 8／3 浅黄橙色	
95	弥生式土器	台坏甕	－	－	－	内面　ミガキ	10	良好	5 Y R 6／6 橙色	
96	弥生式土器	甑	－	(5.5)	－		底部 100	良好	10 R 3／6 暗赤褐色	内外面 赤色塗彩
97	弥生式土器	鉢	(12.4)	－	－	内外面　ミガキ	30	良好	2.5 Y R 5／6 明赤褐色	内外面 赤色塗彩
98	弥生式土器	甕	(20.0)	－	－	外面　簾状文・櫛描文	口縁破片	良好	5 Y R 6／6橙色 内面　黒色	
99	弥生式土器	甕	－	－	－	外面　簾状文・櫛描文	口縁破片	良好	5 Y R 7／6 橙色	
100	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	7.5 Y R 6／3 鈍い褐色	
101	弥生式土器	－	－	－	－	内外面　ミガキ	口縁破片	良好	10 R 4／6 赤色	内外面 赤色塗彩
102	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	7.5 Y R 7／4 鈍い橙色	
103	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	5 Y R 6／4 鈍い橙色	
104	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	5 Y R 5／4 鈍い赤褐色	
105	弥生式土器	－	－	－	－	内外面　ミガキ 口縁部　縄文	口縁破片	良好	2.5 Y R 4／8 赤褐色	内外面 赤色塗彩
106	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描波状文	口縁破片	良	7.5 Y R 5／3 鈍い褐色	
107	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描波状文 内面　ミガキ	口縁破片	良	7.5 Y R 6／4 鈍い橙色	
108	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描波状文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	5 Y R 6／4 鈍い橙色	

M 2 号溝状遺構出土遺物観察表（4）

No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
109	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	10ＹＲ５／６ 黄褐色	
110	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描波状文 内面　ミガキ	口縁破片	良好	7.5ＹＲ６／２ 灰褐色	
111	弥生式土器	－	－	－	－	内外面　ミガキ	口縁破片	良好	10Ｒ４／６ 赤色	内外面 赤色塗彩
112	弥生式土器	－	－	5.7	－	内外面　ミガキ	底部 100	良好	10ＹＲ７／２ 鈍い黄橙色	
113	弥生式土器	－	－	5.2	－	内外面・底部　ミガキ	底部 100	良好	10Ｒ４／６ 赤色	内外面 赤色塗彩
114	弥生式土器	－	－	5.0	－	内外面・底部　ミガキ	底部 60	良好	7.5Ｒ４／６ 赤色	内外面底 赤色塗彩
115	弥生式土器	－	－	－	－	内外面　ミガキ 外面　櫛描文	頸部破片	良	7.5Ｒ４／８ 赤色	外面 赤色塗彩
116	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文・ミガキ	頸部破片	良	7.5Ｒ４／８ 赤色	外面 赤色塗彩
117	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文・ミガキ	頸部破片	良好	7.5Ｒ４／８ 赤色	外面 赤色塗彩
118	弥生式土器	－	－	－	－	内外面　ミガキ 外面　櫛描文	頸部破片	良好	10Ｒ４／６ 赤色	内外面 赤色塗彩
119	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文	体部破片	良好	7.5ＹＲ５／３ 鈍い褐色	
120	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文 内面　ミガキ	頸部破片	良	7.5ＹＲ５／２ 灰褐色	
121	弥生式土器	－	－	－	－	外面　簾状文・櫛描波状文	頸部破片	良好	7.5ＹＲ４／１ 褐灰色	
122	弥生式土器	－	－	－	－	外面　斜格子文	頸部破片	良	7.5ＹＲ７／６ 橙色	
123	弥生式土器	－	－	－	－	外面　簾状文・櫛描波状文 内面　ミガキ	頸部破片	良好	7.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
124	弥生式土器	－	－	－	－	外面　簾状文	頸部破片	良	５ＹＲ７／２ 明褐灰色	外面 赤色塗彩
125	弥生式土器	－	－	－	－	外面　簾状文・櫛描文	頸部破片	良	５ＹＲ３／１ 黒褐色	
126	弥生式土器	－	－	－	－	内・外面　ミガキ 外面　櫛描波状文	体部破片	良好	7.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
127	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描波状文 内面　ミガキ	体部破片	良好	５ＹＲ６／６ 橙色	
128	弥生式土器	－	－	－	－	外面　櫛描文　体部破片	体部破片	良好	2.5ＹＲ４／１ 赤灰色	
129	弥生式土器	－	－	－	－	内・外面　ミガキ 外面　櫛描波状文	体部破片	良好	10Ｒ４／６ 赤色	内外面 赤色塗彩
130	弥生式土器	－	－	－	－	外面　篦描き文	頸部破片	良好	10Ｒ４／８ 赤色	外面 赤色塗彩

Ｍ２号溝状遺構出土遺物観察表（５）

No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
1	常滑	甕	－	(18.0)	－		底部付近 破片	良好	５ＹＲ４／１ 褐灰色	中世
2	陶器	甕	－	－	－	高台つくり出し	底部破片	良好	2.5Ｙ６／２ 灰黄色	中世
3	瀬戸	椀	－	(14.8)	－	高台つくり出し	底部破片	良好	2.5Ｙ６／３ 鈍い黄色	

Ｍ３号溝状遺構出土遺物観察表

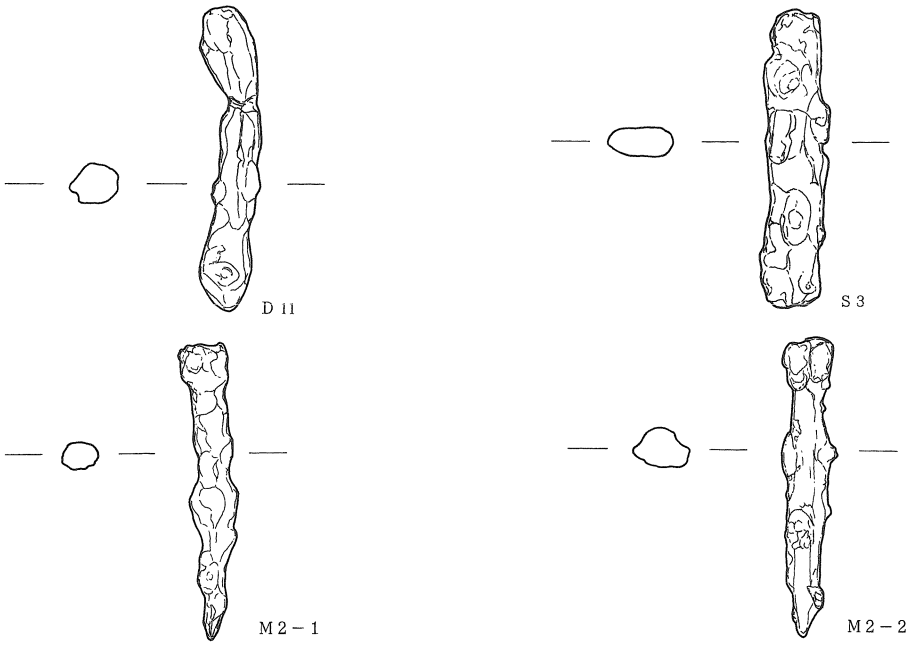
No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
1	かわらけ	小型皿	(9.6)	(8.0)	2.4	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	7.5ＹＲ６／４ 鈍い橙色	
2	かわらけ	小型皿	(8.8)	(5.9)	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	20	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	
3	かわらけ	小型皿	(10.8)	(7.8)	2.9	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	25	良好	５ＹＲ６／６ 橙色	
4	かわらけ	小型皿	(10.2)	(7.0)	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5ＹＲ６／６ 橙色	

遺構外出土遺物観察表（１）

No.	器　種	器　形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調　　整	残存率%	焼　成	色　調	備　考
5	かわらけ	小型皿	(9.4)	(7.0)	2.2	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	5 Y R 5／6 明赤褐色	
6	かわらけ	小型皿	(10.0)	(7.4)	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	7.5 Y R 7／3 鈍い橙色	
7	かわらけ	小型皿	(9.2)	(7.8)	2.3	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	35	良好	2.5 Y 6／2 灰黄色	
8	かわらけ	小型皿	(7.6)	(4.6)	2.4	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	15	良好	7.5 Y R 8／2 灰白色	
9	かわらけ	小型皿	(10.1)	(7.4)	2.5	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	40	良好	7.5 Y R 5／6 明赤褐色	
10	かわらけ	小型皿	(10.4)	(7.6)	2.8	内外面　ロクロヨコナデ 底部　回転糸切り	30	良好	7.5 Y R 6／6 橙色	
11	陶器	椀	－	4.7	－		底部 100	良好	5 Y R 3／4 暗赤褐色	近世
12	瀬戸天目	椀	－	－	－		体部破片	良好	10 B G 1.7／1 青黒色	中世
13	瀬戸天目	椀	－	－	－		口縁破片	良好	10 Y R 1.7／1 黒色	近世
14	瀬戸	椀	－	－	－		体部破片	良好	2.5 Y 7／3 浅黄色	近世
15	瀬戸	蓋	－	－	－		破片	良好	2.5 Y 8／1 灰白色	近世
16	陶器	壺	－	－	－		口縁破片	良好	5 Y R 3／4 暗赤褐色	近世

遺構外出土遺物観察表（2）

第2節　鉄製品



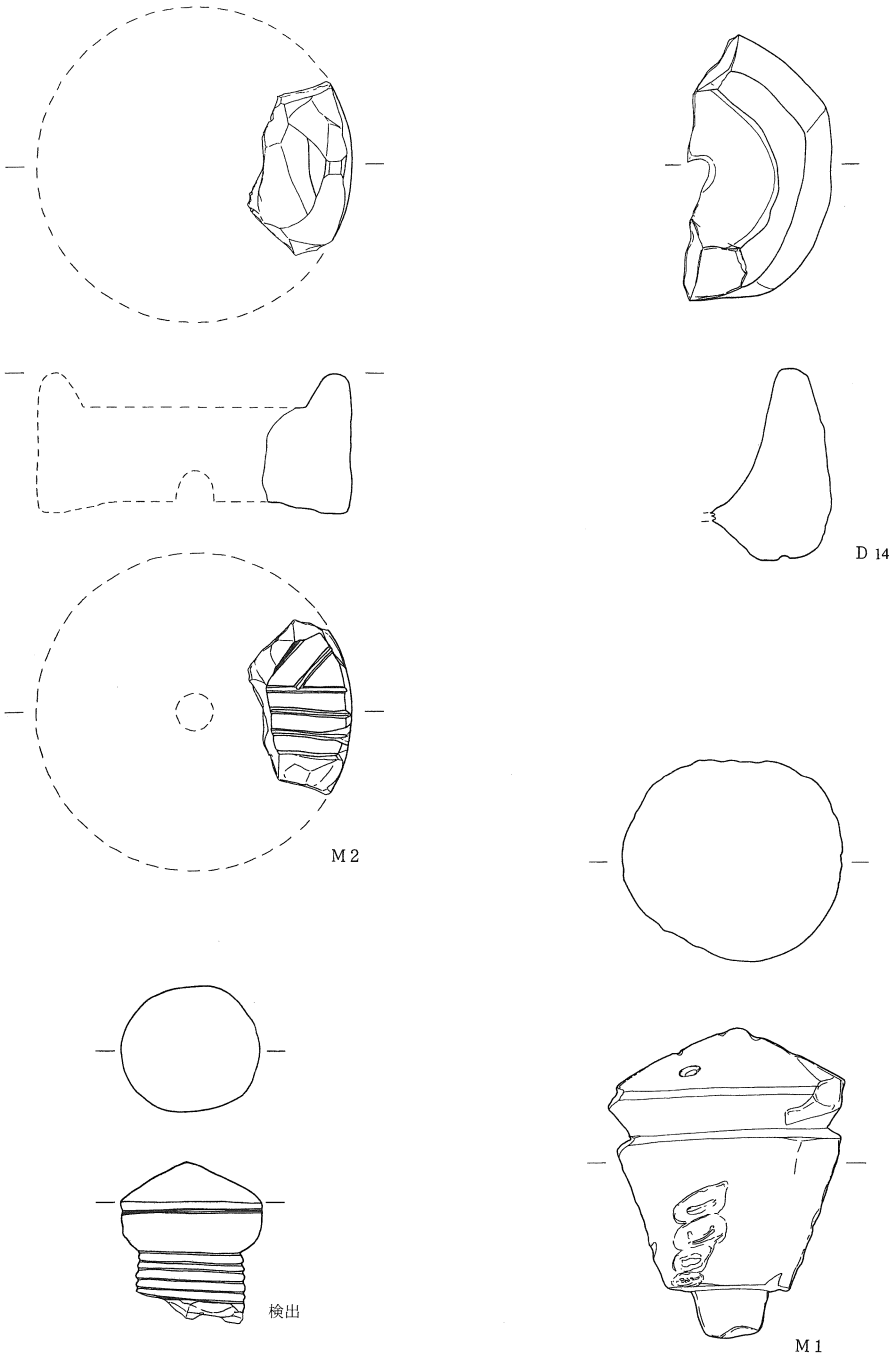
鉄製品実測図（1/2）

遺　構	種　類	長　さ	幅（径）	厚　さ	重　さ	備　　考
D 11	釘	7.95	0.75	－	15.6 g	
S 3	刀子	7.92	1.53	0.7	13.5 g	
M 2 － 1	釘	8.59	0.85	－	18.3 g	
M 2 － 2	釘	7.82	0.86	－	11.0 g	

（単位 cm・g）

鉄製品観察表

第３節　石製品



石製品実測図（1/6）

遺　構	種　類	径	高さ	ふくみ	分角	心棒径	供給口	石　質	回転方面	備　　考
M 2	石臼・上臼	(24.9)	11.1	–	–	–	–	輝石安山岩	左	

(単位 cm)

石臼観察表

遺　構	器　種	石　質	径	底　径	高　さ	深　さ	備　　考
D 14	石搗き臼	黒色多孔質安山岩	(26.4)	–	15.2	12.0	

(単位 cm)

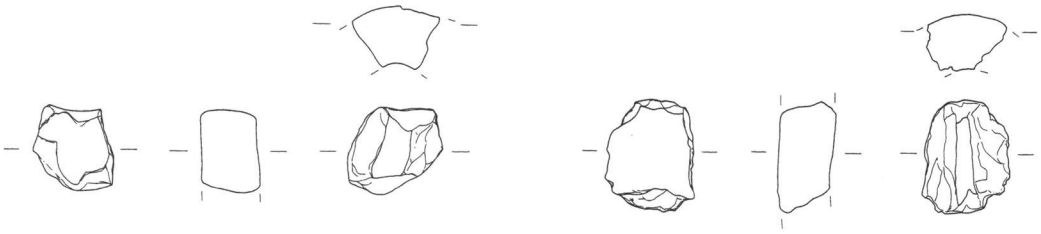
石搗き臼観察表

遺　構	製品名	部　位	高さ	最大径	石　室	備　　考
検出	多宝塔	空風輪	12.5	11.3	安山岩	
M 1	五輪塔	空風輪	24.5	18.6	黒色多孔質安山岩	

(単位 cm)

五輪塔・多宝塔観察表

第４節　羽口



M２－１　　M２－２

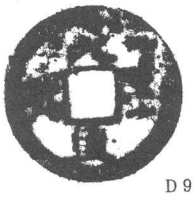
羽口実測図

遺構・No.	製品名	径	厚　さ	重　量	送風口径	備　　考
M２－１	羽口	–	2.9	76.2 g	–	先端部僅かに欠損
M２－２	羽口	–	3.0	68.7 g	(2.5)	先端部

(単位 cm・g)

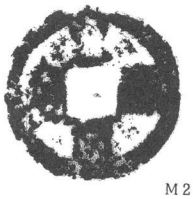
羽口観察表

第５節　古銭



D 9

M 1



M 2

古銭（1/1）

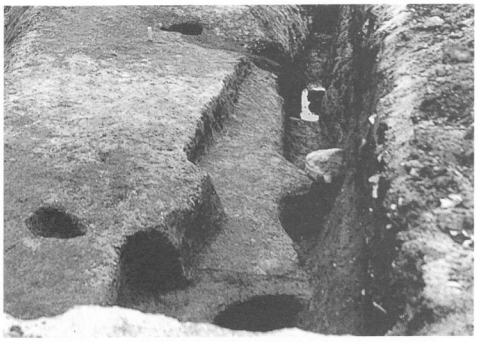
遺　構	銭　名	外　径	内　径	重　さ	初鋳年	書　体	備　　考
D 9	元豊通寶	2.61	0.65	4.0 g	北宋 1078	行書	
M 1	皇宋通寶	2.58	0.68	2.5 g	北宋 1038	篆書	1／4欠損
M 2	(聖)宋元寶	2.47	0.77	2.3 g	北宋 1101	行書	

(単位 cm・g)

古銭観察表

調査区全景（南から）

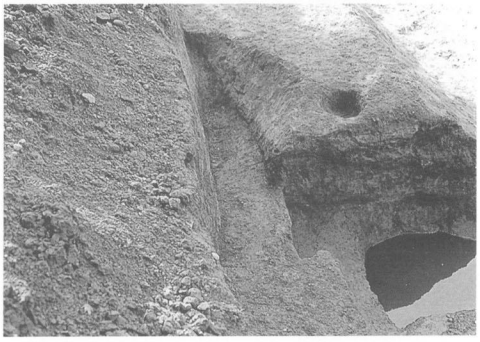
調査区全景（北から）



Ｔａ１号竪穴状遺構・Ｄ７号土坑

Ｔａ２号・Ｔａ５号竪穴状遺構

Ｔａ３号竪穴状遺構



Ｔａ４号竪穴状遺構

Ｄ１号土坑

Ｄ２号土坑

Ｄ３号土坑

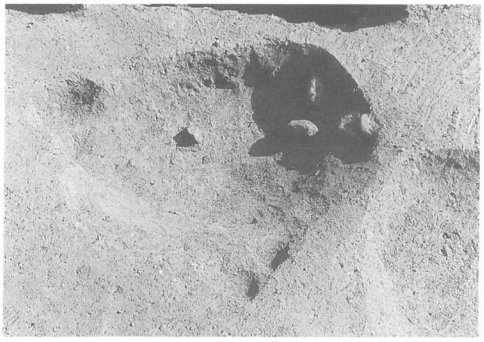
Ｄ４号土坑

Ｄ５号土坑

Ｄ６号土坑

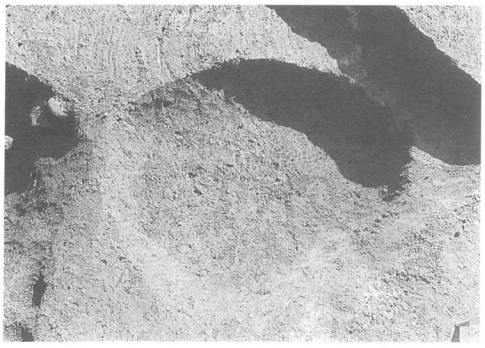
Ｄ６号土坑遺物出土状況

Ｄ８号土坑



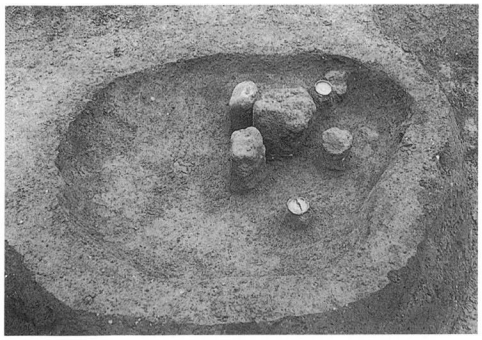
Ｄ８号土坑（集石除去後）

Ｄ９号土坑



Ｄ９号土坑（集石除去後）

Ｄ10号土坑



D 11号土坑

D 11号土坑遺物出土状況

D 12号土坑

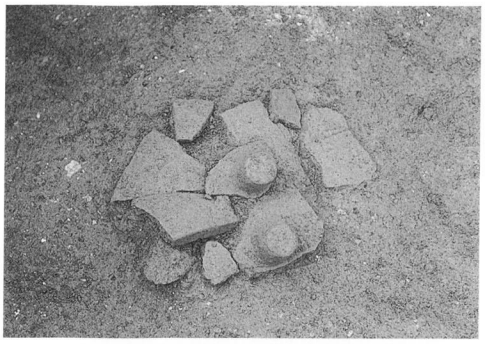
D 12号土坑遺物出土状況

D 13号土坑

D 14号土坑

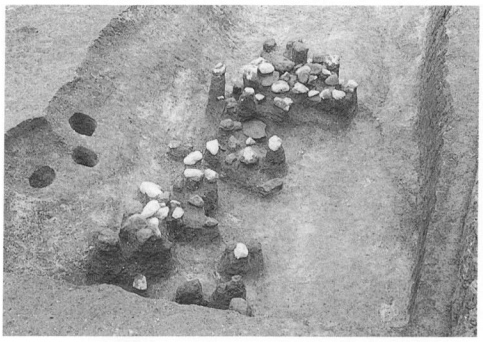
S 1号集石

S 2号集石



Ｓ２号集石遺物出土状況

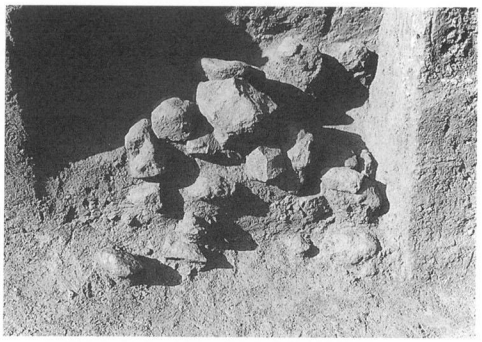
Ｓ３号集石



Ｓ４号・Ｓ５号集石

Ｓ５号集石遺物出土状況

Ｓ６号集石

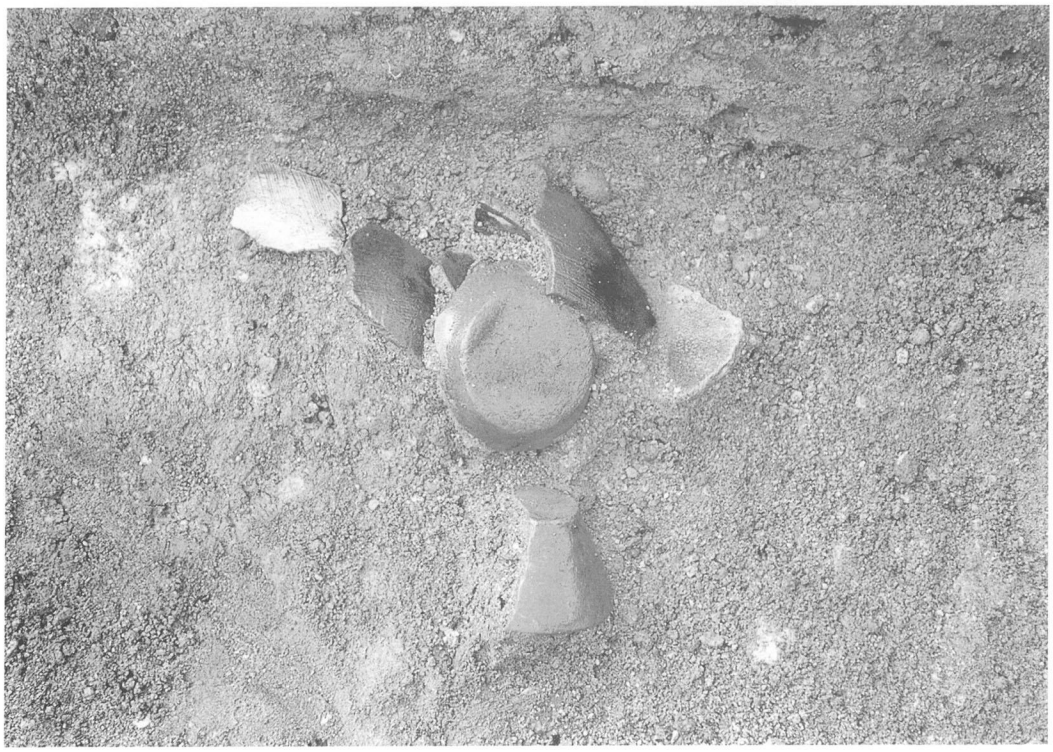


Ｓ７号集石

Ｓ８号集石

Ｍ２号溝状遺構遺物出土状況

M２号溝状遺構遺物出土状況



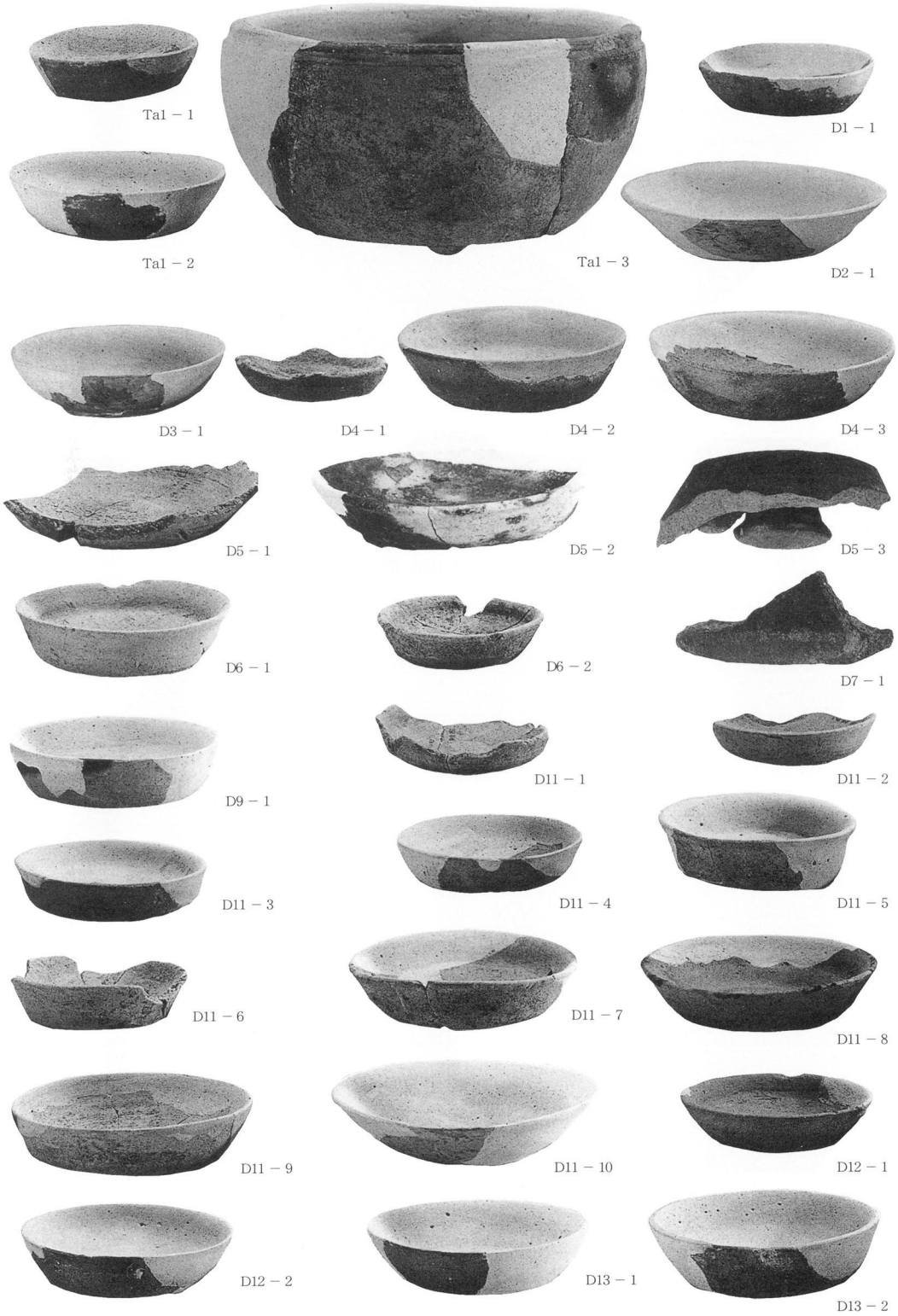
M２号溝状遺構遺物出土状況

調査風景（北から）

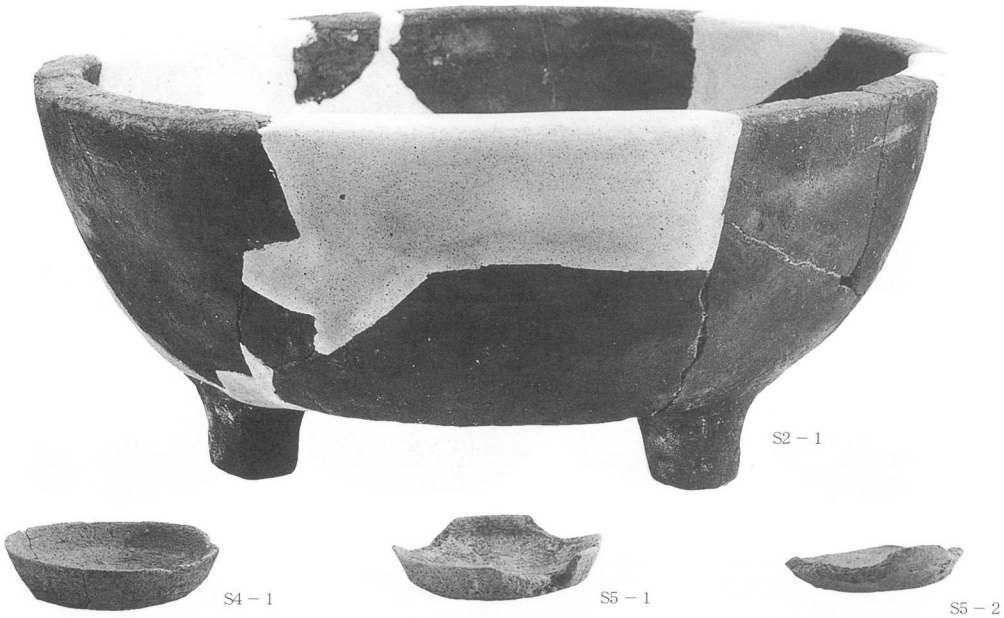
調査風景（南から）

龍雲寺全景（南東から）

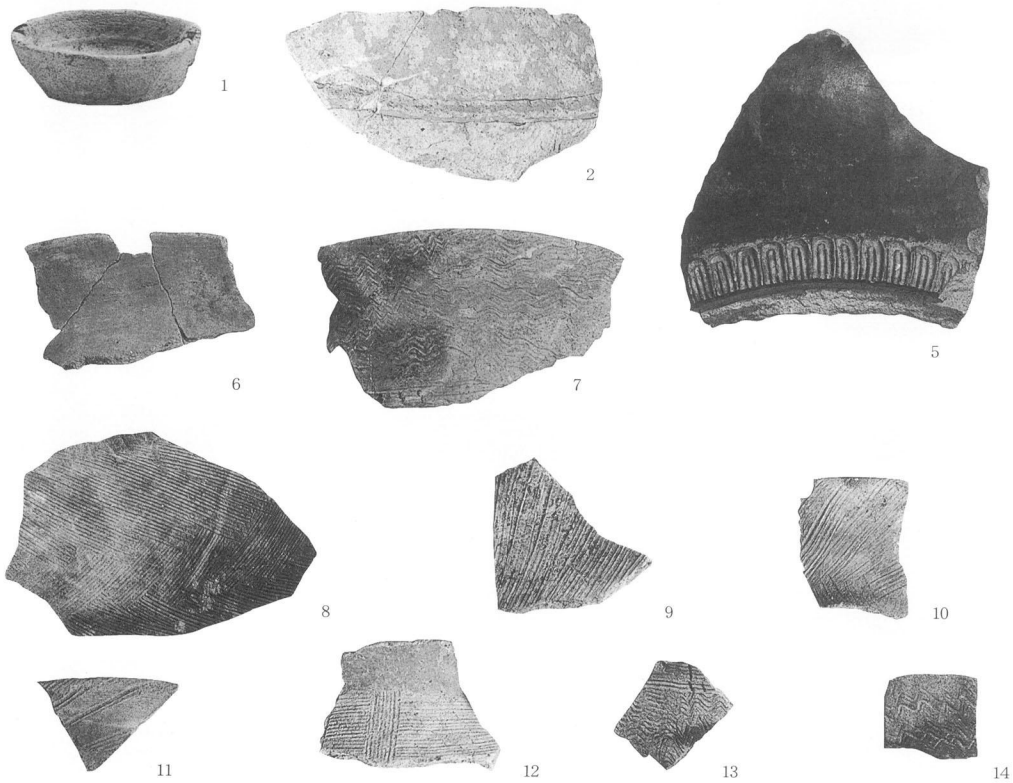
菅田遺跡Ⅴ事業終了状況（壇信徒会館全景）



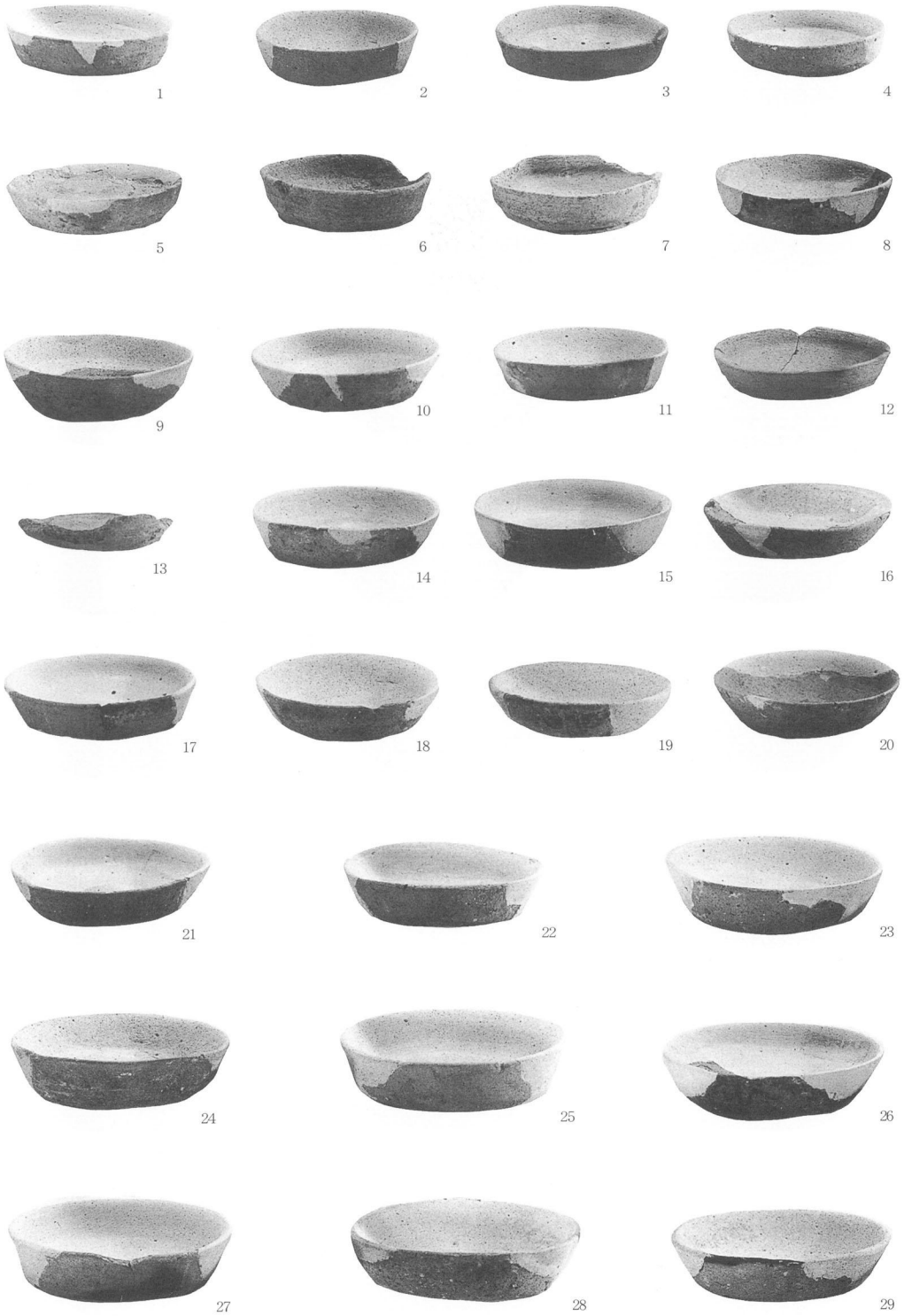
竪穴状遺構（Ｔａ）・土坑（Ｄ）出土遺物



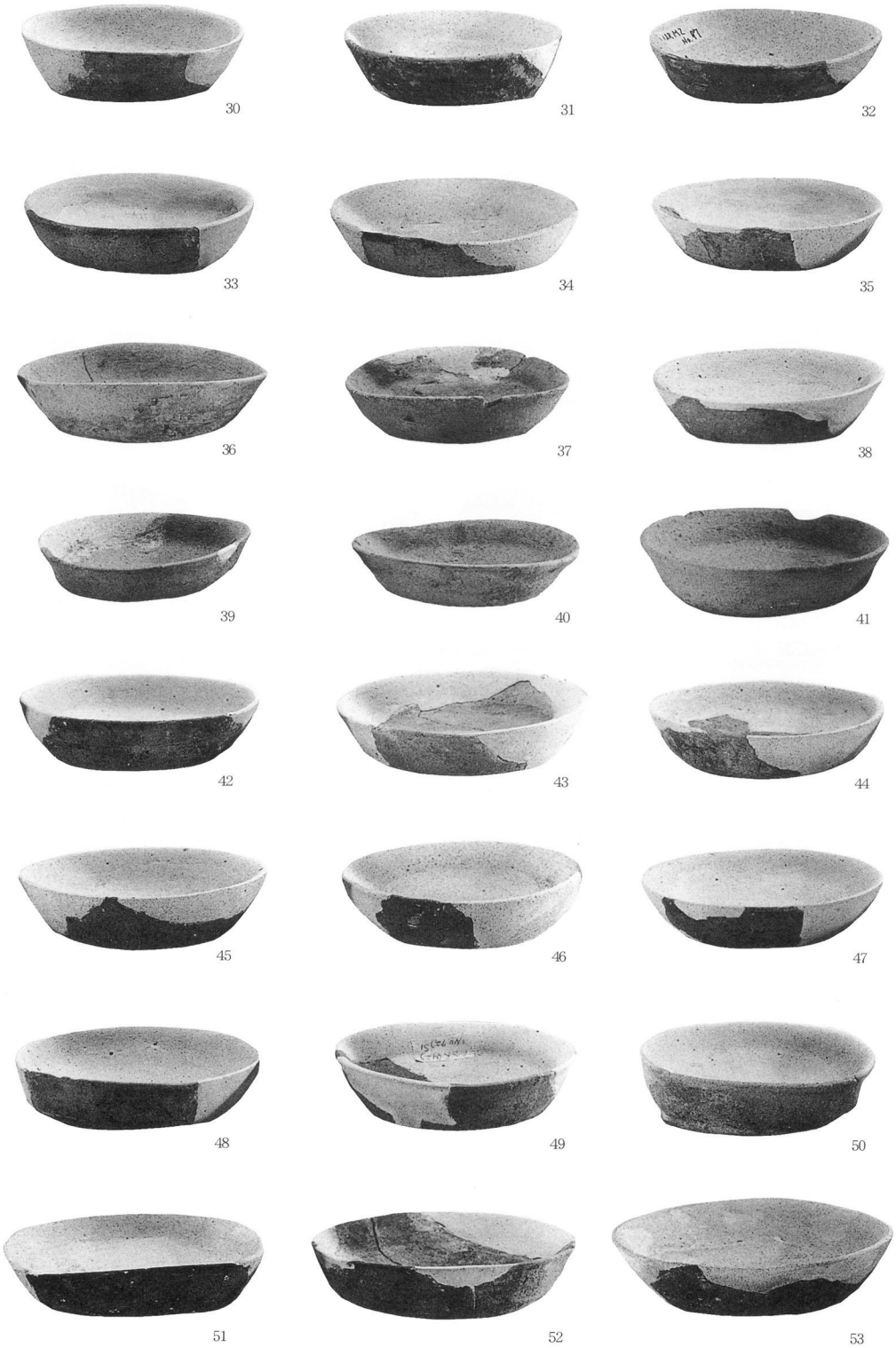
集石（S）出土遺物



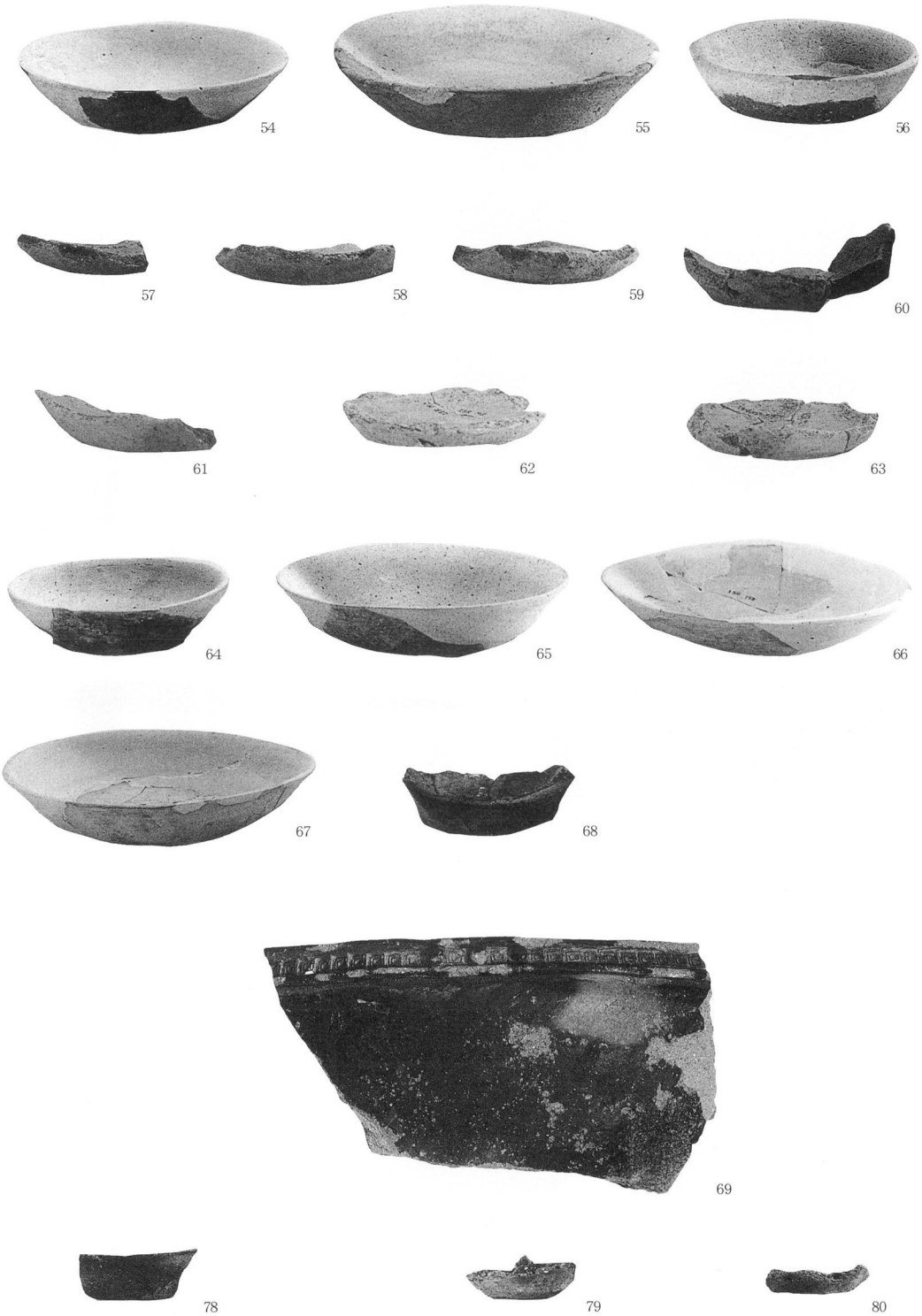
M１号溝状遺構出土遺物



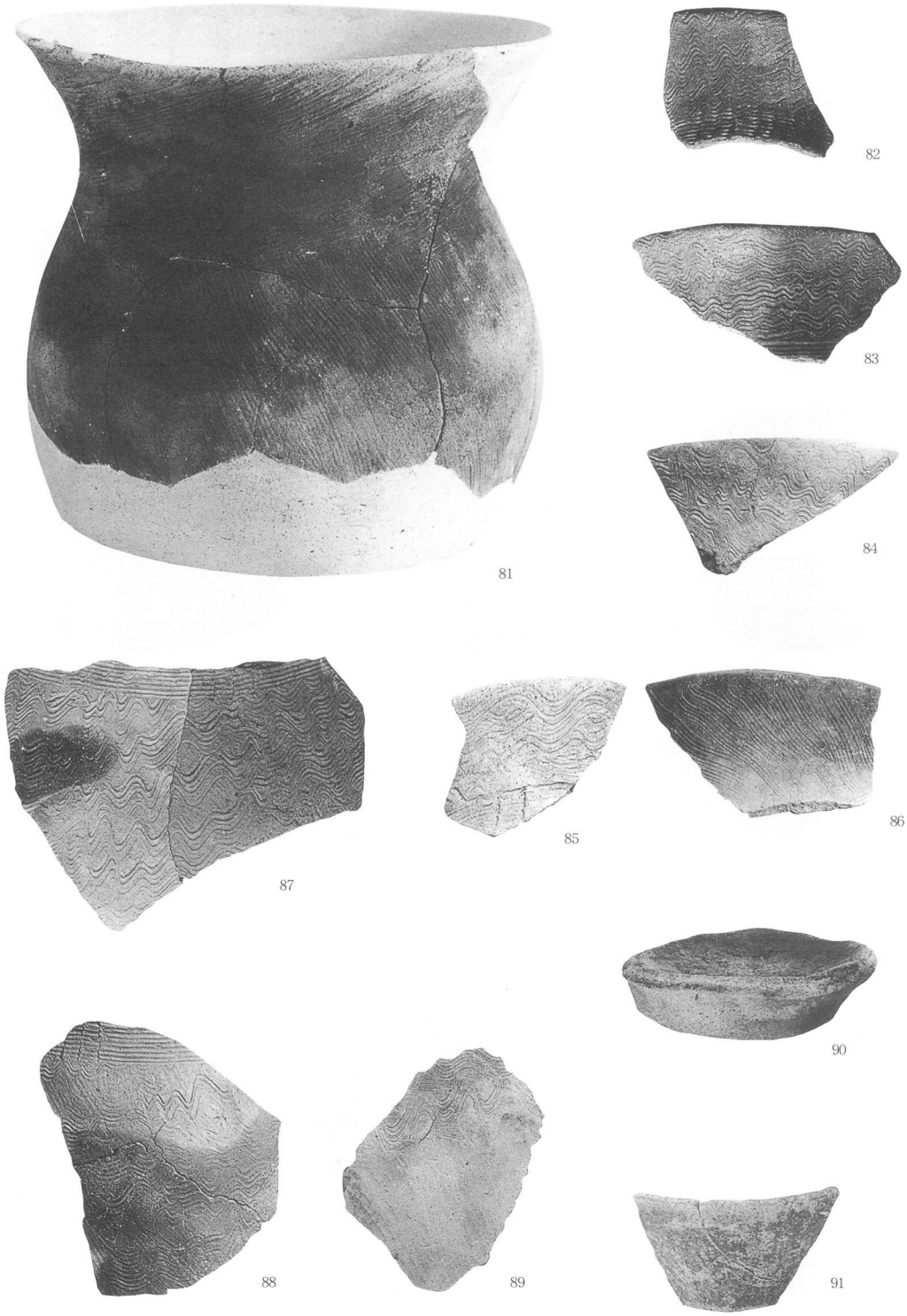
Ｍ２号溝状遺構出土遺物（１）



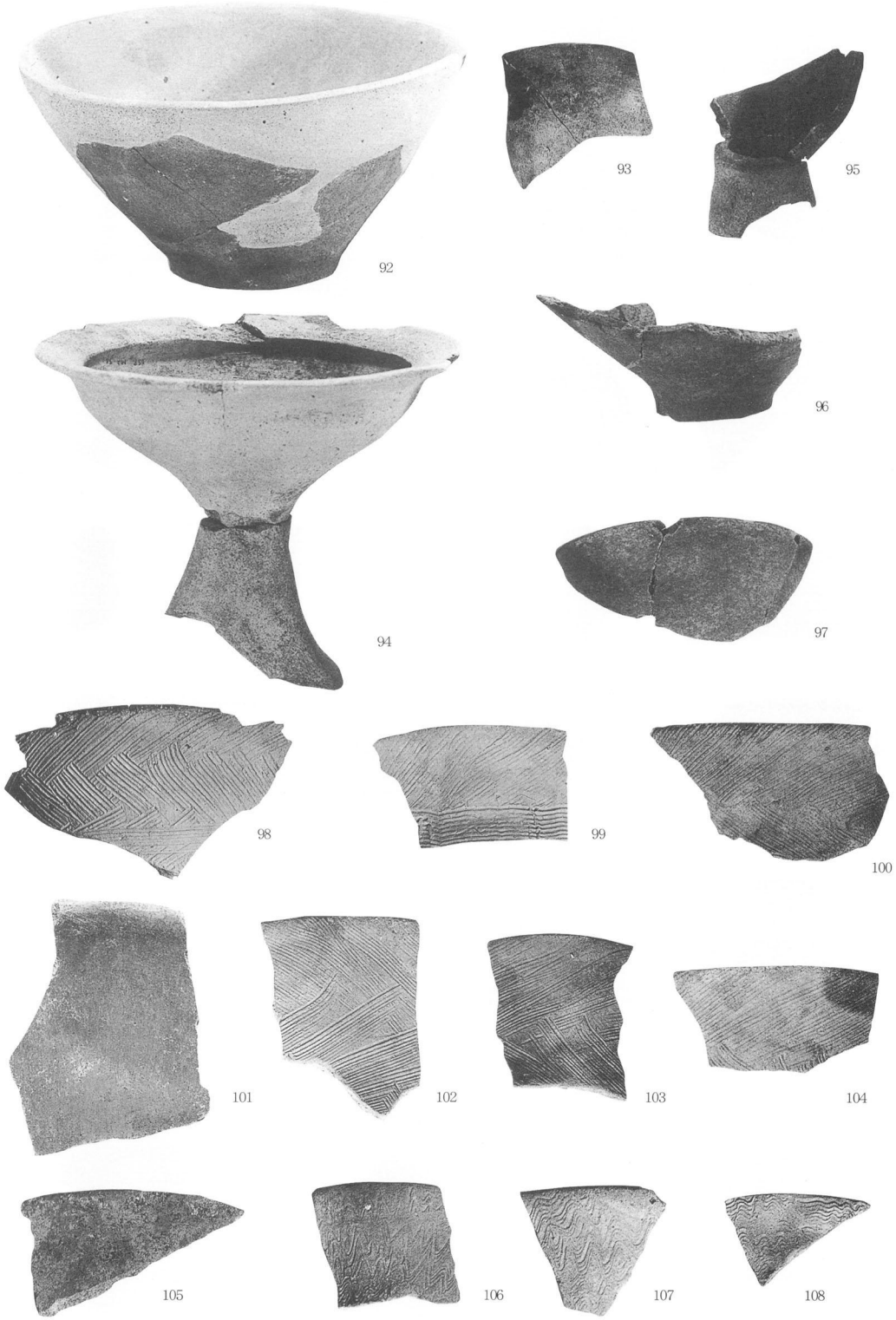
M２号溝状遺構出土遺物（２）



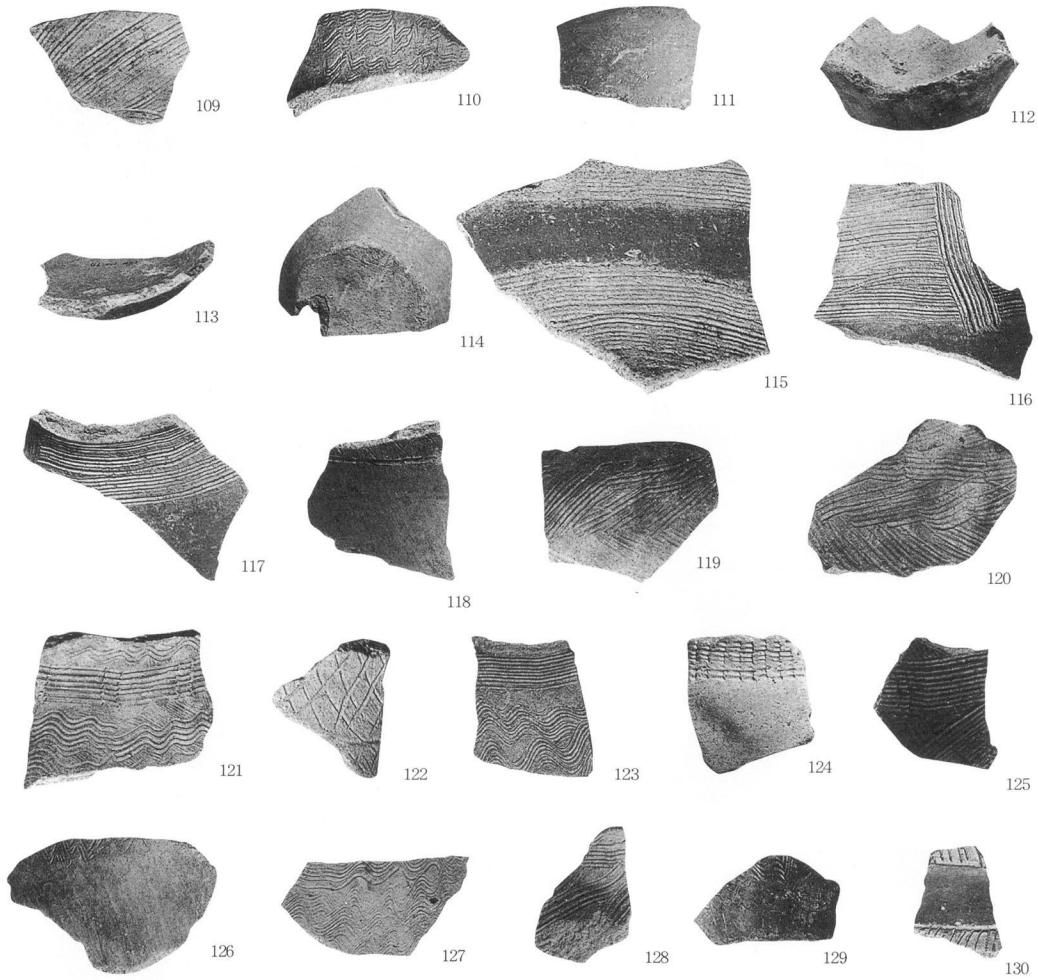
Ｍ２号溝状遺構出土遺物（３）



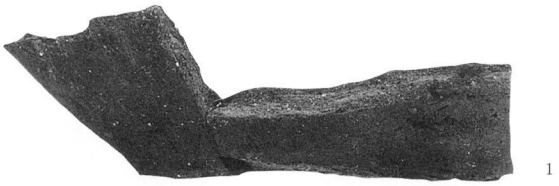
M２号溝状遺構出土遺物（４）



Ｍ２号溝状遺構出土遺物（５）



M２号溝状遺構出土遺物（６）

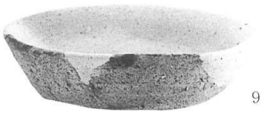


M３号溝状遺構出土遺物

遺構外出土遺物（１）

7

8


9

10

11

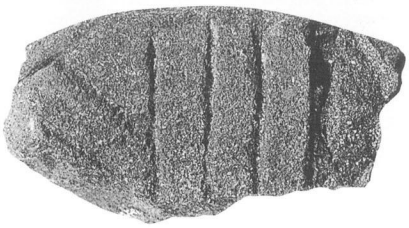
遺構外出土遺物（2）

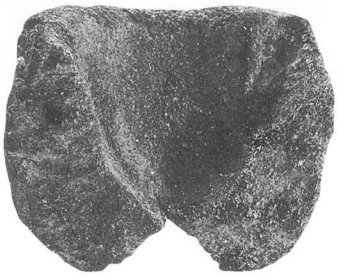
D11

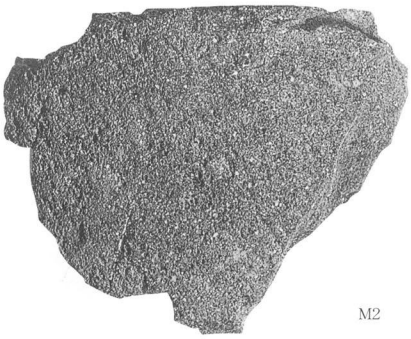
S3

M2－1

M2－2






M2

D14

鉄製品・石製品

ケン

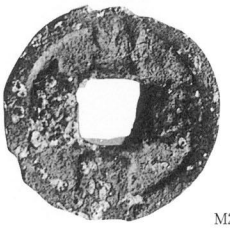
M1

M2－1

M2－2

D9

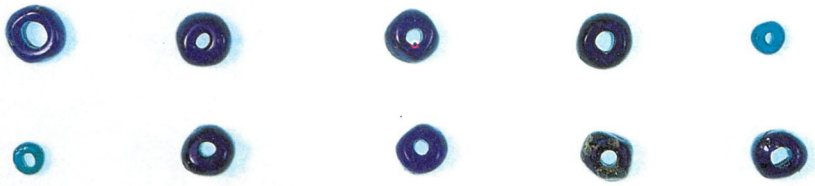
M1



M2

石製品・羽口・古銭

9. 根々井大塚古墳 調査報告書



根々井大塚古墳出土ガラス小玉

根々井大塚古墳出土土器

根々井大塚古墳

所　在　地　佐久市大字根々井字大塚腰1179-8番他

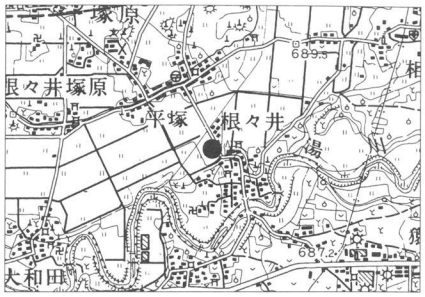
調査委託者　佐久建設事務所

開発事業名　道路改良工事

調 査 期 間　平成９年10月27日～11月27日

調 査 面 積　224㎡

調査担当者　冨沢　一明



根々井大塚古墳位置図（１:50,000）

例言・凡例

１．本報告は平成９年度に行った県道拡幅工事に伴う試掘調査の報告である。

２．遺構の縮尺は１/200.１/400であり遺物は１/４.１/１とし、それ以外のものは図に明記した。

３．遺構図の海抜標高は水糸標高を「標高」として示した。

４．土層・土器の色調は1988年『新版標準土色帖』に基づいた。

５．挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す

地山断面　　墳丘盛土

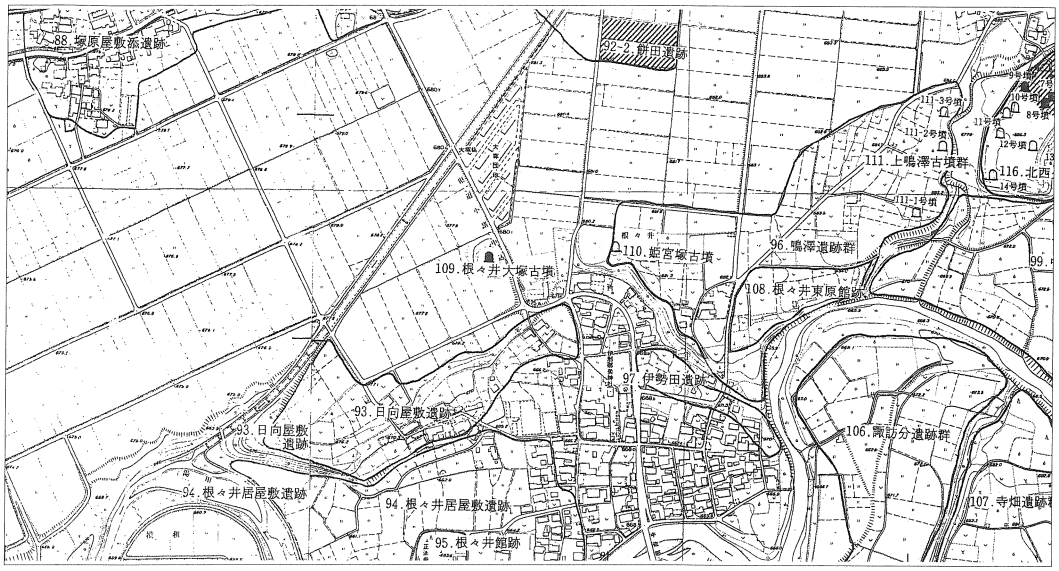
６．本報告を作成するにあたり（財）長野県埋蔵文化財センター　青木一男氏には多大なるご指導・ご助言を頂いた。記して感謝申し上げる。

１．経過と立地

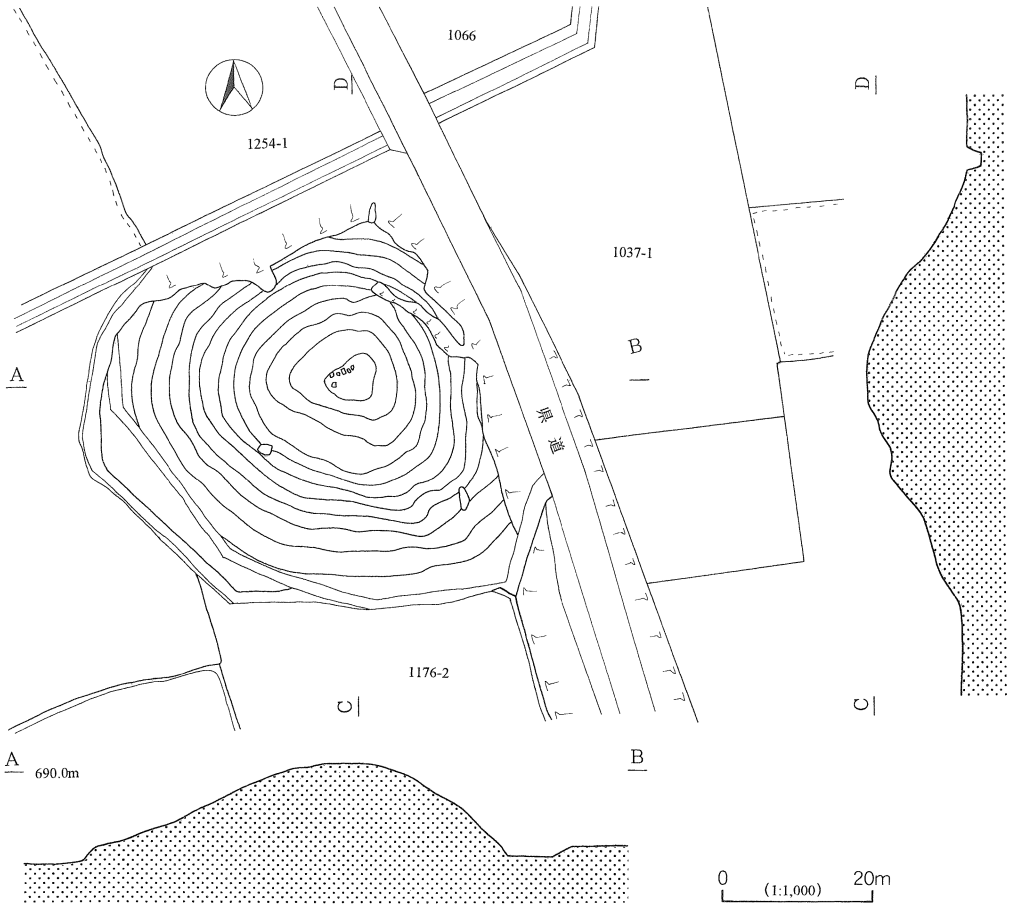
根々井大塚古墳は佐久市大字根々井に所在し、湯川により形成された河岸段丘縁に立地する「流れ山」である。湯川からの標高差は20ｍを測る。周辺部は圃場整備の終了した水田地帯が広がり、水田面よりの眺望は大型の円墳を彷彿とさせる。

周辺の遺跡としては発掘調査がなされたものとして弥生中期後半から後期の大規模な集落址が発見された北西の久保遺跡・西一本柳遺跡・根々井芝宮遺跡や、弥生中期後半の竪穴住居址から鉄剣が出土し注目をされた五里田遺跡などがある。また古墳の北方300ｍには餅田遺跡・西一里塚遺跡が所在し、両遺跡からは弥生後期以降の環濠或いは溝状遺構や集落址が検出され、出土遺物としては南関東系の壺口縁部やＳ字甕等があった。

今回、当地点の県道拡幅工事に伴い、佐久建設事務所によりこの「流れ山」東斜面を削平する計画がなされ、佐久市教育委員会に遺跡の有無の照会があった。当地籍はその形状より古墳としての可能性が高く「根々井大塚古墳」として『遺跡詳細分布調査報告書』に掲載・登録していたが、過去の調査・伝承等は皆無で古墳としての詳細は不明であった。その為、教育委員会は「流れ山」本体の地籍地権者に承諾を得て、古墳の規模・性格等の把握を目的とする試掘調査を実施する事となった。



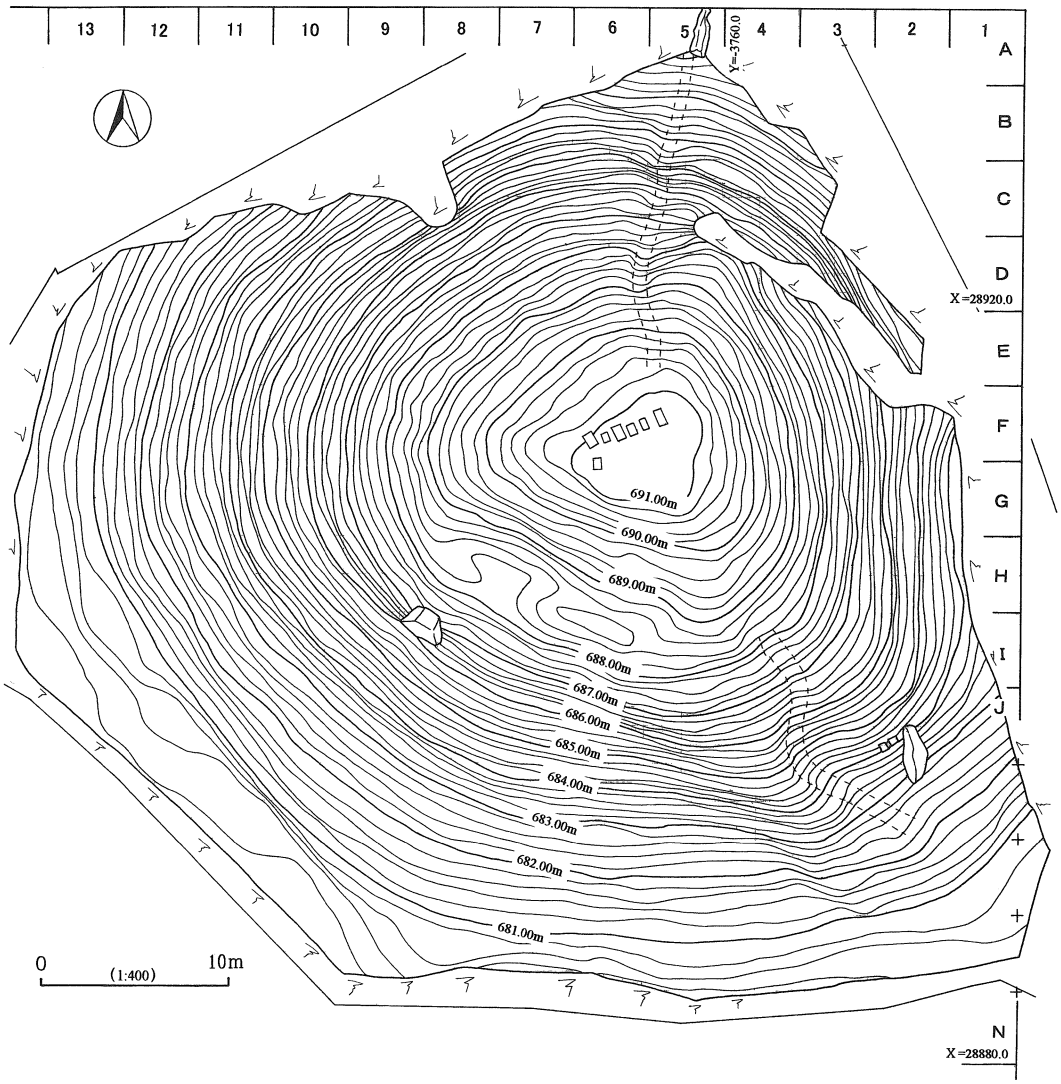
第２図　周辺遺跡位置図（１：10,000）



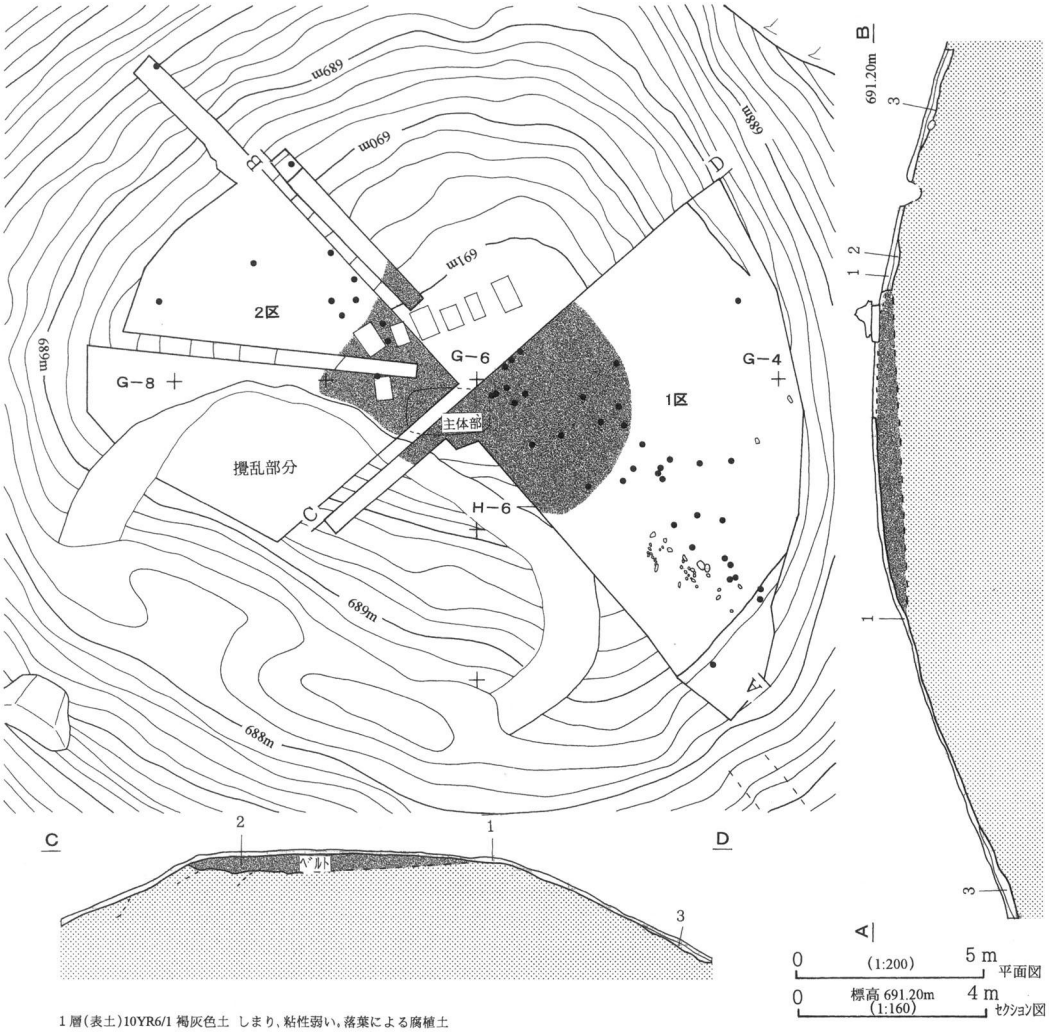
第３図　根々井大塚古墳周辺地形図（１：1,000）

2．遺跡の状況

根々井大塚古墳は通称「お坊山」と呼ばれる独立した流れ山（浅間山の噴火により押し出された山体が風化・浸食により島状に形成された残丘）であり、規模は現状で底辺約56m・高さ10m程を測る。形状は南西方向からの眺望は美しい円錐形を呈すが、東側は昭和６年の道路開削のため一部削平され、北側斜面下部は周辺の圃場整備の折りに土取が行われた為抉られた状態となっている。また、標高688mから上の南西側斜面は終戦間際から戦後に地元青年団による松根油の採取の穴が掘られ旧来の地形を失っていた。よって本来の山全体の規模は東と北側に山裾が延びて広がっていたと考えられる。山全体は現在カラマツ林となり、北と南に小さな登山道があり山頂には石の祠が７つ祀られている。



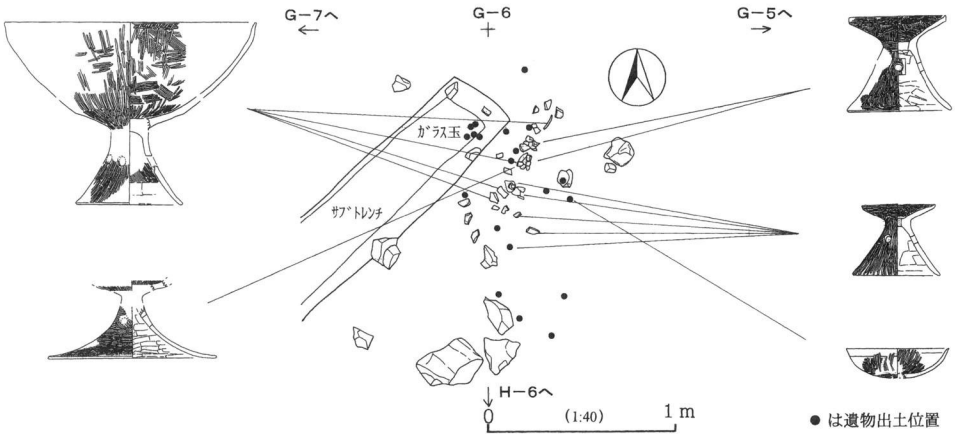
第４図　根々井大塚古墳地形図（１:400）



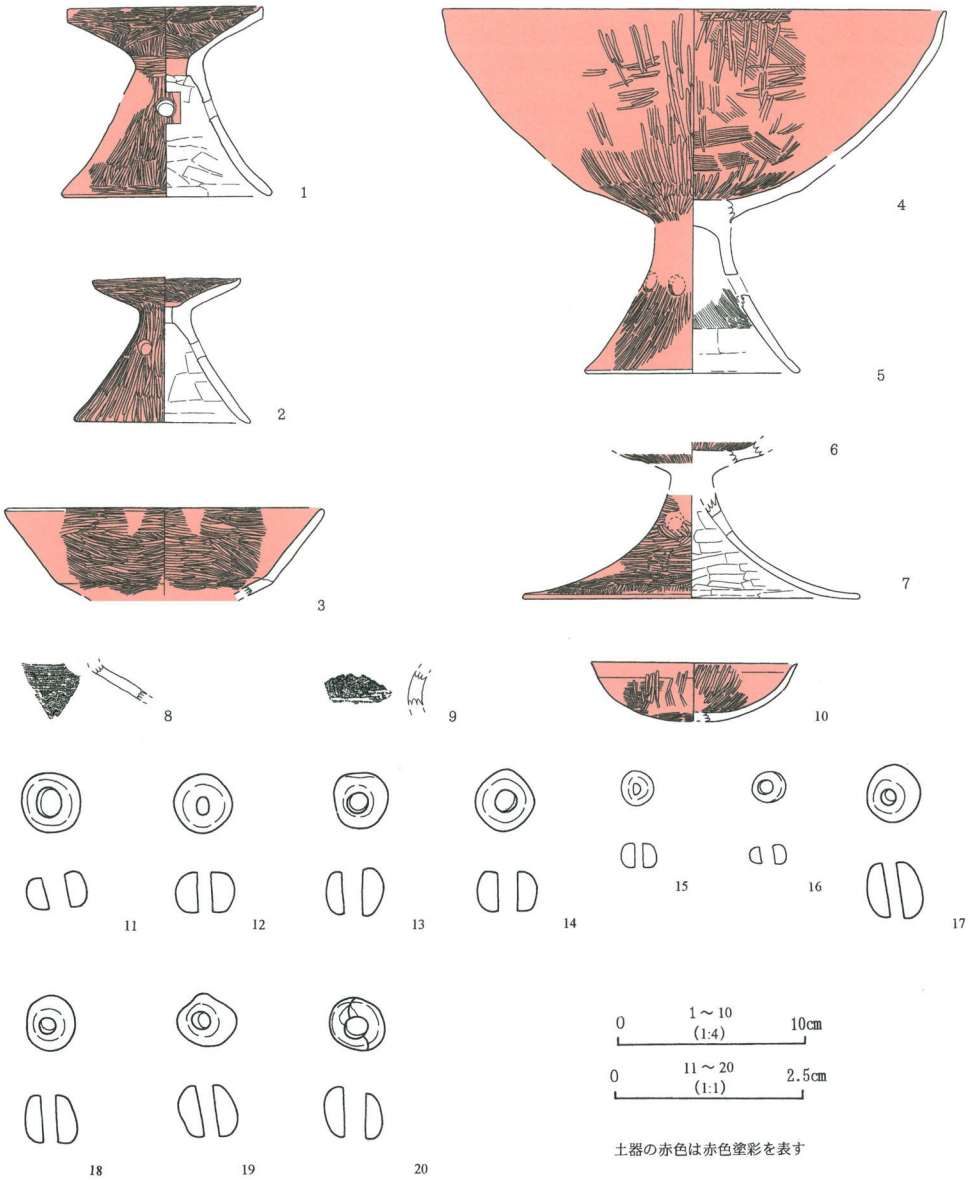
1層(表土)10YR6/1 褐灰色土 しまり、粘性弱い。落葉による腐植土

2層(盛土)10YR5/1 黄褐色土 しまり、粘性弱いが、こぶし大の礫を一部含み、ローム層的

3層 10YR6/3 鈍い黄褐色土 しまり、粘性弱く、軽石、小石、土器片を含む。



第5図　根々井大塚古墳全体図及び遺物出土状況図



第６図　出土遺物実測図

玉類はガラス玉10点が出土した。その内11～15･20は墳頂部のサブトレンチ排土内より、16～19はトレンチ内東端よりまとまって出土した。大きさは15･16が小形で小玉の部類に入ると考えられる。色調は15と16がスカイブルーで、その他は藍色である。形態はいずれも円形を基調としているが、13や19といった歪みの大きな物が存在する。また、小口面の調整は両面押圧整形であり、13･18などは側面も押圧整形が観察された。

3．調査の成果

（1）墳　丘

調査の方法はまず地籍全体の地形測量を行い現状での墳丘確認に努めた。次に山頂より十字のベルトを設定し地表下の墳丘表面の状態を検出し、尚かつ盛り土確認のためのサブトレンチを設定して掘り下げを行った。調査部は東側を仮称「１区」、西側を「２区」とした。

その結果、流れ山の土壌特質のため墳端部の確認が非常に困難であったが、頂上部に方形と考えられる「古墳」が確認された。この「古墳」は一部立ち割りによる断面観察の結果、墳頂部に厚さ40～60㎝の盛り土を行い、その他の部分は流山の自然地形を生かしつつ、墳端部において小規模なテラスを削り出していた。ただ、東コーナー部分は自然地形の崩落か墳端部が確認できなかった。この検出されたテラスをつなぐと方形のプランとなり、規模は長軸17m・短軸14m・高さ約２ｍで、長軸方位はN-43°-Wを示す方形の墳丘を想定できた（第８図参照）。また、墳頂部には土坑状の主体部と考えられるプランが検出できた。形態は長方形で規模が長軸2.1m・短軸1.2m・深さ約40㎝を測り、長軸方位はほぼ真東を向く。また、サブトレンチ内からはガラス玉やガラス小玉が10点出土した。遺物は墳頂部を中心に墳丘全体に広がる状態で出土した。いずれも小片の土器が多かったが、特に主体部上部の東端にあたる部分からは土器がまとまって出土した。出土状態はいずれも破砕した状態であったが、２っの器台はほぼ全容を把握できるまでに復元された。また、ガラス玉も４点は出土位置が把握でき、出土位置がいずれも土壙の東よりであることから、或いは埋葬頭位は東を向いていると推測できる。

（2）出土遺物

出土した土器片の内、形態の解るものや特徴のあるもの10点を図示した。１と２はいわゆる小形精製土器群の器台であり、２は小形であるが１は通常のものに比べやや大きく中型とも捉えられる土器である。いずれも赤彩を施しているが、在来の箱清水式土器の色合いとは異なり、２は発色が弱く薄い色であるのに対し、１は一部黒ずんだような赤色が施されている。形態はいずれも脚部が緩やかに開き、器受部の口縁端部は丁寧なミガキと共に明瞭な面取りが施してある。３は高坏の坏部破片と考えられる。丁寧なミガキと赤彩が施されており、赤彩は箱清水土器的な色合いである。４は大型の高坏坏部で５は脚部と考えられる。胎土・焼成が似るため同一として復元実測したが、異なる個体である可能性はある。いずれもミガキと赤彩が施されているが、色合いは２と似る。６と７は小形の高坏の坏部と脚部であり、４・５と同様、同一個体と考え復元実測した。いずれも丁寧なミガキと赤彩が施されているが、色合いは２と似る。８は壺頸部破片であり、櫛描による横線文と波状文が描かれている。９も壺頸部の破片であり櫛描が行われ、３と同じ発色の赤彩が施されている。10は小形の椀か鉢であり、ややあらいミガキと赤彩が施されており、発色は３に似ている。

4．まとめ

今回調査された根々井大塚古墳は、佐久平はもちろん長野県内においても調査例が少ない弥生時代後期末～古墳時代初頭への過渡期における墳墓である可能性が高まった。ここでは墳墓の出土遺物から築造時期の推定と地域史の中での位置づけをおこないまとめとしたい。

（1）築造時期

本墳墓よりの出土遺物の内、時期を明らかにできる物としては墳頂部よりの一括出土遺物である土器群がある。特に器台２点はほぼ全容が把握できるため当器種より考えたい。ただ、現在までに当地域では器台の形態変遷について触れた報告書や論考は少く、これら２点の器台についての時間的位置づけに苦慮する。よって周辺地域も含め出土器台を集成し類似例から考察してみたい。器台の形態分類は基本的に『篠ノ井遺跡群』の器台Ａ類～Ｆ類の分類基準に従い、Ｂ類については『松原遺跡』の分類Ｂ１・Ｂ２の分類を基に細分した。これらの分類基準によると当遺跡の器台は『篠ノ井遺跡群』分類のＣ類に当たると考えられる。なお、出土例の集成は形態の把握できるものにかぎり、小片や脚部のみの例は扱わなかった。

第１表　器台形態別集成表

地　域	遺　　跡　　名	器台形態（●は赤彩）					備　　考
		A	B1	B2	C	D	
佐久市	池端城跡１号住居址	●					Ｓ字甕Ｃ・小型高坏（赤彩）
〃	宿上屋敷遺跡６号住居址		○				小型高坏・箱清水系譜無し
〃	今井西原遺跡１号住居址	○	○？				直口壺
〃	瀧の峰古墳群２号墳		●				小型高坏・箱清水系譜甕・壺
〃	藤塚古墳群４号墳		○				直口壺（赤彩）
〃	根々井大塚古墳				●		東海系壺・高坏
小諸市	五領Ｂ遺跡３号住居址		●				Ｓ字甕？・有段口縁壺
〃	竹花遺跡13号住居址	○					Ｓ字甕・箱清水系譜甕・赤井戸系土器？
〃	久保田遺跡Ｙ２号住居址	●					箱清水系譜壺
浅科村	砂原遺跡26号住居址				○		器台は北陸系（報告書）
東部町	東五町遺跡７号住居址	○					小型丸底坩
長門町	中道遺跡３号住居址				●？		北陸系土器を多く出土・玉造工房
上田市	茅御堂遺跡１号住居址	●					Ｓ字甕・小型丸底坩
〃	西光坊遺跡４号住居址				○		器台は越後系（信濃国分寺資料館図録）
〃	琵琶塚遺跡15号住居址						Ｓ字甕
〃	琵琶塚遺跡41号住居址		●	○			東海系壺・北陸系甕・直口壺
〃	大道下遺跡14号住居址	○	○	○			有段口縁壺・直口壺
〃	大道下遺跡53号住居址			○			
〃	浦田Ｂ遺跡30号住居址				○		東海系高坏・箱清水系甕・器台は東海系（報告書）
〃	浦田Ｂ遺跡37号住居址		○				有段口縁壺・小型丸底坩・箱清水系譜甕

以上の結果から千曲川上流域での器台出土に傾向があることが解る。まず、第１は明瞭に全容が解るＤタイプの器台は出土していない。次に赤彩されたものはＡとＢ１に偏る傾向にあり、Ｃタイプのものは本遺跡のみが赤彩されている。なお、Ｃタイプの器台については厳密な意味で『篠ノ井遺跡群』の分類基準に当てはまるものは無く、近似するものは本遺跡と西光坊遺跡と浦田Ｂ遺跡30号住居址の資料があるがこれらとて脚端部の内湾傾向が無い。では、これら器台の型式変化について考えてみたい。まず参考となる『松原遺跡』での記載で「長野盆地南部で在来化した小型器台の流れは、①赤彩→非赤彩、ﾍﾗﾐｶﾞｷ多様→粗雑化、②大型→小型、③器台Ａ→Ａ•Ｂ

→B・Dという流れが指摘される。」（ここで言うD類はX字脚を呈する器台を指している）というものである。また、比田井氏の「東国における小型器台を概観すると、その変化は脚部が高く全体的に縦長のものから、脚部が低くなるという流れと、受け部の形状の交替という観点からみることができる。」とし、受け部の変化は端部が面取りされるもの、丸く収められるもの、屈曲するもの等から、受け部外面に稜を持ち口縁部が僅かに外反するものの登場、そしてX型器台への変化として捉えられている。

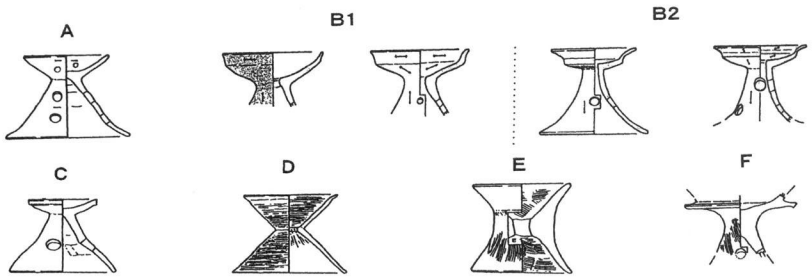
これらの論考を参考とすると他の器種との組成を比較検討しなければ正確なことは言えないが、当地域の器台も先に指摘されたと同じような変化をたどるものと考える。ただ、Cﾀｲﾌﾟについては長野盆地北部にある七瀬遺跡・柳町遺跡・牛出古窯・牛出遺跡より出土したものの中に近似するものが見受けられ、それらの位置づけは器台の出現期から定着期（『牛出遺跡』第3段階、第4段階）とされている。この様な結果をもとに考えると当地域の器台の変化は①赤彩→非赤彩、ﾍﾗﾐｶﾞｷ多様→粗雑化、②大型→小型、③器台C・A→A・B→Bとして捉えられると考え、根々井大塚古墳出土の2点の器台は当地域の中では出現期のﾀｲﾌﾟに属し、僅差ではあるが瀧の峰古墳群2号墳よりは古相であると考えられる。よって本墳墓は在地箱清水系譜の壺・甕が変容し、外来系土器である東海系の高坏や小型器台が出現してくる時期に当たり、他地域の編年にてらせば長野盆地南部の4期『北平1号墳』、長野盆地北部では第4段階『牛出遺跡』あたりに並行するものと考えられる。なお、東海地方の廻間編年において考えると、出土した器台や高坏の脚部は既に内湾傾向がなく外側に開く形態であり、高坏坏部が深い事など古い様相もみられるが概ね廻間Ⅱ式後半～Ⅲ式前半ぐらいが相当すると考えられる。

（2）地域史の中での位置づけ

根々井大塚古墳は青木氏が指摘するところの「山上墓」に相当する。墳形は方形を呈するものの、供献土器のあり方や築造時期は北平1号墳や瀧の峯2号墳に共通するところが多い。とすると名称も根々井大塚古墳と言うよりは、青木氏が提唱する「方形墳丘墓」の語句を用いて「根々井大塚方形墳丘墓」とした方が遺跡の性格を端的に示していると考える。先の築造時期の考察より根々井大塚を北平編年4期としたが、この期は千曲川流域において東海系土器群の流入が起こり、弥生箱清水期からの在来の土器群の変容と外部からの影響により発生したと考えられる方形周溝墓（青木氏の方形墳丘墓）が出現し、また集落とは隔絶した山や丘陵上には前方後方型墳丘墓が造られている。まさにこれと相前後して松本平では弘法山古墳が造営される。この様に根々井大塚方形墳丘墓は佐久平において東海系土器群の流入の下、初めて外来系の土器を多用し集落とは隔絶された場所で葬送儀礼を行った墳墓といえるのかもしれない。それはとりも直さず佐久平の弥生社会が古墳時代へと移行する胎動の現れと理解できる。

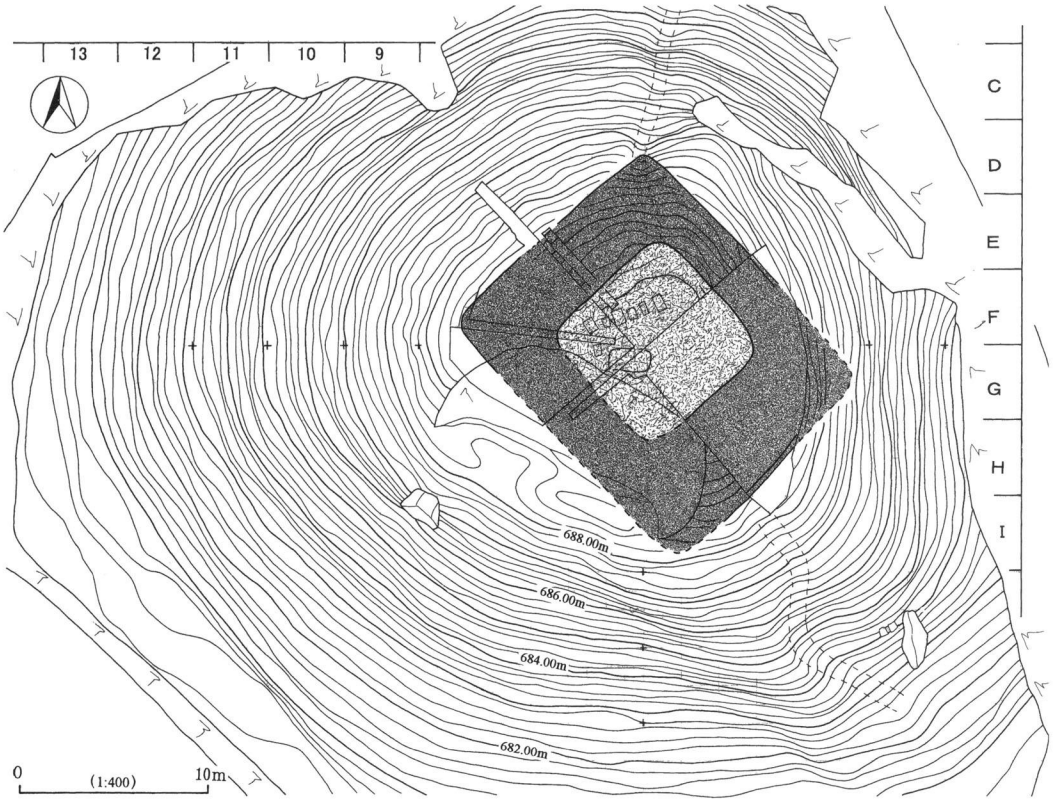
今回の調査は試掘調査であり、墳丘や主体部の確認には制約もあった。よって今後に学術的調

査等の機会があればより詳細で確実な調査成果が得られるであろう。それによっては墳形や葬送儀礼用の土器群組成の見直しも迫られるかもしれない。しかし、今回の調査成果である「根々井大塚古墳が瀧の峯古墳群と並ぶ貴重な墳墓であること」にかわりはない。紙面の都合で今回は事実報告のみとするが、千曲川上流域における弥生時代末～古墳時代前期の集落・土器・墳墓については改めて別稿を用意し、雑ぱくではあるがこれでまとめとしたい。



A・C～Fは「篠ノ井遺跡群」の分類基準
B1．B2は「松原遺跡」の分類基準

第７図　器台形態分類図



第８図　根々井大塚方形墳丘墓推定復元図

第２表　出土遺物観察表

番号	器　種	法　量(cm)			調整・整形	備　考
		口径	底径	器高		
1	器台	10.3	11.2	10.1	受け部端に明瞭な面取り。受け部と脚部外面は丁寧なミガキ。くびれ部分には横方向のミガキ。脚内面はナデ。	濃い赤彩 ３カ所に穿孔
2	器台	7.9	9.4	7.7	受け部端は僅かな面取り。受け部と脚部外面は丁寧なミガキ。くびれ部分には横方向のミガキ。脚内面はナデ。	薄い赤彩 ３カ所に穿孔
3	高坏 坏部	16.9	－	(4.5)	内外面ともに丁寧なミガキ。	濃い赤彩
4	高坏 坏部	26.6	－	(11.3)	坏部口唇部に面取りがある。坏部内外面に丁寧なミガキ。	薄い赤彩
5	高坏 脚部	－	11.5	(4.3)	脚部外面は丁寧なミガキ。脚内面はハケメの残るナデ。	薄い赤彩 ２カ所に穿孔
6	小型高坏 坏部	－	－	(1.1)	内外面は丁寧なミガキ	薄い赤彩
7	小型高坏 脚部	－	18.0	(5.4)	外面は横方向の丁寧なミガキ。内面削り。脚端部に面を有する。	薄い赤彩 ３カ所に穿孔
8	壺 頸部	－	－	－	細かな櫛による横線文と波状文（東海的櫛）	
9	壺 頸部	－	－	－	簾状文？（箱清水的櫛）	濃い赤彩
10	椀or鉢	10.9	－	3.2	ハケメの残るナデの後、内外面ややあらいミガキ	濃い赤彩

番号	種別	幅(cm)	長(cm)	重さ(ｸﾞﾗﾑ)	備考	番号	種別	幅(cm)	長(cm)	重さ(ｸﾞﾗﾑ)	備考
11	ガラス玉	0.69	0.50	0.39	藍色	16	ガラス小玉	0.42	0.31	0.09	スカイブルー
12	ガラス玉	0.75	0.55	0.46	藍色	17	ガラス玉	0.70	0.77	0.57	藍色
13	ガラス玉	0.63	0.62	0.45	藍色	18	ガラス玉	0.71	0.67	0.43	藍色
14	ガラス玉	0.77	0.58	0.50	藍色	19	ガラス玉	0.73	0.71	0.49	藍色
15	ガラス小玉	0.45	0.31	0.12	スカイブルー	20	ガラス小玉	0.69	0.66	0.45	藍色

引用・参考文献

赤塩　　仁　1994　『県道中野豊野線バイパス志賀中野有料道路埋蔵文化財報告書　栗林遺跡・七瀬遺跡』（財）長野県埋蔵文化財センター

土屋　　積　1998　『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書14　牛出遺跡・韮山遺跡・風呂屋遺跡・対面所遺跡・飛山遺跡・大谷地遺跡・八号堤遺跡』（財）長野県埋蔵文化財センター

青木　一男　1997　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書16　篠ノ井遺跡群　遺物編』

青木　一男　1996　『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書7　大星山古墳群・北平1号墳』

青木　一男　1998　『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5　松原遺跡　弥生総論6』

岩崎　卓也・林　　幸彦・三石宗一　1986　『瀧の峯古墳群』佐久市教育委員会

宇賀神誠司　1988　「長野県における古墳時代前期の地域的動向」『長野県埋蔵文化財センター紀要2』

青木　一男・宇賀神誠司　1993　「土器様相変化の素描」長野県考古学会誌69・70

比田井克仁　1993　「東国における外来土器の展開」『久保哲三先生追悼論文集　翔古論集』

加納　俊介　1993　「科野における古墳出現期研究の現状と課題」長野県考古学会誌69・70

赤塚　次郎　1990　『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第10集

赤塚　次郎　1994　「３・４世紀の東海地域」『東日本の古墳の出現』山川出版社

尾見　智志　1999　『浦田Ｂ遺跡』上田市教育委員会

倉沢　正幸　1992　「科野の古墳出現期の遺跡」『古墳出現期の文化－古代科野を中心として－』上田市立信濃国分寺資料館

塩入秀敏他　1995　「第五編　古墳時代」『上田小県誌』第６巻歴史篇上（一）考古

出土資料のみ扱った掲載報告書については紙面の関係で割愛させていただいた。

①古墳全景（東より）

手前東側が道路により削平され急斜面となっている。

②墳頂部全景（南より）

向かって東側が表土を除去した状況。ビニール袋は土器出土地点

②墳頂部全景（西より）

向かって右側は後世の攪乱により小さな段差が形成されている。

①墳頂部調査風景（南西より）

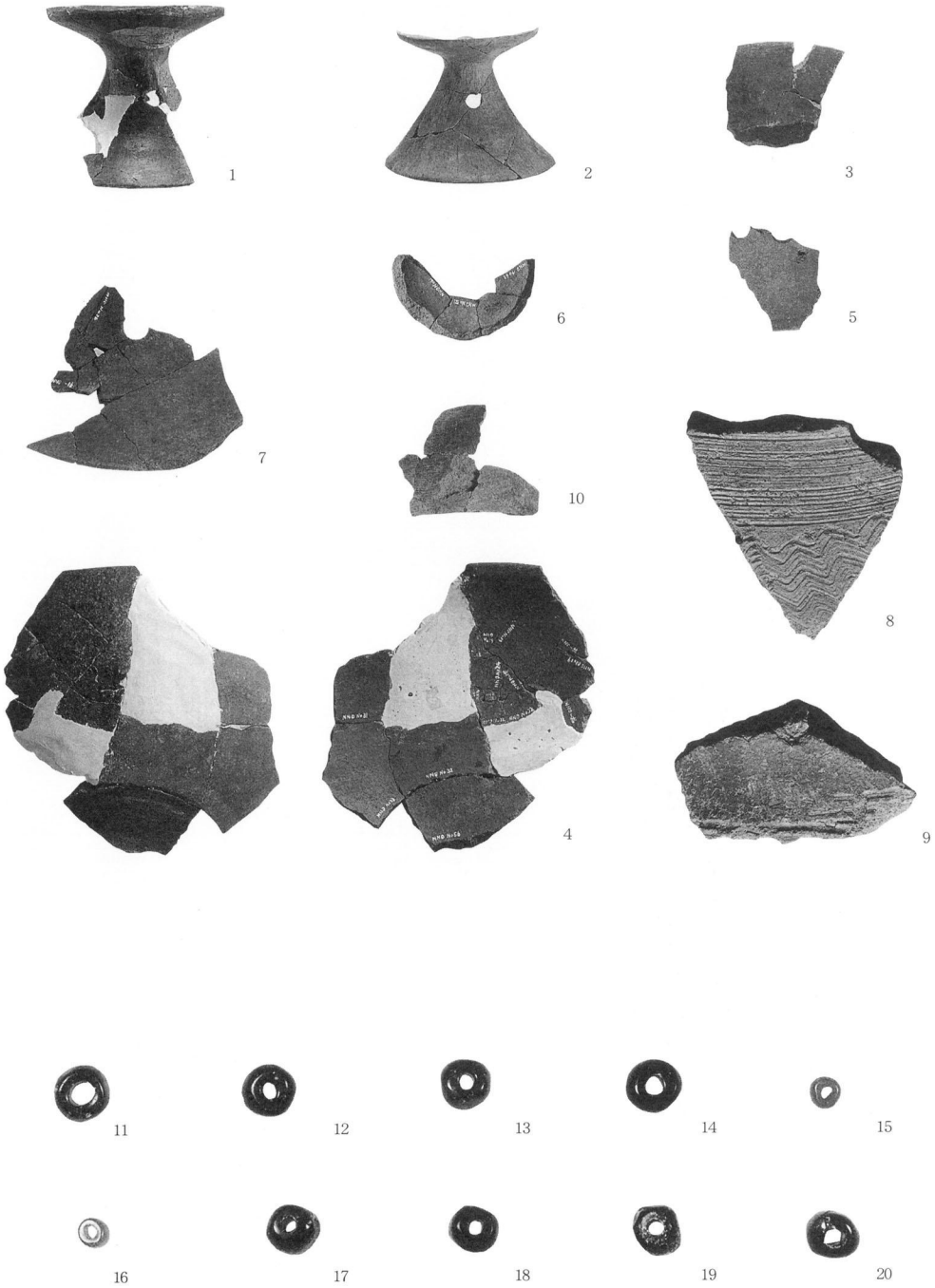
石の祠の前がサブトレンチ。このトレンチ内からはガラス玉が出土した。また、中央写る杭の手前には土器がまとまって出土した。

②土器出土状況（南より）

図示した器台等が破砕した状況で出土。

③南側墳端部（西より）

墳端部には小さな段差によるテラスが設けられていた。



（1～7.10は1/4　8.9.11～20は原寸）

① 根々井大塚古墳出土遺物

Ⅲ　一般文化財事業

1　体　制

佐久市教育委員会　文化財課

教　育　長　　依田　英夫

教育次長　　小林　宏三

文化財課長　　草間　芳行

文化財係長　　荻原　一馬

文化財係　　林　幸彦　須藤　隆司　小林　眞寿　羽毛田卓也
　　冨沢　一明　上原　学　山本　秀典　出澤　力

文化財保護審議会委員

会　長　　木内　寛

職務代理　　鈴木　公人　清水　岩夫　小林　徳雄　堀籠　好夫
　　小林　壽三　並木　良子　中沢　忠人　小栗　集

資料館協議会委員

会　長　　柳沢佐久平

職務代理　　黒沢　庫雄　小林　信男　木内　寛　並木　良子
　　柳沢　和敏　相沢　昭子　臼田　隆雄

2　調査事業費

平成11年度一般文化財事業費　　予算額　5,036,000円
　　決算額　5,024,555円

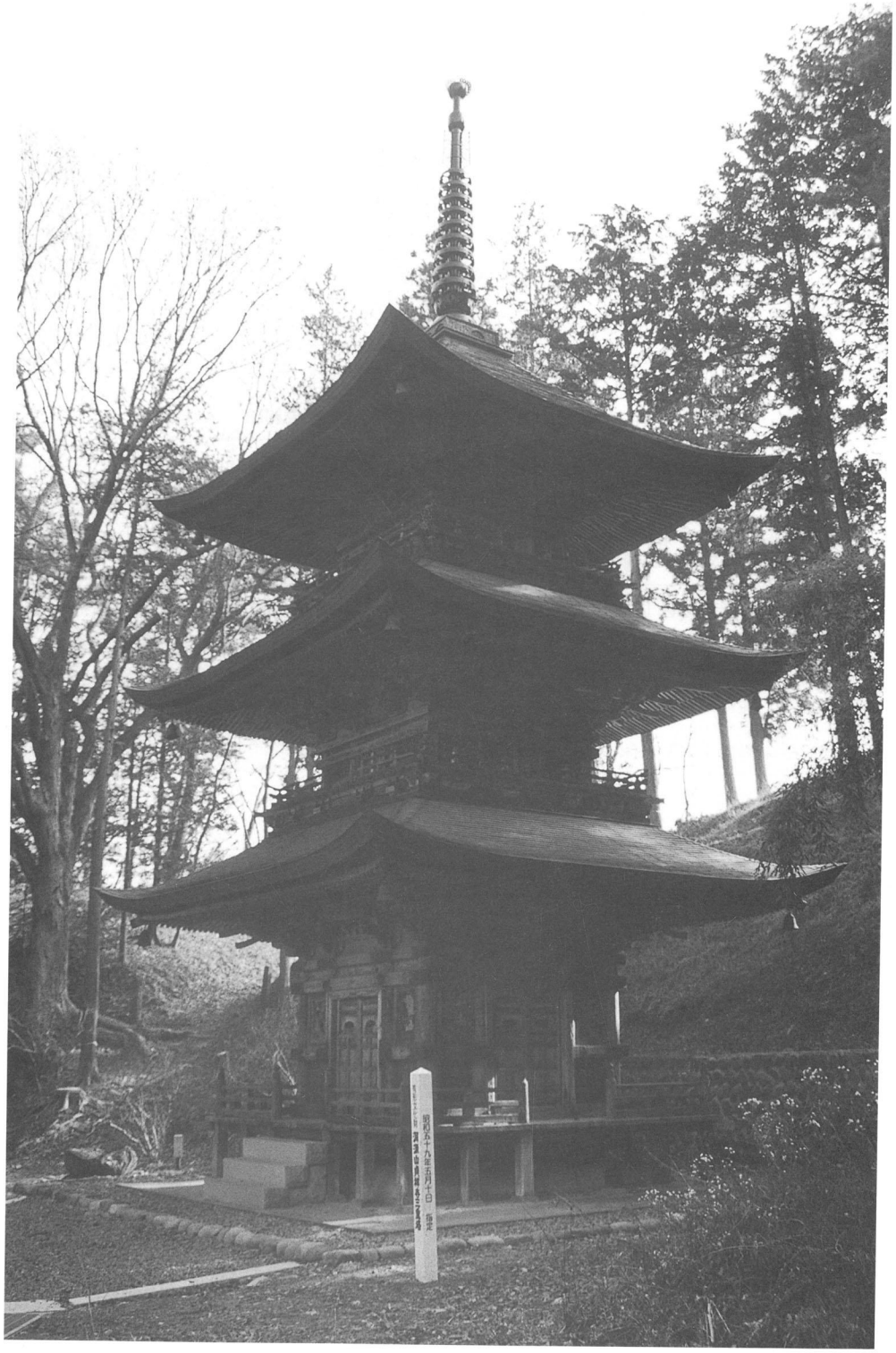
3　国・県・市指定文化財

No.	指定区分	文化財名	名　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
1	国指定	天然記念物	岩村田ヒカリゴケ自生地	1ケ所	岩村田	佐久市	T 10. 3. 3
2	〃	史　跡	旧中込学校	1ケ所	中込	佐久市	S 44. 4. 12
3	〃	重要文化財	駒形神社本殿（附棟札4枚）	1棟	下塚原	駒形神社	S 24. 5. 30
4	〃	重要文化財	絵本着色一遍上人絵伝巻第二	1幅	野沢	金大寺	S 9. 1. 30

5	〃	重要文化財	絵本書他阿上人自筆仮名消息	1幅	野沢	金大寺	S 9. 1. 30
6	〃	重要文化財	旧中込学校(附 建築文書3点)	1棟	中込	佐久市	S 44. 3. 12
7	〃	重要文化財	鉄鐘	1	跡部	藤沢平治	S 52. 6. 11
8	国選択	無形民俗文化財	跡部の踊り念仏	1	跡部	跡部踊り念仏保存会	S 61. 12. 17
9	県指定	県　宝	木造地蔵菩薩半跏倚像	1躯	根々井	正法寺	S 44. 5. 15
10	〃	県　宝	木造阿弥陀如来坐像	1躯	岩村田	西念寺	S 34. 11. 9
11	〃	県　宝	木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像	3躯	安原	安養寺	H 6. 8. 15
12	〃	史　跡	三河田大塚古墳	1	三河田	故柳沢義一	S 37. 7. 12
13	〃	史　跡	伴野城址	1	野沢	大伴神社・佐久市	S 40. 4. 30
14	〃	史　跡	根々井氏館跡	1	根々井	正法寺	S 40. 7. 29
15	〃	史　跡	北高禅師墓碑	1基	岩村田	龍雲寺	S 44. 10. 2
16	〃	史　跡	大井城址（王城・黒岩城）	1	岩村田	個人34人	S 46. 5. 27
17	〃	史　跡	平賀城跡	1	常和	個人37人	S 46. 5. 27
18	〃	史　跡	岩尾城跡	1	鳴瀬	個人39人	S 46. 5. 27
19	〃	天然記念物	王城のケヤキ	1	岩村田	荒宿十二社	S 61. 3. 27
20	〃	県　宝	版本大般若経	582巻	安原	安養寺	S 63. 3. 24
21	〃	県　宝	洞源山貞祥寺三重塔	1	前山	貞祥寺	H 4. 9. 10
22	市指定	史　跡	安原大塚古墳	1基	安原	英多神社	S 45. 10. 1
23	〃	史　跡	大梅禅師墓碑	1基	内山	正安寺	S 45. 10. 1
24	〃	史　跡	鵜縄沢端一里塚東塚	1基	岩村田	関口芳幸	S 45. 10. 1
25	〃	天然記念物	白山神社のイチイ古樹	1	常和	白山神社	S 45. 10. 1
26	〃	天然記念物	野沢町の女男木	1	野沢	大伴神社	S 45. 10. 1
27	〃	有形文化財	竹田の鉦（一）	1	根岸	工藤光吉	S 45. 10. 1
28	〃	有形文化財	竹田の鉦（二）	1	根岸	工藤勇祐	S 45. 10. 1
29	〃	有形文化財	金台寺の鉦	1	野沢	金大寺	S 45. 10. 1
30	〃	有形文化財	下桜井村寛永の五人組帳	1	桜井	臼田繁雄	S 49. 12. 1
31	〃	有形文化財	平賀村中善寺大般若経	600巻	平賀	中善寺	S 49. 12. 1
32	〃	有形文化財	永禄十一年上原筑前御恩検地帳	1	瀬戸	柳沢譲	S 49. 12. 1
33	〃	有形文化財	桃源院木造地蔵菩薩坐像	1躯	南岩尾	桃源院	S 49. 12. 1

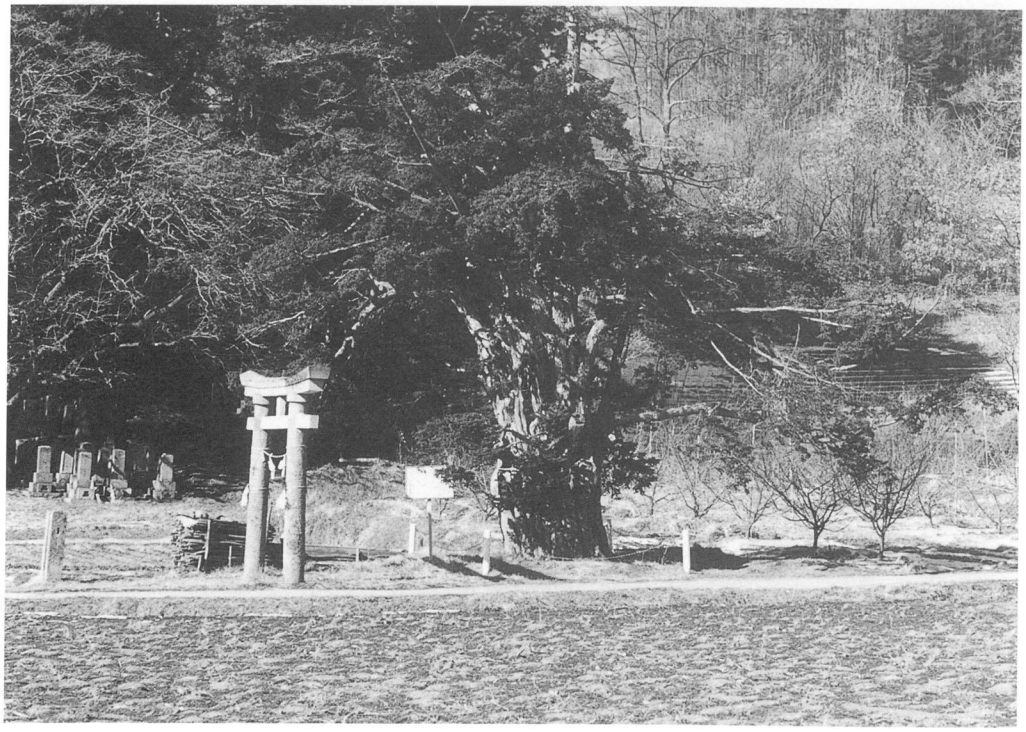
34	〃	有形文化財	平尾大社本殿	1棟	上平尾	平尾大社	S 49. 12. 1
35	〃	有形文化財	取手町百番観音	100躯	取手町	取手町区	S 49. 12. 1
36	〃	史　　跡	北西ノ久保の石像塔婆群	1群	岩村田	井上行雄	S 49. 12. 1
37	〃	史　　跡	正楽院の供養塔	1	平賀	長福寺	S 49. 12. 1
38	〃	名　　所	皎月原	1ケ所	小田井	佐久市	S 53. 2. 1
39	〃	天然記念物	チョウゲンボウ	2ケ所	伴野・鳴瀬	佐久市	S 53. 2. 1
40	〃	有形文化財	旧長命寺仁王堂応永在銘石柱	1基	大沢	長命寺	S 54. 9. 25
41	〃	史　　跡	前山城跡	1	前山	個人11人	S 56. 4. 23
42	〃	有形文化財	暦應在銘板碑	1	中込	正楽寺	S 57. 3. 1
43	〃	民俗無形文化財	岩村田祇園におけるお船様祭り	1	岩村田	荒宿区	S 58. 9. 1
44	〃	有形文化財	安養寺の木造法燈国師倚像	1躯	安原	安養寺	S 62. 10. 20
45	〃	有形文化財	安養寺の中世文書	7点	安原	安養寺	S 62. 10. 20
46	〃	有形文化財	龍雲寺の中世文書	38点	岩村田	龍雲寺	S 62. 10. 20
47	〃	有形文化財	東一本柳古墳出土遺物	147点	岩村田	佐久市	S 62. 10. 20
48	〃	有形文化財	上直路出土遺物	35点	岩村田	佐久市	S 62. 10. 20
49	〃	有形文化財	北西ノ久保遺跡出土の遺物	83点	岩村田	佐久市	S 62. 10. 20
50	〃	有形文化財	中道遺跡出土遺物	2点	野沢	佐久市	S 62. 10. 20
51	〃	有形文化財	周防畑B遺跡出土遺物	34点	長土呂	佐久市	S 62. 10. 20
52	〃	有形文化財	後沢遺跡出土遺物	26点	小宮山	佐久市	S 62. 10. 20
53	〃	有形文化財	瀧の峯古墳群出土遺物	31点	根岸	佐久市	S 62. 10. 20
54	〃	史　　跡	後沢遺跡	2基・5棟	小宮山	佐久市	S 62. 10. 20
55	〃	史　　跡	瀧の峯古墳群	1～4号	根岸	個人6名	S 62. 10. 20
56	〃	有形文化財	木造愛染明王坐像および脇侍木造両界大日如来坐像	3躯	志賀	法禅寺	H 1. 11. 6
57	〃	有形文化財	大井法華堂修験関係文書	859点	岩村田	大井道也	H 1. 11. 6
58	〃	有形文化財	旧大沢小学校	1棟	大沢	佐久市	H 8. 6. 6
59	〃	有形文化財	倉沢薬師堂(本殿、宮殿、石像薬師如来立像、加舎白雄自筆奉納俳額)	4点	前山	貞祥寺	H 10. 4. 30
60	〃	有形文化財	正法寺多層塔	1基	根々井	正法寺	H 10. 12. 28

国指定7件　　国選択1件　　県指定13件　　市指定39件　　合計60件



有形文化財　洞源山貞祥寺三重塔

有形文化財　旧大沢小学校



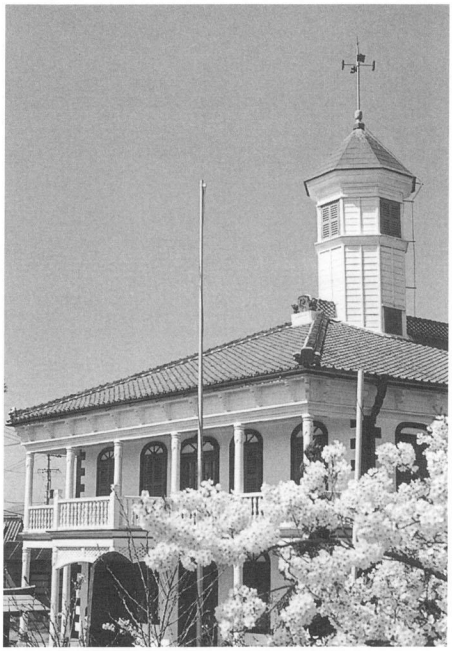
天然記念物　白山神社のイチイ古樹

4　普及・公開事業

旧中込学校・藤村旧宅入館者状況

	開館日数	入館者数
旧中込学校	288日	10,289人
藤村旧宅	130日	2,282人

藤村旧宅



旧中込学校

Ⅳ　庶務日誌

平成11年

4月1日　資料館協議会委員任命（臼田隆雄委員）

4月4日　跡部踊り念仏　例会（教育長、文化財課長、生涯学習課長出席）

4月5日　調査員委嘱式

4月8日　旧中込学校保存会総会出席（課長、係長、係）

4月6日　発掘調査開始

4月12日　平成10年度補助事業実績報告（県庁）

4月13日　ＦＭ佐久平出演

４月16日　調査員健康診断

４月28日　大沢小学校、旧中込学校　消防器具点検

４月30日　月例会

５月17日　サクラソウ現地視察（教育長、課長、係、常和区長外）

５月30日　月例会

６月１日　浦和市教育委員会　サクラソウ現地視察（案内）

６月28日　中込大塚古墳、旧中込学校　アメシ口防除

６月29日　月例会

７月７日　旧中込学校に対する要望事項について（回答）及び旧中込学校保存会三役との懇話会（教育長、課長、係長、係、保存会三役）

７月16日　正法寺現状変更許可申請（進達）

７月26日　月例会

７月30日　文化財パトロール（県文化財保護指導委員：出浦晃彦）

８月３日　文化財パトロール（県文化財保護指導委員：小池幸夫）

８月20日　文化財保護審議会

８月31日　正法寺工事立会（墓地造成）・月例会

９月６日　中込大塚古墳、旧中込学校アメシ口防除

９月13日　県議会議員旧中込学校視察（宮沢、柳田県議外７名）

９月17日　伊那市文化財保護審議会委員視察（旧中込学校）

９月24日　月例会

９月27日　資料館協議会（柳沢佐久平委員外７名）

10月７日　ＦＭ佐久平出演（佐久市の文化財について）

10月21日　大沢小学校、旧中込学校　消防器具点検

10月29日　月例会

11月11日　文献資料保存活用講習会（長野県立歴史館）

11月12日　天皇陛下御在位10年を記念する旧中込学校無料公開

11月30日　文化財パトロール（県文化財保護指導委員：小池幸夫）

12月６日　文化財保護審議会

12月27日　課の仕事納め

12月28日　月例会

平成12年

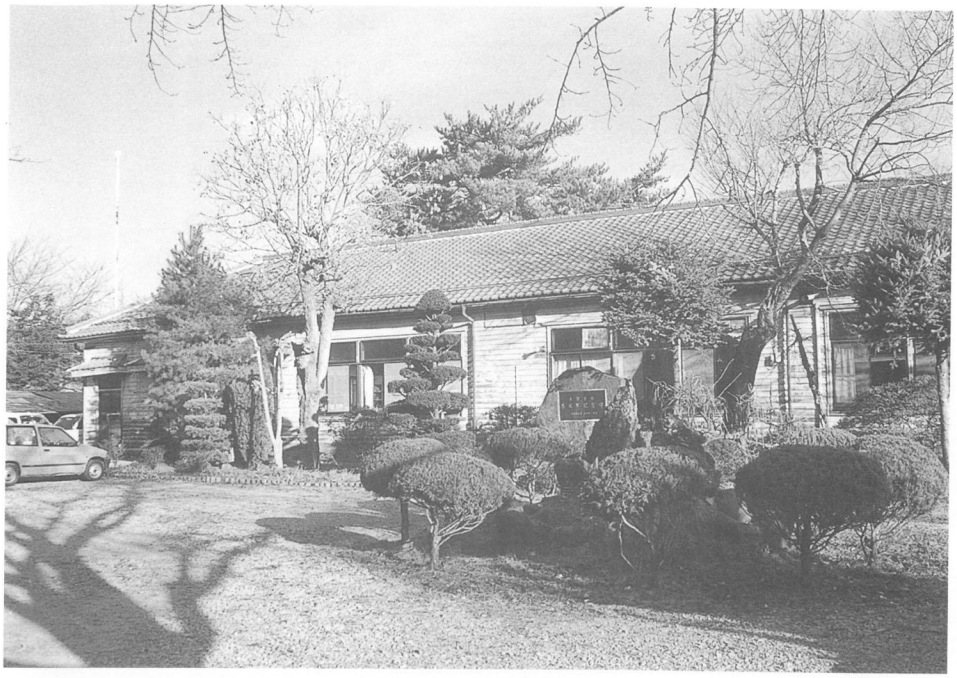
１月７日　課の仕事始め

1月8日　妙楽寺八日講出席（課長、文化財保護審議会長木内寛、職務代理鈴木公人）
1月19日　文化財防火デー（重要文化財：駒形神社において放水訓練実施）
2月2日　月例会
2月16日　ＦＭ佐久平出演（年度報告会について）
2月18日　年度報告会
2月28日　月例会
2月29日　諏訪市文化財保護審議会委員視察（旧中込学校）
　　ＦＭ佐久平出演（発掘調査作業員の募集について）
3月17日　月例会・佐久地区文化財担当者会議（小海町総合センター）
3月23日　前山貞祥寺　山門・総門現地調査（木内寛外２名、課長、係長、係）
3月24日　課の年度納め
3月29日　ＦＭ佐久平出演（跡部踊り念仏について）
3月31日　跡部踊り念仏　練習視察（文化庁　吉田技官、課長、係）

Ⅴ　施　設

平成２年に野沢旧水道企業団跡地より旧志賀小学校跡地に移り現在に至る。施設は旧志賀小学校の一部を改修・修繕して使用。平屋の事務所棟（南校舎）は明治34年に、２階建ての北棟は大正12年に造築された校舎である。平成９年には北棟の一部が老朽化のため度重なる修繕の甲斐なく取り壊しとなり、新たに平屋の整理室（２部屋）を増設した。

施設面積　8,050㎡（グランドは除く）
事務室１室（２室分）、管理・更衣室・事務用品倉庫　１室、図書室　１室、資料展示室　１室
調査整理室　15室（平成９年度４室を解体、２室増室）　水洗室　２室、スタジオ　１室
保存処理室　１室、木製品収蔵室　１室、機械整備室　１室、機器材倉庫２箇所
測量用具倉庫　１室、大型遺物収蔵庫　１棟、耐火収蔵庫　１室、　小倉庫　２室
防火器具庫　２箇所、防火水槽　１箇所、給湯施設　３箇所、屋内トイレ　２箇所
屋外トイレ　２箇所、休憩室　１室、シャワー室　１室

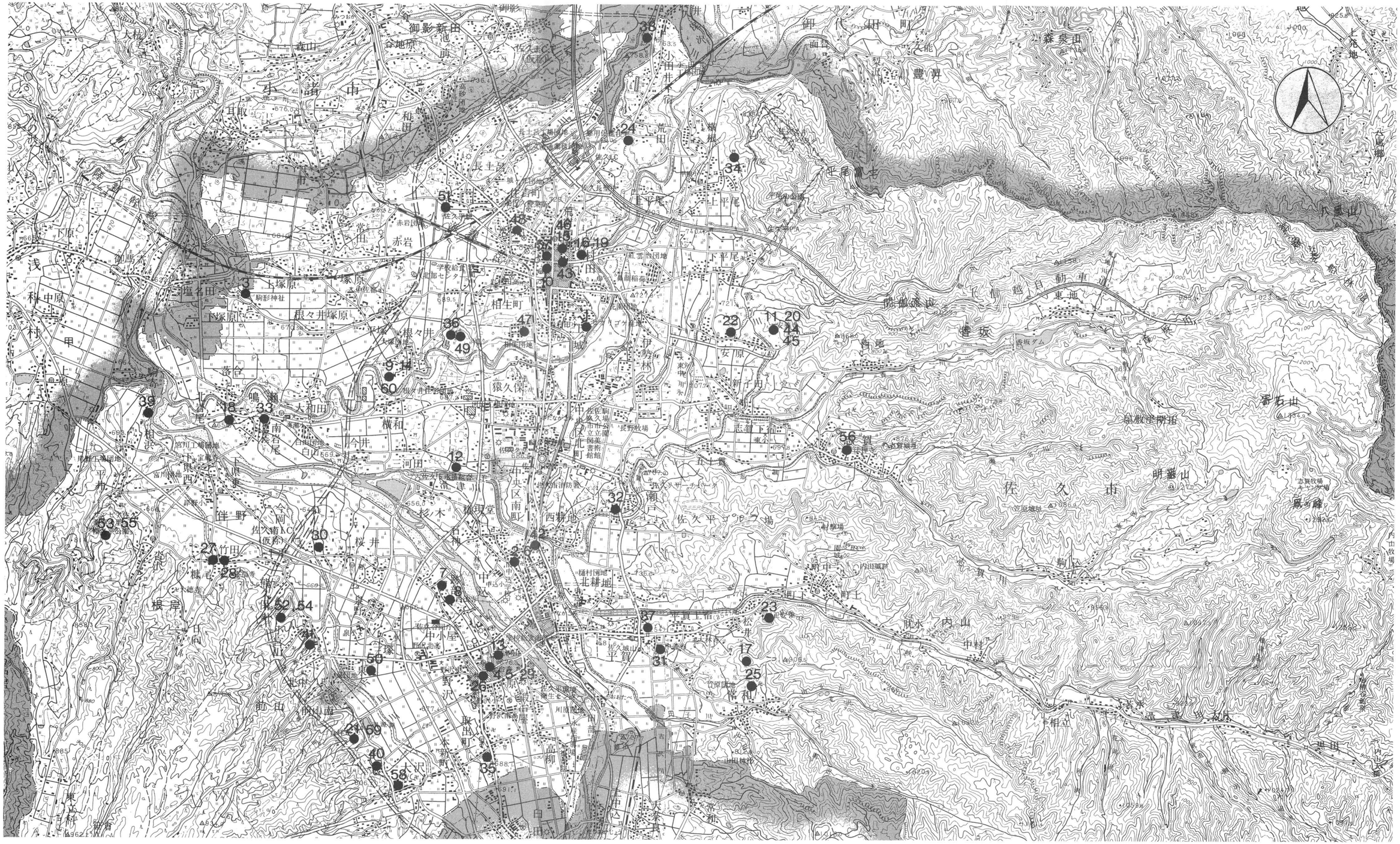


文化財事務所南棟（南東から）

文化財事務所北棟（東から）

文化財事務所（南棟から北棟を望む）

文化財事務所遺物収蔵庫　476㎡



佐久市指定文化財位置図（1:50,000）　P 123　国・県・市指定文化財参照

佐久市文化財　年報９

平成11年度

2001年３月31日

編集・発行　佐久市教育委員会

〒385－8501　長野県佐久市大字中込3,056

文化財課

〒385－0006　長野県佐久市大字志賀5,953

TEL（0267）68－7321

印　　刷　株式会社 中信社